

令和8年度 市単独事業 市場体育館大規模改修工事

図 面 目 録					
図面番号	図面名称	縮 尺	図面番号	図面名称	縮 尺
	営繕工事共通仕様書		A-33	コトライン 改修前	1/100
	建築改修工事特記仕様書	-	A-34	コトライン図 改修後	1/100
A-01	改修前配置図・附近見取図・仮設計画図	-	A-35	バスケットコート詳細図	1/30
A-02	改修後配置図・附近見取図	1/300	A-36	屋根改修詳細図 1 改修前・改修後	1/30
A-03	仕上表 改修前・改修後	1/300	A-37	屋根改修詳細図 2 改修前・改修後	1/30
A-04	平面図 改修前	-	A-38	屋根改修詳細図 3 改修前・改修後	1/30
A-05	平面図 改修後	1/100	A-39	部分詳細図 1 改修前・改修後	1/30
A-06	ギャラリー平面図 改修前	1/100	A-40	部分詳細図 2 改修前・改修後	1/30・1/100
A-07	ギャラリー平面図 改修後	1/100	A-41	部分詳細図 3 改修前・改修後	1/10・1/30・1/100
A-08	屋根伏図 改修前	1/100			
A-09	屋根伏図 改修後	1/100	E-01	電気設備工事特記仕様書	-
A-10	立面図 1 改修前・改修後	1/100	E-02	分電盤単線結線図（改修前、改修後）	-
A-11	立面図 2 改修前・改修後	1/100	E-03	照明器具参考姿図	1/100
A-12	立面図 3 改修前・改修後	1/100	E-04	1 階電灯設備図（改修後）	1/100
A-13	立面図 4 改修前・改修後	1/100	E-05	2 階電灯設備図（改修後）	1/100
A-14	断面図 1 改修前・改修後	1/100	E-06	1 階電灯設備図（改修前）	1/100
A-15	断面図 2 改修前・改修後	1/100	E-07	2 階電灯設備図（改修前）	1/100
A-16	断面図 3 改修前・改修後	1/100	E-08	1 階コンセント設備図（改修後）	1/100
A-17	断面図 4 改修前・改修後	1/100	E-09	2 階コンセント設備図（改修後）	1/100
A-18	天井伏図 1 改修前	1/100	E-10	1 階コンセント設備図（改修前）	1/100
A-19	天井伏図 1 改修後	1/100	E-11	2 階コンセント設備図（改修前）	1/100
A-20	天井伏図 2 改修前	1/100	E-12	照明器具・換気扇、引込み開閉盤（現況撤去）、電灯分電盤 L-1（現況改修）	-
A-21	天井伏図 2 改修後	1/100	E-13	1 階換気設備図（改修前・改修後）、換気機器表	1/100
A-22	建具キープラン 1 改修前	1/100			
A-23	建具キープラン 1 改修後	1/100	M-01	機械設備工事特記仕様書	-
A-24	建具キープラン 2 改修前	1/100	M-02	給排水設備屋外配管図	1/300
A-25	建具キープラン 2 改修後	1/100	M-03	給排水設備 1 階平面図	1/100
A-26	建具表 1	1/100	M-04	桁表、機器表、器具表	-
A-27	建具表 2	1/100	M-05	給排水設備撤去屋外配管図	1/300
A-28	展開図 1	1/100	M-06	給排水設備撤去 1 階平面図	1/100
A-29	展開図 2	1/50	M-07	浄化槽詳細図	1/30
A-30	展開図 3	1/50	M-08	浄化槽撤去詳細図	1/30
A-31	展開図 4	1/50			
A-32	トイレ改修詳細図 改修前・改修後	1/50			

工事名：市場体育館大規模改修工事

営繕工事共通仕様書

Ⅰ. 工事概要

1. 工事名称
市場体育館大規模改修工事

2. 工事場所
阿波市市場町市場 市場体育館

3. 建物概要	
建物名称	市場体育館
構造・規模	RC造1階建て一部鉄骨造 地上1階
敷地面積	
延床面積	888(m ²)
消防法施行令別表第1の区分	(15項)

4. 工事種目	
種目	工事概要
防水	折板屋根改修(カバー工法)、屋上防水改修
外装	外壁ひびわれ補修、外装改修
内装	トイレ様式化、多目的トイレ設置、内装改修、ハスケットコート撤去、ユーライン改修

5. その他
本工事は、資材価格高騰に対する特例措置について(令和4.12.9建設第686号)に基づく特例措置の対象工事である。

Ⅱ. 営繕工事共通仕様書

1. 適用基準
図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の下記による。
 - 公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 令和4年版(以下「標準仕」という。)
 - 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編) 令和4年版
 - 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編) 令和4年版
 - 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 令和4年版(以下「改撰仕」という。)
 - 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編) 令和4年版
 - 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編) 令和4年版
 - 木造建築工事標準仕様書 令和4年版
 - 建築物解体工事共通仕様書(令和4年版)・同解説 令和5年版
 - 建築工事標準詳細図 令和4年版(以下「標準図」という。)
 - 公共建築設備工事標準単価(電気設備工事編) 令和4年版
 - 公共建築設備工事標準単価(機械設備工事編) 令和4年版
 - 敷地調査共通仕様書 令和4年版

- また、次の図書(国土交通大臣官房官庁営繕部監修)を参考とする。
- 建築工事監理指針 令和4年版(以下「監理指針」という。)
 - 建築改修工事監理指針 令和4年版
 - 電気設備工事監理指針 令和4年版
 - 機械設備工事監理指針 令和4年版

2. 優先順位
設計図書の優先順位は、次の順とする。
 - ① 質問回答書(②から⑤に対するもの)
 - ② 補足説明書
 - ③ 特記仕様書(営繕工事共通仕様書を含む)
 - ④ 図面
 - ⑤ 公共建築工事標準仕様書等

3. 工事実績データの登録
① 受注者は、請負代金額が500万円以上の工事については受注・変更・しゅん工・訂正時に、工事実績情報サービス(コリンズ)に基づき、工事実績情報として登録のための確認のお願いを作成し監督員に提出して内容の確認を受けた上、次の期限までに登録機関に登録しなければならない。
受注時は、契約後、土曜日、日曜日、祝日等を除き14日以内とする。
 - 登録内容の変更時は、変更があった日から土曜日、日曜日、祝日等を除き14日以内とする。
 - しゅん工時は、工事しゅん工承認後、土曜日、日曜日、祝日等を除き14日以内とする。
 - 訂正時は、適宜とする。なお、変更登録は工期、技術者に変更が生じた場合に行うものとし、請負代金額のみの変更の場合は、原則として登録を必要としない。
② 受注者は、実績登録完了後、登録機関発行の「登録内容確認書」が受注者に届いた際には、速やかに監督員に提示しなければならない。
なお、変更時としゅん工時の間が14日間に満たない場合は、変更時の提示を省略できる。

4. 工程表
受注者は、契約書に基づき工程表を契約締結後14日(土曜日、日曜日、祝日等を除く。)以内に提出すること。

5. 工事の着手
受注者は、設計図面に定めのある場合、又は特別の事情により発注者の承諾があった場合を除き、工事開始日以降30日以内に工事に着手しなければならない。
なお、工事開始日とは、契約書に明示した着工の日(特記仕様書において着工の日を別に定めた場合にあつては、その日)をいう。

6. 施工計画書等
① 施工に先立ち、実施工程表、工事の総合計画をまとめた総合施工計画書及び工種別施工計画書並びに施工図等を作成し、監督員に提出し、監督員の承諾を受けること。
② 上記の施工計画書には、「地下埋設物等の近接作業に関する事項」を設けること。

設計者情報：株式会社 平島弘之＋TEAM28 阿波支店 管理建築士 岩佐浩司 番号 326775

工事名：市場体育館大規模改修工事

- ③ 施工図、現寸図、見本等を、工事の施工に先立ち作成し、監督員の承諾を受けること。

7. 下請負人の選定
① 受注者は、本工事の一部を下請に付する場合は、工事の施工に十分な能力と経験を有した者を選定すると共に、徳島県内に主たる営業所を有するものの中から優先して選定するように努めなければならない。なお、請負対象額(設計金額)が1億円以上の工事については、徳島県内に主たる営業所を有するもの以外と下請契約する場合に、県内業者を選定しない理由を記した理由書を事前に監督員に提出しなければならない。
② 受注者は、本工事の全部若しくは一部について、指名停止期間中の有資格業者と下請契約を締結してはならない。(なお、有資格業者とは、建設工事の請負契約に係る一般競争入札及び指名競争入札参加資格審査要綱(昭和58年1月18日徳島県告示第50号)第5条の規定により参加資格の認定を受けた者をいう。)

8. 施工体制台帳及び施工体系図
① 施工体制台帳の作成
受注者は、下請契約(以下(3)及び(4)の場合を含む。)を締結した場合は、施工体制台帳及び再下請負通知書(以下「施工体制台帳」という。)を自らの責任において作成・保存するとともに、施工体制台帳を工事現場に備え置かなければならない。
② 施工体系図の作成及び提示
受注者は、下請契約(以下(3)及び(4)の場合を含む。)を締結した場合は、各下請負者の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し、公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律に従って、工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

- ③ 警備業者の記載
受注者は、交通誘導警備員を配置するときは、警備業者を含めて施工体制台帳及び施工体系図を作成・保存しなければならない。
④ 運搬業者の記載
受注者は、土砂等を運搬する大型自動車に配置するときは、運搬業者を含めて施工体制台帳及び施工体系図を作成・保存しなければならない。
⑤ 施工体制台帳及び施工体系図の提出
受注者は、施工体制台帳の写し及び施工体系図の写しを、下請契約を締結したときは下請契約日から、内容に変更が生じたときは変更が生じた日から、いずれも土曜日、日曜日、祝日等を除き14日以内に監督員に提出し、確認を受けなければならない。ただし、提出日について、監督員が承諾したときはこの限りではない。
⑥ 再下請負通知書を提出する旨の書面の提示
受注者は、再下請負通知書を提出する旨の書面を、工事現場の公衆が見やすい場所に掲示しなければならない。

9. 電気保安技術者等
① 電気保安技術者は次の者とし、必要な資格又は同等の知識及び経験を証明する資料により、監督員の承諾を受けること。
 - 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。
 - 一般用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第1種又は第2種電気工事士の資格を有する者とする。
- ② 工事用電力設備の保安責任者を関係法令に従って有資格者を定め、監督員に報告すること。

10. 施工中の安全確保
① 工事関係図書及び監督員から指示された事項等については、施工に携わる下請負人にも十分周知徹底すること。
② 工事現場における現場代理人、監理技術者、主任技術者の確認のため名札を着用すること。名札には現場代理人、監理技術者、主任技術者の別、氏名、会社名、工事名を記載し、顔写真を添付すること。
③ 工事現場の安全衛生管理については、労働安全衛生法等関係法令等に従って行うこと
④ 工事の施工に伴う災害及び公害の防止は、建築基準法、労働安全衛生法、騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、建設工事公衆災害防止対策要綱(令和元年9月2日付)国土交通省告示第496号)、建設副産物適正処理推進要綱(平成5年1月12日 建設省建経発第3号)その他関係法令に従い適切に処理すること。
⑤ 受注者は、工事の施工箇所及びその周辺にある地上地下の既設構造物について工事(仮囲い等仮設材設置を含む)着手までに調査を行い、「支障物件確認書」を監督員に提出し、監督員の確認を受けてから工事着手すること。
⑥ 地下埋設物への影響が予想される場所では、施工に先立ち、原則として試掘を行い、当該埋設物の種類、位置(平面・深さ)、規格、構造等を確認しなければならない。
⑦ 受注者は、工事箇所及びその周辺にある地上地下の既設構造物に対し、支障を及ぼさないような措置を施さなければならない。万一、損傷を与えた場合は、ただちに監督員に報告するとともに、施設の運営に支障がないよう、受注者の負担でその都度補修又は補償すること。
⑧ 受注者は、重量が100kg以上のものを貨物自動車に積む作業(ロープ掛けの作業及びシート掛けの作業を含む。)又は貨物自動車から卸す作業(ロープ解きの作業及びシート外しの作業を含む。)を行うときは、当該作業を指揮する者を定め、監督員に報告しなければならない。
⑨ 受注者は、機械等を貨物自動車に積み込む作業又は貨物自動車から卸す作業を行う場合は、当該作業を指揮する者を定め、指揮者の合図により行わなければならない。また、作業状況について、写真等の資料を整備及び保管し、監督員の請求があったときは、直ちに提示しなければならない。
⑩ 受注者は、輸送経路等において上空施設への接触事故を防止するため、重機回送時の高さ、移動式クレーンのブームの格納、ダンポトラックの架台の下ろし等について、走行前に複数の作業員により確認しなければならない。
⑪ 受注者は、ドラック(クレーン装置付)を使用する場合は、上空施設への接触事故防止装置(ブームの格納忘れを防止(警報)する装置、ブームの高さを制限する装置等)付きの車両を原則使用しなければならない。なお、使用できない場合は事前に監督員と協議を行うこと。
⑫ 休日、夜間に作業を行う時は、事前に「休日・夜間作業届」を監督員に提出すること。
⑬ 受注者は、工事期間中安全監視を行い、工事区域及びその周辺の監視あるいは連絡を行い、安全を確保するとともに工事現場における盗難防止の観点から、資機材の保管状況等についても併せて確認すること。また、監督員から「資機材保管計画書」(自由様式)の提出を求められた場合には、速やかに提出すること。
⑭ 受注者は、高さが2m以上の箇所で作業を行う場合は、墜落防止に留意し、作業日毎に「墜落防止チェックシート」を活用して点検を行い、その記録を保管すること。
⑮ 仮囲いを設置する場合は、設置後に「當該課発現場安全再確認シート」を活用して点検を行い、その記録を保管すること。
⑯ 上下作業や直下階の施設を利用しながらの直上階(天井)のスラブはつり工事は、原則禁止とする。やむを得ず行う場合は、飛来落下の危険を生じるおそれがあるため、適切な防護措置を講じ安全確保を図り、施工手順について監督員の承諾を得たうえで、指定された時間に行うこと。

- ⑰ 受注者は、足場を設置する場合は組立、解体時において、作業前に施工手順を確認し、倒壊や資材落下に対する措置を講じなければならない。特に、飛来落下の恐れのある木やメッシュシート等の資機材については、足場の上に仮置きせず、設置又は荷下ろすするまでは、番線等により固定を行うこと。また、強風、大雨、大雪等の悪天候のため、作業の実施について危険が予想されることでは、作業を中止すること。
⑱ 作業にあたって労働災害、公衆災害の事故リスクと対応方法について監督員と協議すること。
⑲ 既設配管等を破壊させた場合の停電、断水等の影響範囲及び破壊防止のための対策について関係者と協議すること。
⑳ 事故により、停電、断水等が発生することを考慮し、施設休業日に作業すると、作業日を施設管理者と協議すること。
㉑ 給水管近傍の作業で給水管を破壊する恐れがある場合は、給水バルブの止水状況を確認するとともに、事故による漏水に備えて直下階や近傍の重要備品について養生や移設について協議すること。

11. 交通安全管理
① 輸送災害の防止
受注者は、工事用車両による土砂、工事用資材、機械等の輸送を伴う場合は、関係機関と打合せを行い、交通安全に関する担当者、輸送経路、輸送期間、輸送方法、輸送担当者、交通誘導員の配置、標識、安全施設等の設置場所その他安全輸送上の事項について計画について計画を立て、災害の防止を図らなければならない。特に、輸送経路にある既設構造物に対して損害を与えるおそれがある場合は、当該物件およびその位置と必要な措置について工事着事前に監督員に報告しなければならない。
② 過積載による違法運行の防止
受注者は、過積載による違法運行の防止に関し、特に次の事項について留意し、下請負業者を指導すること。
 - 積載重量制限を超えた土砂等の積み込みは行わないこと
 - さし枠装備車、不表示車は使用しないこと
 - 過積載車両、さし枠装備車、不表示車から土砂等の引き渡しを受けないこと
 - 建設発生土の処理及び骨材の購入に当たっては、下請業者及び骨材納入業者の利益を不当に害さないこと

設計者情報：株式会社 平島弘之＋TEAM28 阿波支店 管理建築士 岩佐浩司 番号 326775

共-02 営繕工事共通仕様書(2)

共-01 営繕工事共通仕様書(1)

- ・過精載による違法通行により、逮捕または起訴された建設業者は、指名停止措置を講ずる場合がある

12. 発生材の処理等

① 発生材の処理等は、次により適正に行う。

- 1) 工事による発生材のうち、文化財保護法に基づく物及び有価材と判断されるものについては、報告及び引き渡しを要する。
- 2) 上記以外の発生材は、建設工事に係る資材の再生資源化等に関する法律、資材の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設副産物適正処理推進条例その他関係法令等に従い処理すること。受注者は、工事で発生する産業廃棄物を保管する場合、または自ら運搬する場合等においては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の規定を遵守すること。図面に表示しないものについては、監督員に報告し指示を仰ぐこと。
- 3) 産業廃棄物の種類ごとの処分場については、各専門特記仕様書の1章一般共通事項「産業廃棄物の処理」又は「発生材の処理等」による。
- 4) 建設発生土の処理については、各専門特記仕様書の1章一般共通事項「建設発生土の処理」による。
- 5) 解体前、照明器具、変圧器及び進相コンデンサのPCBの有無を調査し、有れば、監督員の指示に従うこと。
- 6) 空調機等の整備や撤去処分を行う場合は、フロン剤の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律をはじめとする関係法令に基づき、作業や手続きを行う。家電リサイクル法に該当する機器については、家電リサイクル法により処理すること。
- 7) 受注者は、建設副産物が搬出される工事にあたっては、建設発生土は建設発生土搬出調書(様式3)、産業廃棄物は産業廃棄物管理票(マニフェスト)により、適正に処理されているを確認するとともに、監督員に建設発生土搬出調書を提出しなければならない。なお、監督員等の指示があった場合は直ちに産業廃棄物管理票の写しを提示しなければならない。

② アスベスト

- 1) 解体前到大気汚染防止法に基づくアスベストの特定建築材料に該当するものが使用されていないか調査し、あれば監督員の指示に従うこと。既存の分析調査結果がある場合は、受注者がその結果を書類等により確認すること。なお、工事内容に変更がある場合においても同様とする。

既存の分析調査結果の旨
 (あ) なし)
- 2) 事前調査を公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)15.1及び大気汚染防止法により行うこと。
 - ・結果を工務事前調査結果報告システムにより、労働基準監督署及び自治体に報告すること。監督員へも結果を提出するとともに、その写しを工事の現場に備置すること。
 - ・調査結果は3年間保存すること。
 - ・調査結果の概要を公衆が見やすい場所に掲示すること。
 - ・分析によりアスベスト含有調査を行う場合は、JIS A 1481-1によること。
- 3) 表示、掲示は次のとおり行うこと。
 - ・事前調査結果の概要を公衆が見やすい場所に掲示する。
 - ・「建築物等の解体等の作業に関するお知しを労働者及び周辺住民の見やすい場所に掲示する。
 - ・作業に従事する労働者への注意事項を見やすい場所に掲示する。
 - ・喫煙及び飲食の禁止並びに関係方以外立ち入り禁止について、作業場の見やすい箇所に掲示する。

③ 建設リサイクル法通知済証の掲示

受注者は、建設リサイクル法に基づく対象建設工事(特定建設資材を用いた建築物に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が建設リサイクル法施行令で定める基準上において、工事現場の公衆の見やすい場所から工事着手日まで「建設リサイクル法通知済証」を掲示し、工事しゅん工検査が終了するまで存置しておかなければならない。また、「建設リサイクル法通知済証」掲示後の全量写真または電子納品の対象書類とし、「徳島県電子納品適用ガイドライン(建築工事編)」に基づき提出すること。なお、「建設リサイクル法通知済証」は契約締結後から工事着手日まで1期間に発注者から支給することとする。

④ 資源の有効な利用の促進に関する法律(以下「資源有効利用促進法」という。))及び建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(以下「建設リサイクル法」という。))に基づく対応は、以下のとおり行うこと。

- 1) 受注者は、資源有効利用促進法に基づく建設業に属する事業を行う者の再生資源の利用に関する判断の基準となるべき事項を定める省令(H3.10.25建設省令第19号)第9条で規定される工事又は建設リサイクル法施行令第2条で規定される工事(以下「一定規模以上の工事」という。))において、コンクリート二次製品を含む。)、土砂、砕石、加熱アスファルト混合物又は木材を工事現場に搬入する場合には、(一財)日本建設情報総合センターの建設副産物情報交換システム(以下「COBRIS」という。))により再生資源利用計画書を作成し、監督員に提出すること。
- 2) 受注者は、資源有効利用促進法に基づく建設業に属する事業を行う者の指定副産物に係るの促進に関する判断の基準となるべき事項を定める省令(H3.10.25建設省令第20号)第7条で規定される工事又は一定規模以上の工事において、建設発生土、コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥又は建設混合廃棄物を工事現場から搬出する場合は、COBRISにより再生資源利用促進計画書を作成し、監督員に提出すること。
- 3) 受注者は、上記計画書を工事現場の見やすい場所に掲示(デジタルサインージによる掲示も可)すること。
- 4) 受注者は、上記計画書に変更が生じた場合は、速やかに計画を変更し、その変更の内容を監督員に報告すること。
- 5) 受注者は、工事完了後速やかにCOBRISにより再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を作成し、監督員に提出すること。
- 6) 受注者は、上記計画書及び実施書を工事完成後5年間保存すること。
- 7) 受注者は、COBRISの入力において、資源の供給元及び搬出する副産物の搬出先について、その施設名、施設の種類の及び住所を必ず入力すること。ただし、バーゲン材を使用する生コンクリート及び購入土を除くものとする。
- ⑤ 受領書の交付
 受注者は、土砂を再生資源利用計画書に記載した搬入元から搬入したときは、法令等に基づき、速やかに受領書を搬入元に交付しなければならない。
- ⑥ 再生資源利用促進計画書を作成する上での確認事項等
 受注者は、再生資源利用促進計画書の作成に当たり、建設発生土を工事現場から搬出する場合は、工事現場内の土地の掘削その他の形質の変更に関して発注者等が行った土壌汚染対策法等の手続き状況や、搬出先が廃土規制法の許可地等であるなど適正であることについて、法令等に基づき確認しなければならない。また、確認結果は再生資源利用促進計画書に添付し監督員に提出するとともに、工事現場において公衆の見やすい場所に掲げなければならない。

⑦ 建設発生土の運搬を行う者に対する通知

受注者は、建設現場等から土砂搬出を他の者に委託しようとするとき、特記に土工事の記載がある場合は「建設発生土の処理」に関する事項等(搬出先の名称及び所在地、搬出量)と、前項で行った確認結果を、委託した搬出者に対して、法令等に基づいて通知しなければならない。

⑧ 建設発生土の搬出先に対する受領書の交付請求等

受注者は、建設発生土を再生資源利用促進計画書に記載した搬出先へ搬出したときは、法令等に基づき、速やかに搬出先の管理者に受領書の交付を求め、受領書に記載された事項が再生資源利用促進計画書に記載した内容と一致することを確認するとともに、監督員に写しを提出しなければならない。

13. 材料・製品等

- ① 本工事に使用する建築材料、設備機材等(以下「建材等」という。))は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとする。
 - ② 受注者は、建材等の発注の際には、発注前に、品質及び性能に関する記載された工種別施工計画書及びその証明となる資料を監督員へ提出しなければならない。ただし、設計図書に定めるJIS又はJASの材料で、JIS又はJASのマーク表示のあるものを使用する場合は、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合は、この限りでない。なお、各専門特記仕様書中、「評価名簿」として記載されているものは、一般社団法人公共建築協会発行の「建築材料等評価名簿(最新版)」及び「設備機材等評価名簿(最新版)」記載品とするものとする。
- ③ 県産木材の原則使用
 - 1) 受注者は、工事目的物及び指定仮設で木材を使用する場合並びにコンクリート打設用型枠を使用する場合、原則として県産木材を使用しなければならない。ただし、特段の理由がある場合にはこの限りでない。
 - 2) 県産木材とは、「徳島県内の森林で育成した木材」のことであり、「徳島県内の森林で育成した木材」とは次のことである。
 - (a) 徳島県木材認証制度により、県内産であることが「産地認証」された木材
 - (b) (a)以外において、徳島県内の森林で育成しことが確認された木材
 - 3) 受注者は、該当費金額が500万円以上の工事について、県産木材以外の木材を使用する場合は、県産木材を使用できない理由を施工計画書に記載すると共に、確認資料を事前に監督員に提出し、承諾を得なければならない。
 - 4) 受注者は、県産木材を使用する前に、徳島県木材認証機構から発行される「産地認証証 明書」の写しにより県産木材であることを示す書類を監督員へ提出しなければならない。
 - 5) 県内の森林から直接調達するなど、前項により異なる場合は木材調達先の産地及び相手の氏名等を入れた書類を監督員へ提出しなければならない。

- ④ 製材等(製材、集成材、合板、単板積層材)、フローリング、再生木質ボード(パーティクルボード、繊維板、木質系セメント板)については、合法性に係る確認(「産地認証」)及び「品質認証」を含む。))が行われたものを使用する。ただし、機能上、需給上など正当な理由により確保が困難であり、使用できない場合には監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。また、それらの木質又は紙の原料となる原木についての合法性に係る確認は、林野庁作成の「木材・木質製品の合法性、持続可能性の証明のためのガイドライン(平成18年2月15日)」に準拠して行い、監督員に合法性証明書を提出するものとする。ただし、平成16年4月1日より前に伐採業者が加工・流通業者等と契約を締結している原木に係る合法性の確認については、平成18年4月1日の時点まで原料・製品等を保管している者が証明書に平成16年4月1日より前に伐採を締結していることを記載した場合には、上記ガイドラインに定める合法的な木材であることの証明は不要とする。

⑤ 標仕等に記載されていない特別な材料の仕様・工法は、監督員の承諾を受けて、当該製品の仕様及び指定工法による。

⑥ 県内企業調達建材等の優先使用

受注者は、徳島県内に主たる営業所を有する者から調達した建材等(以下、「県内企業調達建材等」という。))を優先して使用するよう努めなければならない。また、県内企業調達建材等の別を工種別施工計画書に記載するものとする。

なお、県内企業調達建材材以外を使用する場合は、県内企業調達建材等を使用しない理由を工種別施工計画書に記載し、監督員の承諾を得なければならない。

⑦ 県内産再生砕石の原則使用

受注者は、再生砕石を使用する場合、県内の再資源化施設(廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和45年法律第137号)第15条第1項に基づく許可を有する施設(同法第15条の2第8項)に基づき(変更の許可において同じ。))で製造された再生砕石を原則として使用しなければならない。

14. 化学物質を発生する建築材料等

本工事に使用する建築材料は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の①から⑤を満たすものとする。

- ① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ウリア樹脂板及び仕上り塗材は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。
- ② 保温材、緩衝材、断熱材は、ホルムアルデヒド及びシスチンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。
- ③ 接着剤は、フタル酸ジエーテル及びフタル酸ジエーテルエポキシを含有しない揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。
- ④ 塗料(塗り床を含む)は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。
- ⑤ ①、③及び④の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。

15. 施工

- ① 設計図書に疑義が生じたり、現場の納まり又は取合い等の関係で設計図書にすることが困難又は不都合な場合が生じたときは、標仕記載の「疑義に対する協議等」による。
- ② 工事現場に監督員は常駐せざるべし、疑問点、その他打合せ決定を要する事項は、監督員の意向に付した時、又は標仕様書に照し合わせ、工事に遅滞のないようすること。
- ③ 品質管理は、適切な時期に品質計画に基づき、確認、試験又は検査を行うこと。結果が管理値を外れるなど疑義が生じた場合は、品質計画にしたがって適切な処理を施すこと。また、その原因を検討し、再発防止のための必要な処置をとること。
- ④ 施工にあたっては、設計図書に従って忠実に施工すること。不都合な工法等を発見した場合は、工事が進行済みであっても根本的な手直しを命ずるので、注意して施工すること。手直し工事は、受注者の責任において実施し、それに要する費用は受注者の負担とする。
- ⑤ 本工事の施工及び管理にあたり法規上必要となる有資格者については、工事着手前に資格者名簿及びその証明書類等を監督員に提出すること。
- ⑥ 設計図書(各施工計画書を含む)に定められた工程が完了した時、報告書を提出し、監督員の検査を受け、承諾を受けて次の工程に進むこと。
- ⑦ 試験等によらなければならない確認できない工法(製品)については、試験等計画書(施工計画書に記載)を提出し、監督員の承諾を受け試験を行い、その結果を報告し承認を得ること。

16. 建設機械等

① 排気ガス対策型建設機械

本工事に使用する土工機械は、「排気ガス対策型建設機械指定要領(平成13.10.8 建設省経機発第249号、最終改正 平成14.4.1(国設施第225号))」に基づき指定された排気ガス対策型建設機械とする。ただし、排気ガス対策型建設機械を使用できない場合は、平成7年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排気ガス浄化装置の開発」、又はこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業、あるいはこれと同等の開発目標で実施された建設技術審査証明(以下評価された排気ガス浄化装置を装着することで排気ガス対策型建設機械と同等とみなす。これにより難い場合は、監督員と協議するものとする。なお、排気ガス対策型建設機械あるいは排気ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、現場代理人は施工現場において使用する建設機械の全量及び型番等が分かる写真や監督員に提出するものとする。

② 低騒音・低振動型建設機械

本工事で使用する建設機械は、「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程(国土交通省告示 平成13年4月9日改正)」に基づき指定された建設機械を使用するものとする。現場代理人は、施工現場において使用する建設機械の全量及び型番等、同規程に基づき指定された建設機械であることが分かる写真を監督員に提出するものとする。ただし、同規程に記載されていない機種、規格の建設機械に当該施工する場合はこの限りでない。なお、同規程に基づき指定された建設機械を現場に供給するの者が資材商の場合は、監督員と協議する。ただし、騒音規制法、徳島県公害防止条例等の関係法令を遵守するものとする。

③ 特定自主検

本工事で使用する建設機械(労働安全衛生法により特定自主検査が義務づけられている建設機械)は、1年以内毎に1回特定自主検査を実施済みの機械を使用し、その検査証明書(検査記録表)の写しを使用工種の施工計画書に添付し提出すること。

④ 不正経油の使用禁止

受注者は、ディーゼルエンジン仕様の車両及び建設機械等を使用する場合は、地方税法(昭和25年法律第226号)に違反する経油等を燃料として使用してはならない。また、受注者は、県の機材員が行う使用燃料の採取調査に協力しなければならない。

17. 遠隔臨場の試行

- ① 受注者は、当初請負対象金額(設計金額)が税込7千万円未満の場合において、遠隔臨場の実施を希望する場合は、「営繕工事の遠隔臨場に関する試行要領」に基づき遠隔臨場を実施することができる。
- ② 受注者は、当初請負対象金額(設計金額)が税込7千万円以上の場合において、「営繕工事の遠隔臨場に関する試行要領」に基づき遠隔臨場を実施しなければならない。

18. 工事看板等

- ① 工事現場には、工事看板を監督員の指示に従って見やすい場所に設けること。
- ② 受注者は、本工事において使用する工事看板・リリッド等については、県産木材を用いた木製品を優先して使用するよう努めなければならない。県産木材を購入した場合、受注者は、工事完了後1任意取扱いにおける県内産木材購入実績報告書(を監督員へ任意で提出すること。
- ③ 受注者は、監督員から選ばれる「技能労働者への適切な賃金水準の確保等に関するポスター(A3)」を現場関係者が見やすい場所に掲げるとともに、掲示状況を工事写真として提出しなければならない。ただし、次のいずれかの工事は該当する工事は対象外とする。
 - ・区画線工事、舗装工事、構設設置工事、照明灯工事
 - ・当初請負金額が200万円未満の工事

19. 仮設トイレ

受注者は仮設トイレを設置する場合、次のとおりとしなければならない。ただし、特段の理由がある場合はこの限りではない。

- ① 当初請負対象金額(設計金額)3千万円未満の工事
 原則として「洋式トイレ」を設置しなければならない。また、現場従事者に女性が含まれる場合は、原則として「女性専用トイレ(快適トイレ)」を設置しなければならない。
- ② 当初請負対象金額(設計金額)3千万円以上の工事
 原則として「快適トイレ」を設置しなければならない。また、現場従事者に女性が含まれる場合は、原則として「女性専用トイレ(快適トイレ)」を設置しなければならない。

受注者は、仮設トイレを設置した場合、「仮設トイレ設置報告書」を監督員に提出しなければならない。

(注)洋式トイレは、和式トイレの便座部分を洋式化したトイレのこと。

(注)快適トイレとは、洋式トイレのうち、防災対策・施設の強化などが実施された、女性が利用しやすい仮設トイレのこと。

20. 設計変更箇所確認

工事名：市場体育館大規模改修工事

設計事務所による工事監理がある場合、受注者は、工事監理業務受注者が作成する設計変更箇所一覧表の内容について、監督員、工事監理業務受注者とともに定期的に確認すること。また、工事のしゅん工前には全ての設計変更箇所及び内容を監督員、工事監理業務受注者とともに、書面により確認すること。

21. 工事検査及び技術検査

- ① ~~表表により中間検査の対象工事となった場合は、原則として次表の実施回数を以上の中間検査を実施するものとする。ただし、工事検査員が認める場合は、一般入札工事に限りこれに準ずることができ。~~

当初請負対象額	一般入札工事	低入札工事
3千万円未満	—	1回
3千万円以上5千万円未満	—	2回
5千万円以上1億円未満	1回	2回
1億円以上	2回	3回

(注)低入札工事とは、低入札価格調査工事の調査基準価格を下回って落札した工事をいう。

(注)一般入札工事とは、低入札工事以外の工事をいう。

- ② 中間検査の実施時期は、当該工事の工程を考慮し施工上の重要な時点で行うものとし、締結後速やかに監督員と協議すること。――
- ③ 中間検査が部分払検査と同時期になる場合は、中間検査を実施することができる。――
- ④ 基礎杭工事を含む工事については、請負対象額にかかわらず、基礎杭工事完了後、中間を実施する。――
- ⑤ 外壁改修工事等において、足場が撤去されしゅん工検査時に検査員による出来形等の現認ができなくなるおそれがある場合は、当初請負対象額に関係なく、中間検査の実施に監督員と協議すること。

22. 完成図書

- ① 電子納品：対象外
- ② 受注者は、原則として「徳島県電子納品運用ガイドライン【建築工事編】」に基づいて設計、工事などの各業務段階の最終成果を電子成果品として納品（以下「電子納品」とすること。
- ③ 提出書類
- 竣工図（製本3部、電子データ2部）（サイズ：監督員の指示による）
 - 工事写真（写真台帳1部・電子データ1部）
 - 使用材料一覧表（提出方法は監督員の指示による）
 - 保全に関する資料
 - その他監督員が指示する図書（必要部数）
- ④ しゅん工図は関係図面（データ貸与）を修正して作成すること。しゅん工図データは、関係図面（データ貸与）を修正して作成し、PDF形式、SFC形式及びリジナル形式をCD-R等に保存する。（市の標準CADソフトであるJW_cadで開いた際に文字化け等の不具合が生じないことを確認すること。）
- ⑤ 工事写真の電子データは完成写真、着手前、資機材、施工状況の順に整理する。完成写真については、工事目的物の状態が、資機材、施工状況等については、不可視部出来形が写真で的確に確認できること。
- ⑥ 工事写真の撮影は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領」によると。
- | 区 分 | サ イ ズ |
|-------|-----------------|
| 着 手 前 | カラー、手札版又はサービサイズ |
| 施 工 中 | カラー、手札版又はサービサイズ |
| 完成写真 | カラー、手札版又はサービサイズ |
- ⑦ 工事完成撮影は、別途指定がある場合を除き、専門家によらないものとする。
- ⑧ 既存埋設管等の状況について、現場と図面の相違が発覚した場合は竣工図に反映させること。

23. デジタル工事写真の小黒板情報電子化

- ① 受注者は、デジタル工事写真の小黒板情報電子化の実施を希望する場合は、監督員の承諾を得たうえで、デジタル工事写真の小黒板情報電子化対象工事（以下「対象工事」という。）とすることができる。
- ② 対象工事は、徳島県GALS/ECホームページ掲載の「デジタル工事写真の小黒板情報電子化の運用について（県土整備部）」に記載された全ての内容を適用することとする。

24. 火災保険

本工事の着手に際し、火災保険等（火災保険、建設工事保険その他の保険（これに準ずるものを含む。））を請負額に応じて付保する。（標準請負契約約款 第55条）

- ① 対象物
- 工事目的物及び工事材料（支給材料を含む）について付保する。
- ② 保険外工事
- 次に掲げる単独工事については、付保を除外できる。
- ・杭及び基礎工事
 - ・コンクリート躯体工事
 - ・屋外付帯工事
 - ・その他実状を判断のうえ必要がないと認めた場合（外壁補修工事等）
- ③ 付保する時期及び金額
- 鉄筋コンクリート造の場合は躯体工事完了時に、木造及び鉄骨造の場合は基礎工事完了時に、請負金額相当額を付保する。また、模様替え工事等については、工事着手時に請負金額相当 額を付保する。
- ④ 保険終期
- 工事完成期日に14日を加えた期日とする。なお、工期延伸した場合には保険の期間も延長する。
- ⑤ その他
- ・付保する時期以降に出来高払を行う場合は、受注者は保険契約の証券の写しを出来高払の書類に添付する。
 - ・建設工事保険に付保した場合は、火災保険に付保したものとみなす。

25. 公共事業労務費調査

- ① 当初請負対象金額（設計金額）が税込1,000万円以上の工事において、公共事業労務費調査の対象工事となった場合は、受注者は、調査票等に必要事項を正確に記入し調査団体に提出する等、必要な協力を行わなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。
- ② 調査票等を提出した事業者を調査団体が事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合、受注者は、その実施に協力しなければならない。また、本工事の工期経過後においても、同様とする。
- ③ 公共事業労務費調査の対象工事となった場合に正確な調査票等の提出が行えるよう、受注者は、労働基準法等に従って就業規則を作成すると共に賃金台帳を調製・保存する等日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。
- ④ 受注者が本工事の一部について下請契約を締結する場合には受注者は、当該下請工事の受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請人を含む）が前述と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

26. 暴力団からの不当要求又は工事妨害の排除

- ① 受注者は、工事の施工に関し、暴力団等からの不当要求又は工事妨害（以下「不当介入」という。）を受けた場合（②に規定する場合は、下請負人から報告があったとき）には、その旨を直ちに発注者に報告するとともに、併せて所轄の警察署に届けなければならない。
- ② 受注者は、本工事の一部を下請に付する場合、下請工事の施工に関して下請負人が暴力団等からの不当介入を受けたときは、受注者にその旨を報告することを義務付けなければならない。
- ③ 受注者は、発注者及び所轄の警察署と協力して不当介入の排除対策を講じなければならない。
- ④ 受注者は、排除対策を講じたにもかかわらず、工期に遅れが生じるおそれがある場合には、発注者と工程に関する協議を行い、その結果、工期内に工事が完成しないと認められる場合は、「徳島県公共工事標準請負約款」（以下「約款」という。）第22条の規定により、発注者に工期延長の請求を行わなければならない。

工事名：市場体育館大規模改修工事

- ⑤ 受注者は、暴力団等から不当介入による被害を受けた場合は、その旨を直ちに報告し、被害届を速やかに所轄の警察署に提出しなければならない。
- ⑥ 受注者は、前項被害により、工期に遅れが生じるおそれがある場合は、発注者と工程に関する協議を行い、その結果、工期に遅れが生じると認められた場合は、約款第22条の規定により、発注者に工期延長の請求を行わなければならない。

工事名：市場体育館大規模改修工事

Ⅲ. 建築改修工事特記仕様書
1章 改修一般共通事項

1. 施工条件
- 施工条件は次による。
- ① 工程については、施設管理者と協議の上決定すること。
- ② 施設の使用に影響のある騒音、振動、粉塵等を伴う作業は平日の授業中は原則施工できない。また、休日においても施設管理者より作業中止の要望がある場合は、作業の中止を行う場合がある。
- ③ その他の詳細な施工条件については、実施工程表及び総合施工計画書の作成時に施設管理者と協議の上決定し、適宜相互に日程の調整及び確認を行う。
2. 重要備品等
- 工事に影響のある範囲内の重要備品等 (有 無)
- 備品等名称 :
保管場所 :
注意事項 :
3. 施工調査
- ① 調査期間
- 本工事の着手時に、給排水、ガス管、地下埋設物等の調査を行う。
調査期間は、協議による。
4. 交通誘導警備員
- 交通誘導警備員については、警備業法に基づく警備員とし、図示する場所に 195 日間配置すること。
- ① 本工事は、警備員等の検定等に関する規則第1条第4号により規定された交通誘導警備業務を行う場所に一級又は二級の検定合格警備員の配置が (義務付けられている 義務付けられていない)
- ② 警備員は、延 565 人 (昼 565 人、夜 人、うち検定合格警備員 人)を見込んでいる。
- ③ 警備業法を遵守するとともに、受注者は交通誘導警備員の配置計画書及び合格証明書の写し等資格要件の確認ができる資料を事前に監督員へ提出すること。
- ④ 配置された検定合格警備員は、業務に従事している間は合格証明書を携帯し、かつ、監督員等の請求があるときは、これを提示すること。
- ⑤ 受注者は、発注者が行う交通誘導警備員勤務実績調査の実施に協力しなければならない。また、対象工事の一部について下請負契約を締結する場合は、当該下請負工事の受注者(当該下請負工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む。)も同様の義務を負う旨を定めなければならない。
- ⑥ 受注者は、「交通誘導警備員勤務実績報告書」を作成し、勤務実績が確認できる資料(勤務伝票の写し)とともに、1月毎に監督員へ1部提出しなければならない。

5. 産業廃棄物の処理

産業廃棄物の種類ごとに次の処分場を指定する。

(注)表中「優良」欄に丸印の入っている業者は、「徳島県優良産業廃棄物処理業者の認定業者であることを示す。

種類	処分許可業者の会社名 (処分区分)	優良	所在地 処分地	運搬距離 (km)	処分費 (税抜、円)	単位
有筋コンクリート	徳島リサイクル工業(株)	○	阿波市阿波町五明141-1 美馬市脇町西赤谷535	11.5		t
無筋コンクリート	徳島リサイクル工業(株)	○	阿波市阿波町五明141-1 美馬市脇町西赤谷535	11.5		t
アスファルト	徳島リサイクル工業(株)	○	阿波市阿波町五明141-1 美馬市脇町西赤谷535	11.5		t
木くず	徳島リサイクル工業(株)	○	阿波市阿波町五明141-1 美馬市脇町西赤谷535	11.5		t
廃プラスチック	東條商事(株)	○	板野郡板野町大伏西浦谷	19.5		t
廃石膏ボード	東條商事(株)	○	板野郡板野町大伏西浦谷	19.5		t
鉄くず	(株)丸八木村商店 土成工場	○	阿波市土成町宮川内字下山田20	12.1		t
アルミ・ステンレスくず	(株)丸八木村商店 土成工場	○	阿波市土成町宮川内字下山田20	12.1		t
ガラスくず	東條商事(株)	○	板野郡板野町大伏西浦谷	19.5		t
建設発生土	徳島県環境整備公社 徳島東部処分場	○	板野郡松茂町豊久朝日野6地先	38.2		t
アスベスト含有建材	(株)明和クリーン	○	三好市山城町寺野956-3	58.6		m3

- ・上記以外の許可業者の処分場で処分しても差し支えないが、増額変更の対象とはしない。また、この場合、処分単価の見積書を求め、減額変更を行うことがある。
- ・上記の処分場が徳島県優良産業廃棄物処理業者(以下、「優良産業処分業者」という。))に認定されているとき、処分場を変更する場合は原則として優良産業処分業者に委更すること。ただし、諸般の事情により優良産業処分業者以外の処分場で行う場合は、理由書を監督員に提出すること。
- ・コンクリート・アスファルト類の搬出先については、中間処理施設のみとする。
- ・木材については、50kmの範囲内にある木材再資源化施設への搬出を原則とする。

6. 室内空気中の化学物質の濃度測定
- ① 建物の用途により以下の物質の室内濃度を測定すること。
- 学 校：ホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・パラジクロロベンゼン・スチレン・エチルベンゼン
学校以外：ホルムアルデヒド・トルエン・キシレン・スチレン・エチルベンゼン
- ② 採取器具は受注者にて用意すること。
- ③ 測定箇所
- | 測 定 対 象 室 | 測定箇所数 |
|-----------|-------|
| 飯教室 | 2 |
| | |
- ④ 測定は、次のいずれかにより行う。
- ・住宅の品質確保の促進等に関する法律に基づく評価方法基準(平成13年 国土交通省告示第 1347号)第56-3(3)「測定の方法」において定められた方法
- ・パッシブ型採取機器を用いる方法

工事名：市場体育館大規模改修工事

- パッシブ型採取機器を用いる場合は、次の要領により行う。
- 1) 30分間換気
測定対象室のすべての窓及び扉(造り付け家具、押入等の収納部分の扉を含む)を開放し、30分間換気する。
- 2) 5時間閉鎖
1)の後、測定対象室の全ての窓及び扉を5時間閉鎖する。ただし、造り付け家具、押入等の収納部分は開放したままとする。
- 3) 測定
イ. 2)の状態のままで測定する。
ロ. 測定時間は、原則として24時間とする。ただし、工程等の都合により24時間測定が行えない場合は、8時間測定とする。
ハ. 測定回数は1回とし、複数回の測定は不要とする。
- ※ 1) 2) 3)において、換気設備又は空気調和設備は稼働させたままとする。ただし、局所的な換気扇等で常時稼働させないものは停止させたままとする。
- 4) 分析
測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取器を分析機関に送付し、濃度を分析する。
- 5) 測定結果の提出
測定後、測定結果を監督員に提出すること。
- ⑤ 測定結果が厚生労働省の指針値を超えていた場合は、現場監督員と対応方法について協議すること。
7. 技能士の適用
- ① 技能士の適用については、次の技能検定作業(以下、「作業」という。)のうち各工事に適用する作業を指定するものとする。
- ② 技能士は、職業能力開発促進法による一級技能士又は二級技能士の資格を有する者とし、資格を証明する資料を監督員に提出すること。
- ③ 技能士は、適用する工事で作業中、1名以上の者が自ら作業をするときに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行うこと。
- ④ 技能士は、氏名、検定職種、技能士番号等が指定した内容を記載した名札等により、資格を明示するものとする。
- ⑤ 指定のない作業についてもその活用を図るよう努めることとする。

○印・・・適用作業

工事種目	技能検定職種	技 能 検 定 作 業
仮設	とび	○ とび作業
鉄筋	鉄筋施工	▪ 鉄筋組立て作業
コンクリート	コンクリート圧送施工	▪ コンクリート圧送工事作業
型枠	型枠施工	▪ 型枠工事作業
鉄骨	鉄工	▪ 構造物鉄工作業
防水	防水施工	▪ アスファルト防水工事作業 ○ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ▪ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ▪ 合成ゴム系シート防水工事作業 ▪ 塩化ビニルシート防水工事作業 ▪ セメント系防水工事作業・ ▪ シーリング防水工事作業 ▪ 改質アスファルトシート工法防水工事作業 ▪ 改質アスファルトシート常温粘着工法防水工事作業 ▪ FRP防水工事作業
タイル	タイル張り	▪ タイル張り作業
木	建築大工	▪ 大工工事作業
屋根及びとい	建築板金	▪ 内外装板金作業
	かわつぶき	▪ かわつぶき作業
金属	建築板金	▪ 内外装板金作業
左官	左官	○ 左官作業
建具	建具製作	▪ 木製建具手加工作業 ▪ 木製建具機械加工作業
	サッシ施工	▪ ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	▪ ガラス工事作業
塗装	塗装	○ 建築塗装作業
内装	内装仕上げ施工	▪ プラスチック系床仕上げ工事作業 ▪ カーペット系床仕上げ工事作業 ▪ 鋼製下地工事作業 ▪ ボード仕上げ工事作業 ▪ カーテン工事作業 ▪ 木質系床仕上げ工事作業
	裏装	▪ 裏装作業 ▪ 壁装作業
配管	配管	▪ 建築配管作業
植栽	造園	▪ 造園工事作業
機械設備	冷凍空気調和機器施工	▪ 冷凍空気調和機器施工作業

2章 改修仮設工事

1. 敷地の状況確認
- 着工に先立ち、敷地境界、既存構造物、敷地の高低差、地下埋設物の確認、近隣建築物及び工作物の現状確認、排水経路及び配水管の流末処理の確認並びに敷地周辺の状況を確認し、監督員に報告すること。
2. 足場等
- ① 仮設機材及び経年仮設機材の使用については、次の規格又は認定基準(以下「規格等」という。)に適合するものを使用すること。
- 1) 労働安全衛生法に基づく構造規格
- 2) (一社)仮設工業会の認定基準
- また、厚生労働省の「経年仮設機材の管理指針」に基づく(一社)仮設工業会の「適用工場制度」による登録工場及び指定工場等の活用を努めるとともに、前記規格等に定めるもの以外の使用に当たってはあらかじめ強度等を確認した書類を監督員に提出し、承認を得ること。
- ② 労働安全衛生法第88条に基づき、労働安全衛生規則別表第7に掲げる機械等(組立から解体までの期間が60日未満を除く)の設置や移転、変更を行う場合は、30日前までに所轄労働基準監督署長に届け出をおこなうこと。
- 届け出をおこなった場合は、監督員に報告すること。
- 届け出不要の場合は、その旨監督員に報告すること。

工事名：市場体育館大規模改修工事

- ③ 労働安全衛生法第88条に基づき「届け出の要否に関わらず、足場を設置する場合は、使用開始前に徳島県営繕課指定の足場チェックリストを用いて点検した後、監督員の確認を受けること。
- ④ 外部足場（図示の通り）
- 壁つなぎ間隔（水平方向： 8m以下、鉛直方向： 9m以下）
 - 足場を設置する場合は、原則として「手すり先行工法に関するガイドライン」（標仕2.2.4）の別紙1「手すり先行工法による足場の組み立て等に関する基準」の2の(2) 手すり据置方式により行うこと。ただし監督員の承諾を得た場合は、（3）手すり先行専用足場方式により行うことができる。
- ⑤ 内部足場（図示の通り）
- 壁つなぎ間隔（水平方向： m以下、鉛直方向： m以下）
- ⑥ 仮囲い（図示の通り）
- ⑦ ゲート（☐有☐無 図示の通り）
- ⑧ 足場等の設置業者は、関連工事等の関係者に無償で使用させること。また安全管理も実施すること。
- ⑨ 足場等を無償使用する業者は、設置業者の指示に従うこと。
- ⑩ 受注者は、つり足場（ゴンドラのつり足場を除く。）、張出し足場又は高さが5メートル以上の構造の足場の組立て、解体又は変更の作業において、材料、器具、工具等を上げ、又はおろすときは、つり綱、つり 袋等を労働者に使用させなければならない。また、作業主任者を選任し、その氏名、職務を掲示すること。
- ⑪ 石綿含有仕上塗材が施工された外壁に対する足場架き用アンカーの下穴穿孔作業については、「石綿等の切断等の作業」及び「石綿取り扱い作業」に該当するため、石綿障害予防規則（平成17年厚生労働省令第 21号）を遵守し作業を行うこと。
- ⑫ その他

3. 養生
- ① 既存部分の養生範囲は建物外周、巾2.0mの範囲とする。（養生方法：シート養生）

4. 監督員事務所
- ① 監督員事務所は（☐設ける☐（面積 10 m2程度） ・ ☐設けない ）
- ② 監督員事務所を設置する場合、備品は次のものを設置すること。
- 1) 机、椅子、~~書棚、製図板~~掛時計、温度計、湿度計
 - 2) ゴム長靴、雨がっぱ、~~保護帽~~懐中電灯、~~安全帯~~
 - ④ ~~補給用大電話の子機~~
 - 4) ~~衣類ロッカー~~冷暖房機器、消火器、~~湯沸器~~、~~掃除具~~
 - ④ ~~ラフランゴリ他~~

5. 工事用水、電力等
- ① 既存電力利用（☐出来る☐出来ない ）,電力料金（☐有償☐無償 ）ただし、施設管理者と協議すること。
- ② 既存水利用（☐出来る☐出来ない ）,電力料金（☐有償☐無償 ）ただし、施設管理者と協議すること。

6. 工事車両用駐車場資材置場・現場事務所用地等
- ① 同用地は、（☐図示の場所に☐ ・ 用意していないので業者に☐設けること。ただし、施設管理者と協議すること。

3章 防水改修工事

1. 一般事項
- ① 保護層、防水層等を撤去した結果、下地等の状況により、設計図書に定められた施工方法によることが不適当な場合は監督員と協議すること。
- ② 降雨等に対する養生方法は、（☐上屋シート養生☐ ・ ☐下階天井養生☐ ・ ☐その他（ ） ）とする。

2. 改修工法の種類及び工程

工 法	ウレタン塗膜防水X-1 （特定化学物質無配合）	ウレタン塗膜防水X-2 （特定化学物質無配合）	アクリルゴム系塗膜防水 （高弾性厚膜防水・防錆工法）
施工箇所	屋上(平場)	屋上(立上・パラペット)	折板屋根
1 既存保護層(立上り部等)撤去等	無	無	無
2 既存保護層(平場)撤去等	無	無	無
3 既存断熱層撤去等	無	無	無
4 既存防水層(立上り部等)撤去等	有	有	無
5 既存防水層(平場)撤去等	有	有	無
6 既存下地の補修及び処置	無	無	無
7 防水層の新設	ウレタン塗膜	ウレタン塗膜	アクリルゴム系塗膜(水系)
8 断熱材の新設	無	無	無
9 保護層の新設	無	無	無

3. 既存下地の補修材料
- ① アスファルトは、JIS K 2207の規格品3種とする。
- ② 端部押さえ金物は、既成アルミニウム製とし、形状寸法は メーカー仕様 とする。
- ③ ポリマーセメントモルタル及びポリマーセメントペースト、層間接着用プライマー、アスファルト系下地調整材、改修用ドレン等の材料は、ルーフィング類製造所の指定する製品とする。

4. ルーフドレン回りの処理
- ルーフドレンの端部から（ ☐ 500mm☐ ・ 300mm ）の防水層及びシーリングを撤去し、ポリマーセメントモルタルで勾配1/2程度に仕上げること。

5. 塗膜防水
- ① 工 法： DSX-1とDSX-2の2種類 種 別： X-1・X-2
- ② 塗膜を形成する材料は、JIS A 6021の規格品とする。
- ③ プライマー、層間接着用プライマー、補強布、接着剤、通気緩衝シート、シーリング材、仕上塗材等は主材料製造所の指定製品とする。
- | 工 法 | 種 別 | 施 工 箇 所 | 仕 上 塗 料 | 備 考 |
|----------------|---------|-----------|------------------------------|---------|
| DSX-1とDSX-2の2種 | X-1・X-2 | 平場
立上り | 主材料製造所の仕様による
主材料製造所の仕様による | 平面部脱気型※ |
- ④ 特記仕様書、改修仕及び標準仕以外は、主材料製造所の仕様による。
- ※脱気筒については、製造所の仕様参照の上、設置箇所について、事前に監督員と協議すること。
- ⑤ DSX-1ゼロ工法、DSX-2ゼロ工法と同等以上とする。

工事名：市場体育館大規模改修工事

6. シーリング
- ① シーリング材は、JIS A 5758の規格品とする。
- ② プライマーは、被着体及びシーリングの種類により使い分けること。
- ③ 監督員に、シーリング材の有効期限が切れていないことの確認を受けること。
- ④ シーリング面への仕上塗材仕上げ等を（☐行う☐ ・ ☐行わない ）。
- ⑤ 外部に面するシーリング材は、施工に先立ち（☐簡易接着性試験☐ ・ ☐引張接着性試験 ）を行う。
- ただし、同じ材料の組合せで実施した試験成績書がある場合は、監督員の承諾を受けて、試験を省略することができる。
- ⑥ 種類及び施工箇所

記 号	材 質	既 存	施工箇所	改修工法	寸 法	接着試験
MS-2	変成シリコーン	変成シリコーン	水切～躯体	打ち替え	20×10	○

7. 改修ドレン
- ① ルーフドレンの取付けは図示する。

8. 防水保証
- ① 防水工事完了後は、メーカー、元請業者、下請業者の3者連名による（ 3 ・ 5 ・ 7 ・ ☐10 ）年間の防水工事性能保証書を提出すること。

4章 外壁改修工事

1. 外壁改修の施工数量及び調査方法
- ① 当工事では外壁から躯体内部への漏水が見込まれる部分を改善し、躯体保護のため、図示した範囲について改修を行う。
- ② 当工事の概算計上数量は、当該範囲を調査した数量の150%程度を計上している。
- ③ 施工数量は、次の調査により監督員が承認し確定した数量に基づき設計変更を行う。
- ④ 外部足場設置後、施工数量調査を行う。
- ⑤ 調査に先立ち、調査内容及び方法等の計画書を作成し監督員の承諾を得ること。また、調査方法等で専門知識が必要な場合は、各工法・材料の専門技術者（製造所等）に依頼すること。

2. 外壁改修工法の種類及び材料

① コンクリート打放し仕上り外壁

工 法	ひび割れ部	欠 損 部	
樹脂注入工法	工法： エポキシ樹脂低圧注入工法 注入量： 50 ml/本 注入間隔： 150mm エポキシ樹脂： ノー仕様による		
Uカットシール材充填工法	材料： 弾性シーリング シーリング材： PU-2		

- ② ポリマーセメントモルタルの製造所： 評価名簿による。
- ③ 注入量、注入間隔、エポキシ樹脂の種類については、調査結果により協議すること。
- ① モルタル塗り仕上り外壁

工 法	ひび割れ部	欠 損 部	浮 き 部
樹脂注入工法	工法： エポキシ樹脂低圧注入工法 注入量： 50 ml/本 注入間隔： 150mm エポキシ樹脂： ノー仕様による		
Uカットシール材充填工法	材料： 弾性シーリング シーリング材： PU-2		
モルタル塗替工法		材料： 普通のポランドセメント 塗厚： 20 塗厚による補強の有無： 無 仕上げ種類： 一	材料： 普通のポランドセメント 塗厚： 20 塗厚による補強の有無： 無 仕上げ種類： 一

- ② ポリマーセメントモルタルの製造所： 評価名簿による。
- ③ 注入量、注入間隔、エポキシ樹脂の種類については、調査結果により協議すること。

3. 仕上塗材仕上り外壁改修工事

- ① 仕上りの模様、色及びつやは、見本塗り板を監督員に提出して、承諾をうけること。
- ② 下地処理（下地のひび割れ部の補修）は、2.外壁改修工法の種類及び材料による。

	種 類	既存塗膜の除去 及び下地調整の工法	下地仕上	下地調整	仕上形状	工法	防火認定	上塗材
薄付け 仕上塗材 JIS A 6909	外装薄塗材Si							
	可とう形 外装薄塗材Si							
	外装薄塗材E	下地調整C-2	モルタル	C-2	ゆず肌	ローラー	－	水系アクリル樹脂系等
	可とう形 外装薄塗材E							
	防水形 外装薄塗材E							
	外装薄塗材S							
複層仕上塗材 JIS A 6909	複層塗材RE	高圧水洗、下地調整C-2	モルタル	C-2	ゆず肌	ローラー	－	水系アクリル樹脂系等
複層仕上塗材 JIS A 6909	防水形 複層塗材E	高圧水洗、下地調整C-2	モルタル	C-2	ゆず肌	ローラー	－	弾性系

5章 建具改修工事

1. 一般事項
- ① 外部に面する建具は、建築基準法施行令及び「屋根ふき材、外装材及び屋外に面する構造物の基準（昭和46年建設省告示第109号）」に基づき、安全性を確認すること。

工事名：市場体育館大規模改修工事

- ② 外部に面する建具の作業工程は、原則として、方立等の撤去、建具枠の取付け及びガラスのはめ込みまでを1日の作業とする。
- ③ 施工に先立ち、改修範囲を確認し、設計図書との相違等があれば、監督員と協議すること。

2. 改修工法等

区 分	かぶせ工法	撤去工法
撤去の範囲		SD-6、SF-1、WD-1、WS-1、WS-2、WS-3
既製建具の種類		鋼製建具、木製建具、メラミン化粧
新設建具の種類		軽量鋼製建具、メラミン化粧
建具周囲の補修工法及び範囲		LGS間仕切で閉塞、モルタル補修
シーリングの種類		MS-2 シーリング
サッシアンカー		端部及び間隔500mm以下
養生範囲		周囲1m程度

3. 鋼製軽量建具

気密性	遮音性	断熱性	面内変形追随性	使用箇所	備考
—	—	—	—	5	

- ① 鋼板類の厚さは、改修仕様、表5.4.1によるほか、製造所の仕様による。
- ② 製造所・評価名簿による。

4. ガラス

① 板ガラス

種 類	品 種	厚 さ	備 考
F4	型板ガラス	4	

- ② 外部の網入り硝子等の下辺小口及び縦小口下端の防錆処理を行うこと。

③ ガラス留め材の種類

建具の種類	材 種	ガラス清の大きさ
鋼 製	MS-2シーリング	建具製造所の仕様による
アルミニウム製		

6章 内装改修工事

1. 一般事項

- ① 工事に先立ち、改修部分の隠蔽部の調査を行い、設計図書と照合し、支障があった場合は、速やかに監督員に報告し、指示を受けること。
- ② 各部の撤去により、下地及び構造躯体にひび割れ及び欠陥部が発見された場合は、速やかに監督員に報告し指示を受けること。

2. 撤去並びに下地補修

各改修工事の仕様は、仕様・仕上げ表による。

① 床改修

既設床仕上げの除去 改標仕6.2.2(1)参照

種 類	撤去工法	撤去範囲	備 考
防滑性長尺ビニル床シート 長尺塩ビシート 塩ビタタミ タタミ	改標仕6.2.2(1) (ア) による	全面	
フローリング張床	改標仕6.2.2(1) (ウ)	同 上	

- ・ 改修後の床の清掃範囲は全面とする。

- ・ 木製及び軽量鉄骨間仕切り壁 改標仕6.3.2(2)、(3)及び(4)参照

撤 去 区 分	既存床・建具・天井取合の補修範囲及び内容
壁下地を含む全面	競技室 既存建具部分 全体面積の10%を見込む
ボード面まで	競技室 巾木上1820mm(有孔合板1枚分)までについて全面
ボード面を残し仕上げのみ	競技室 巾木上1820mm(有孔合板1枚分)超について全面

③ 天井改修 改標仕6.4.2参照

撤 去 区 分	既存壁取合の補修範囲及び内容
天井下地を含む全面	多目的便所、更衣室(男子)、便所(男子)改修範囲
ボード面まで	玄関・ホール・廊下、便所(女子)、更衣室(女子)、
ボード面を残し仕上げのみ	器具庫(北)、器具庫(南)

3. 木工事

- ① 木材、合板等は、品質、含水率、出荷量等を記録した出荷証明書監督員に提出する。
- 含水率は (A ・ B) 種とする。

4. 軽量鉄骨壁下地

- ① JIS A 6517の規格品とする。
- ② スタッド、ランナ等の種類は、 (65 型)とし、改標仕表6.7.1による。
- ③ 出入口及びこれに準ずる開口部の補強は (改標仕6.7.4(5)による) 。

5. 軽量鉄骨天井下地

- ① JIS A 6517の規格品とする。
- ② 野縁等の種類は、屋内19型、屋外25型とし、改標仕表6.6.1による。
- ③ 既存の埋め込みインサートの使用は、改標仕6.6.4(1) (ウ)による引き抜き試験を行い、強度を確認したうえで使用する。

工事名：市場体育館大規模改修工事

6. ビニル床シート張り(JIS A 5705)、ビニル床シート張り (JIS A 5705)、及びゴム床シート張り

材質	種類	色柄	厚さ	幅 木			接着剤	施工箇所	備 考
				材質	厚さ	高さ			
ビニル床シート床シート	防滑仕様	タイル調	2	塩ビ	1.5以上	100	ウレタン樹脂系	玄関フロア	
ビニル床シート床シート	一般	木目	2	塩ビ	1.5以上	100	ウレタン樹脂系	玄関フロア 廊下 更衣室・器具庫	
ビニル床シート床シート	抗菌消臭	木目	2	塩ビ	1.5以上	100	ウレタン樹脂系	便所	

- ① 帯電防止床シート： 種類()、 厚さ()、 性能()
- ② 耐衝撃荷重性床シート： 種類()、 厚さ()
- ③ ビニル幅木：材質 材質(軟質)、 硬質)、 高さ(60 ・ 70 ・ 100)、 厚さ(1.5以上)
- ④ 視覚障害者用床タイル： 種類・色()、 形状・寸法()

7. セッコウボードその他ボード及び合板張り

材種・規格品	施工箇所	工法	厚さ (mm)	不燃材等の区分	小ねじ・釘・接着剤の種類	下地の種類	備 考
セッコウボード JIS A 6901の規格品	壁	突付け	9.5	準不燃	小ねじ類	LGS	
化粧セッコウボードラバーチン模様 JIS A 6901の規格品	天井	直張り	9.5	準不燃	小ねじ類	LGS	
けい酸カルシウム板 JIS A 5430の規格品	天井	目透し 6mm	6	不燃	小ねじ類	LGS	
普通合板 農林省告示第233号	壁	目透し 5mm	5.5	—	接着剤	木製胴縁	有孔 Φ6-Φ30
パズル化粧板	壁	目透し 3mm	3	不燃	接着剤	鉄板	
不燃軽量天井材 エアライタ	天井	目透し 4mm	4	不燃	小ねじ類	LGS	競技室四周

- ① 合板、パーティクルボード及びMDFのホルムアルデヒド放散量は、F☆☆☆☆とする。

ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの放散量が、F☆☆☆☆の合板、パーティクルボード及びMDFを使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

8. 壁紙張り JIS A 6921

施工箇所	種類	防火性能の級別	下地調整	不燃材料等の区分	備 考
壁	ビニル紙		RB種	準不燃	

- ① ホルムアルデヒドの放散量は、F☆☆☆☆とする。

ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの放散量が、F☆☆☆☆の壁紙を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

9. 有機系接着剤によるタイル張り

施工箇所	形状/寸法 (mm)	吸水率による区分			うわぐすり			役物			色			再生材の適用	耐凍害性	耐摩り性	備考
		I 類	II 類	III 類	施す	無	無	有	無	無	標準	特注	無				
便所(男子)汚垂れ石	897・797×598	○			施す			○			○						

- ① タイルの製造所： 原則、評価名簿による。評価名簿にない場合は監督員の承諾を得ること。

- ② 見本焼きを (行う) ・ (行わない) 。
- ③ 試験張りを (行う) ・ (行わない) 。
- ④ 目地詰めを (行う) ・ (行わない) 。
- ⑤ 有機質接着剤 ユリア樹脂等 (ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤)を用いた接着剤のホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆☆とする。

ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの発散量が、F☆☆☆☆の接着剤を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

- ⑥ 引張接着試験を (行う) ・ (行わない) 。

10. 接着剤

- ① 壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等 (ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤)を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量はF☆☆☆☆とする。ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの放散量がF☆☆☆☆の接着剤を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

7章 塗装改修工事

1. 一般事項

- ① 防火材料又は建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする。
- ② 塗料はホルマリン不検出のもの及び有機溶剤の含有量が少ないものとする。
- ③ ユリア樹脂等 (ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤)を用いた塗料のホルムアルデヒドの発散量は、F☆☆☆☆とする。
- ただし、正当な理由により確保が困難である場合等、ホルムアルデヒドの放散量が、F☆☆☆☆の塗料を使用できない場合には、監督員と協議するものとし、監督員の承諾を得るものとする。

2. 合成樹脂適合ポイント塗り(SOP)

区 分	種 別		下地調整 (新規面は素地ごしらえ)	さび止め塗料		備考
	屋外	屋内		屋外	屋内	
木部		白種	B 種			

3. 耐候性塗料塗り(OP)

区 分	種 別	下地調整 (新規面は素地ごしらえ)	錆止め塗料塗りの種類	上塗りの等級	備 考
外装鉄鋼面	B 種	RB 種	—		

4. つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)

区 分	種 別		下地調整 (新規面は素地ごしらえ)	さび止め塗料		備 考
	屋外	屋内		屋外	屋内	
その他*ド面	B種		B種			
モルタル面		B種	B種			

5. 木材保護塗料塗り(WP)

区 分	種 別	下地調整 (新規面は素地ごしらえ)	備考
木部	B種	RB種	

6. その他(内装薄塗材E)

区分	工程種別	素地ごしらえ	備考
モルタル面	B種	B種	

8章 土工事

1. 根切り

- 周辺の状況、土質、地下水の状態等に適した工法を採用し、工事中の異常沈下、法面の滑動、その他による災害が発生しないよう、災害防止上必要な処置をすること。
- 敷地内に埋設が予想される設備配管類等について十分調査し、支障がないようにすること。
- 根切り底は、地盤をかく乱しないよう、手作業(深さ30cm程度)とするか、バケットに特殊アタッチメントを取りつけた機械掘りとする。なお、かく乱した場合は、自然地盤と同等以上の強度となるように適切な 処置を定め、監督職員の承諾を受ける。

2. 排水

工事に支障を及ぼす雨水、わき水等は、適正な排水溝、集水ます等を設置し、支障がないようにすること。

3. 埋戻し及び盛土

- 使用土は(A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種)とし、機器により締め固める。

4. 建設発生土の処理

- 場内敷き均しとする。

9章 鉄筋工事

1. 材料

規格番号	規格名称	種類の記号	径(mm)
JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295	D10、D13
—	建築基準法の規定に基づき認定を受けた鉄筋	—	
JIS G 3551	溶接金網及び鉄筋格子	網目の形状: 寸法: 径:	

2. 材料試験

材料試験は行わない。ただし、規格証明書を提出し、監督員の承諾を得ること。

3. 鉄筋の継手及び定着

- 鉄筋の継手は(重ね継手 ・ ガス圧接継手 ・ 機械式継手 ・ 溶接継手)とする。原則として、D35以上の異形鉄筋については、重ね継手を用いない。
- 鉄筋の継手の位置は図示による。
- 結束線の端部は内側に折り曲げる。
- 柱、梁の主筋は、(ガス圧接継手 ・ 機械式継手)とする。
- 耐力壁の鉄筋を重ね継手とする場合、重ね継手の長さは()mmとする。
- 先組み工法の柱、梁の主筋の継手は同一箇所としてもよい。
- スラブのスパーサーは鋼製を原則とし、他の箇所についても材種等について監督員の承諾を得ること。また、鋼製のスパーサーは、型枠に接する部分に防錆処理を行ったものとする。ただし、地層を有しない階土間を除く。
- 鉄筋の90°未満の折曲げの内法直径は図示による。
- 鉄筋の定着方法及び長さは図示による。

4. 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

- 柱、梁の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、標仕表5.3.6の数値に10mmを加えた数値を標準とする。
- 目地がある場合のかぶりは、目地底からの寸法とする。
- 杭基礎の場合のかぶりの厚さは、杭先端からとする。
- 各部の配筋は、図示による。図示されていない場合は、標仕参考図[1節—基礎及び基礎梁の配筋]～[7節—梁貫通孔その他配筋]による。

5. 配筋検査

主要な配筋は、コンクリート打込みに先立ち、種類、径、数量、かぶり、間隔、位置等について、監督職員の検査を受ける。

10章 コンクリート工事

1. 一般事項

- コンクリートの種別
 - I 類(JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)
 - II 類(JIS A 5308への適合したコンクリート)

② 設計基準強度

コンクリートの種類	設計基準強度 Fc(N/mm2)	調査管理強度 Fm(N/mm2)	スラブ (cm)	強度試験の有無	種別	気乾単位容積 重量 (t/m3)	適用箇所
躯体	21	24	15	無	普通	2.3	ハト小屋
土間・外構	21	24	15	無	普通	2.3	スロープ
捨てコン	18	—	18	無	普通	2.3	スロープ

- 構造体コンクリートの調査管理強度は、設計基準強度(Fc)に構造体強度補正值(S)を加えた値とする。
なお、構造体強度補正值(S)は標仕 表6.3.2によりセメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢 28日までの予想平均気温に応じて定める。
- コンクリートの強度試験については、次のとおり取扱うものとする。
 - 第4週強度確認原則、第3者機関にて、主任技術者又は現場代理人立会いの上、行うこと。ただし、第3者機関以外で行う場合は、立ち会い者を定め、監督員の承認を受け、行うこととする。
なお、試験機関を選定した際には、すみやかに監督員に報告すること。

2. コンクリートの仕上がり

- コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容値は、標仕 表6.2.3による。
- 合板せき板を用いる打放し上げの種別は(A ・ B ・ C)種とする。
- コンクリートの仕上りの平坦さは標仕 表6.2.5による。

3. 普通コンクリート

- セメントの種類は、(普通ポルトランドセメント ・ 混合セメントA種 ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種)とする。
 - 高炉セメントB種適用箇所()
 - フライアッシュセメントB種適用箇所()
- 骨材は、標仕6.3.1(2)による。
- 細骨材としてポロコックスラグ使用(できる ・ できない)。
- 細骨材に含まれる塩化物量は、NaCl換算で0.04%以下とする。
- コンクリート中の塩化物量は、0.3kg/m3以下とし、試験方法は標仕6.5.4Iによる。
- 試験りは(行う ・ 行わない)。
- 所要空気量は4.5%±1.5%とする。
- 安法者は、コンクリートの使用にあたってアルカリ骨材反応を抑制するため、次の3つの対策の中のいずれか1つについて確認をとらなければならない。
 - コンクリート中のアルカリ総量の抑制
アルカリ量が表示されたポルトランドセメント等を使用し、コンクリート1m3に含まれるアルカリ総量をNa2O(エヌエー zeroes)換算で3.0kg以下にする。
 - 抑制効果のある混合セメント等の使用
JIS R 5211高炉セメントに適合する高炉セメント[B種またはC種]あるいはJIS R 5213フライアッシュセメントに適合するフライアッシュセメント[B種またはC種]もしくは混和材をポルトランドセメントに混入した結合材でアルカリ骨材反応抑制効果の確認されたものを使用する。
 - 安全と認められる骨材の使用
骨材のアルカリシリカ反応性試験(化学法またはモルタルバー法)の結果で無害と確認された骨材を使用する。
試験方法は、JIS A 1145骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(化学法)またはJIS A 5308(レディミクストコンクリート)の付属書7「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(化学法)」JIS A 1146骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)またはJIS A 5308(レディミクストコンクリート)の付属書8「骨材のアルカリシリカ反応性試験方法(モルタルバー法)」による。
- 混和材料を使用する場合の種類は標仕6.3.1(4)によることとし、監督員の承諾を受けること。

4. レディミクストコンクリート工場の指定

工事開始に先立ち、工場を選定し、監督職員の承諾を受ける。

5. 型枠

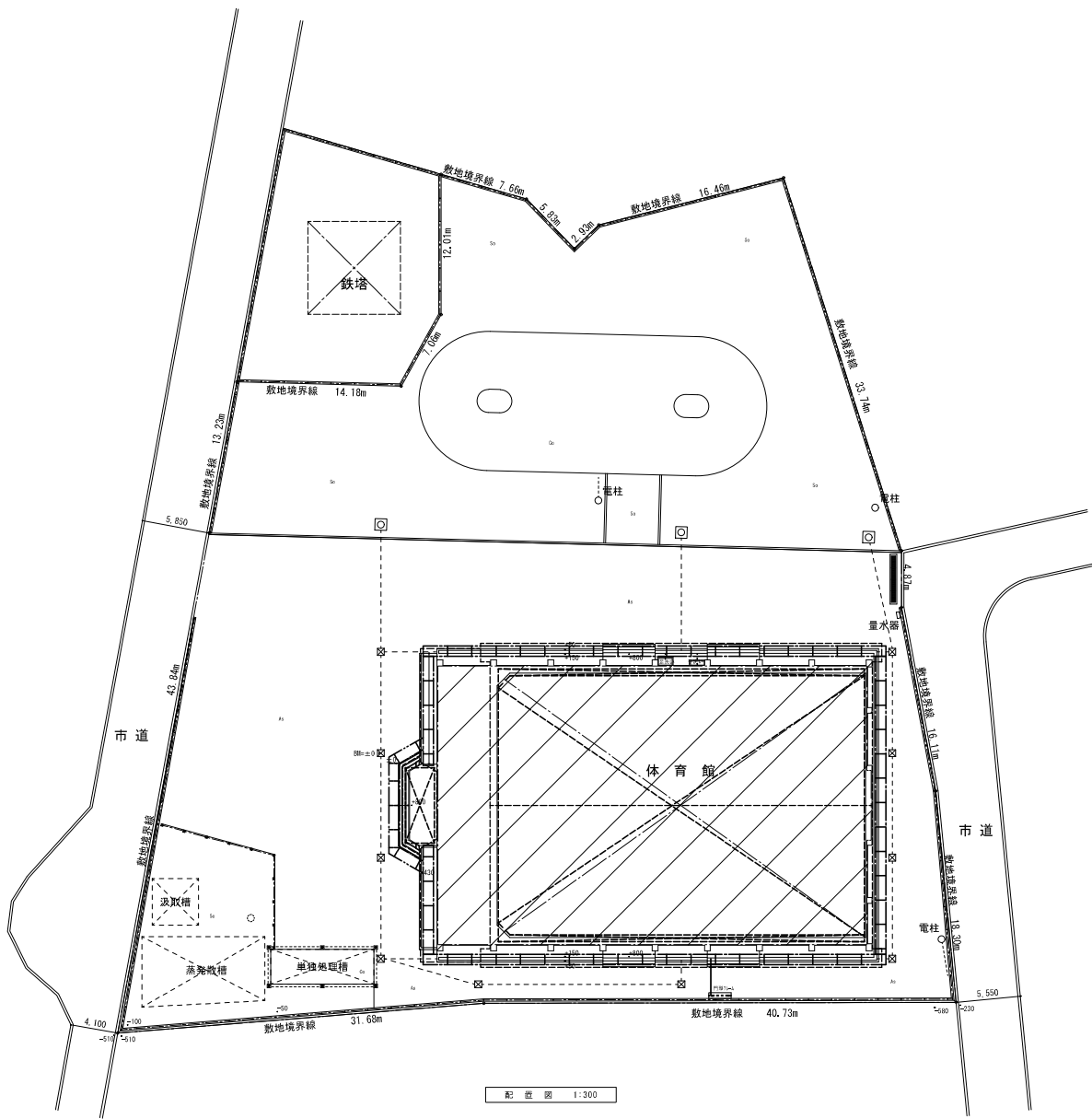
- 型枠は、(県産木製型枠 ・ 合板 ・ 金属製 ・ 樹脂系 ・ 打込み型枠 ・ ブロック)とする。

型枠の種類	仕上り種別	塗装の有無	材質	厚さ	適用箇所
県産木製型枠	—	なし			
標仕6.8.2 (2Xア)	A種	あり			
標仕6.8.2 (2Xイ)	B種	なし	合板	12	ハト小屋、スロープ、タラップ基礎
標仕6.8.2 (2Xイ)	C種	なし			
標仕6.8.2 (2Xイ)	普通型枠	なし			

- スリーブの材質()
- 打ち放し仕上りの打ち増し厚さは()mmとし、打ち増しの範囲は図示による。
- 打ち放し仕上りのコーンは原則、Pコンとする。また脱型後の穴埋めは、樹脂モルタルにより打ち放し面より2mm程度、引込める。

6. 無筋コンクリート

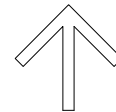
- 無筋コンクリートは、次の場合に適用する。
 - 捨てコンクリート
 - 補強筋を必要としないコングリット
- 設計基準強度(18)N/mm2、スラブ(15)cm



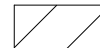
仮設工事凡例

- 鉄筋コンクリート W=6m H=1.8m
- 成形鋼板 H = 2m
- 外部足場 W=900 (防音ネット)
- ハネ出し足場 W=600 (防音ネット)
- 棚足場

※ 仮囲い範囲は監督員との協議による



<凡 例>

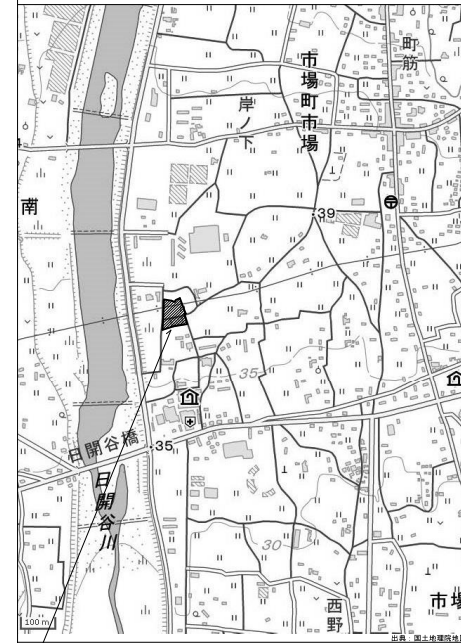


改修建物を示す

・+800

現況レベルを示す

附近見取図



工事箇所 阿波市市場町市場 市場体育館

工事概要

工事種目 体育館大規模改修工事

構造・規模 R C造 1階建て 一部S造 延べ床面積 888 m²

工事内容 外部改修工事 屋根(折板屋根)77k²μ系塗膜防水

外壁ひび割れ補修、外装改修

内部改修工事 トイレ洋式化、多目的トイレ設置、内装改修

バリアフリー撤去、コトライ改修

設備改修工事 照明器具LED化、合併浄化槽設置

その他工事 上記改修工事に伴う附属工事

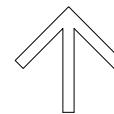
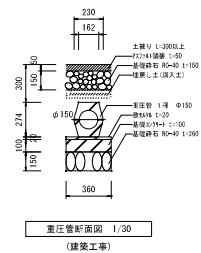
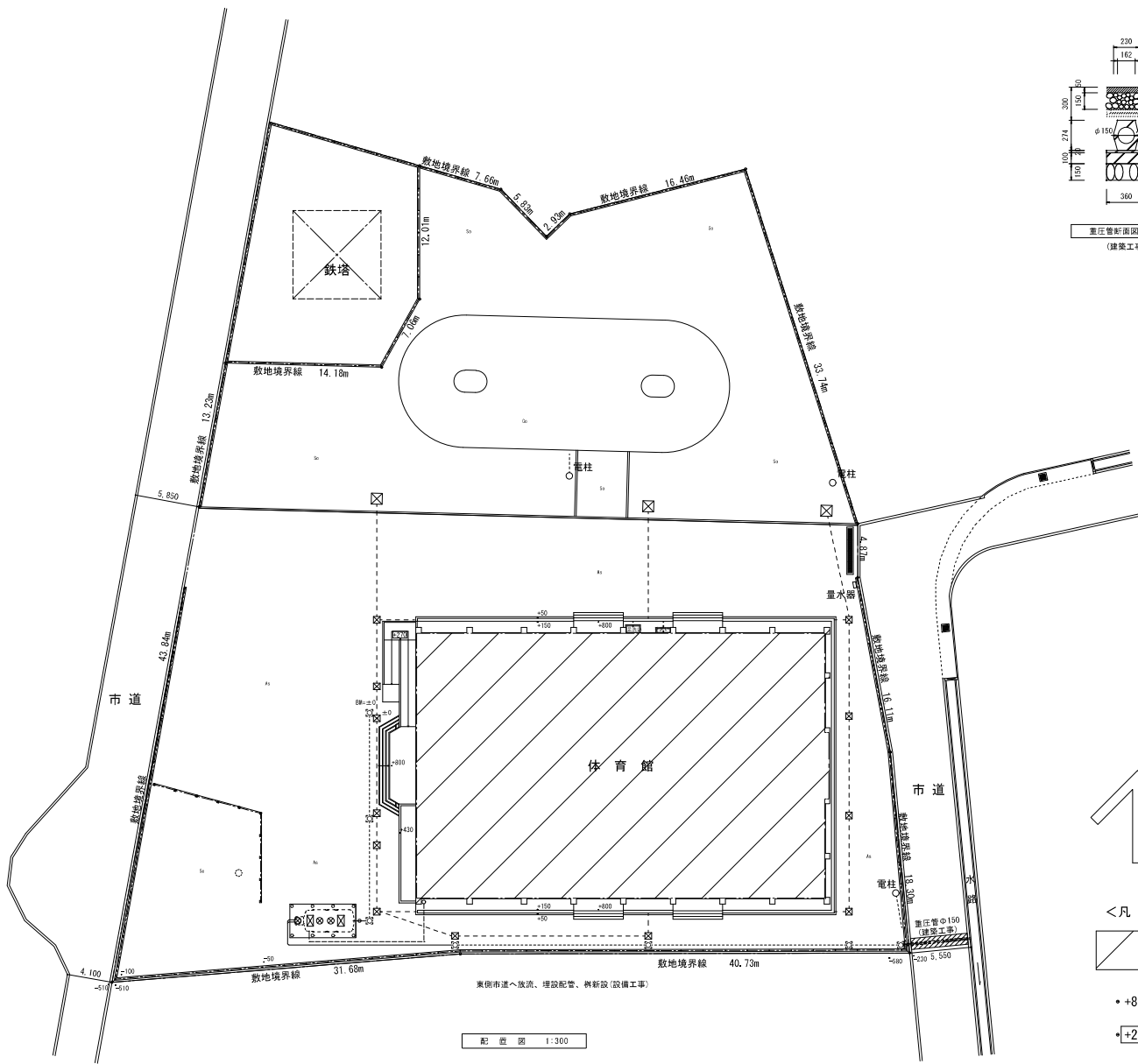
GENERAL PLANNING
EXHIBITION DESIGN



株式会社 平島弘之+ TEAM28
HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES

一級建築士 第 326775 号 岩佐浩司

TITLE 阿波中学校校舎屋上防水改修工事	DATE -
DRAWING 改修前配置図・附近見取図・仮設計計画図	SCALE A2 : 1/300 A3 : × 70%
OWNER	NO. A-01



<凡 例>



改修建物を示す

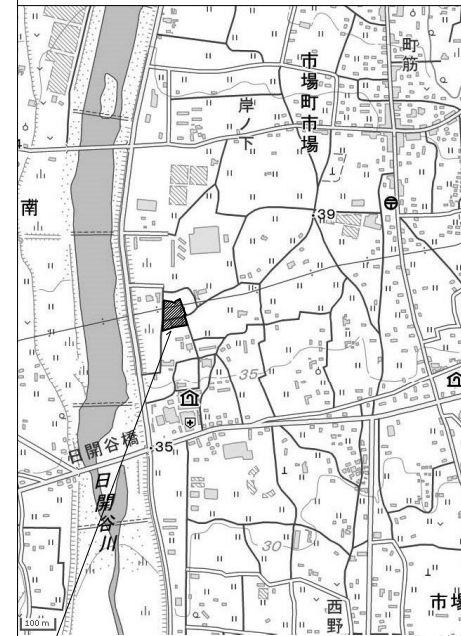
• +800

現況レベルを示す

• +270

改修後レベルを示す

附近見取図



工事箇所：阿波市市場町市場 市場体育館

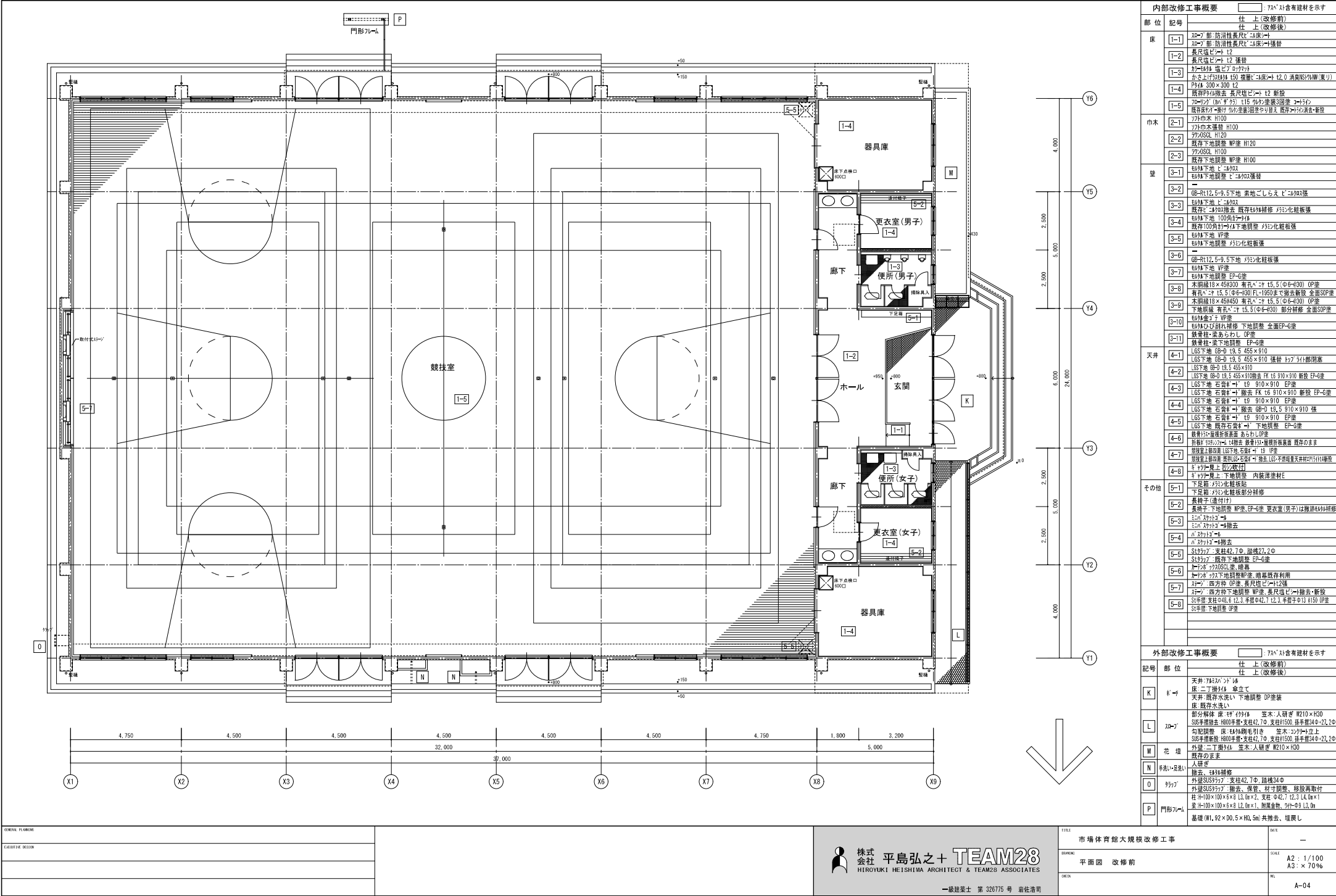
GENERAL PLANNING	
EXISTING DESIGN	

株式会社 平島弘之+ TEAM28
HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES

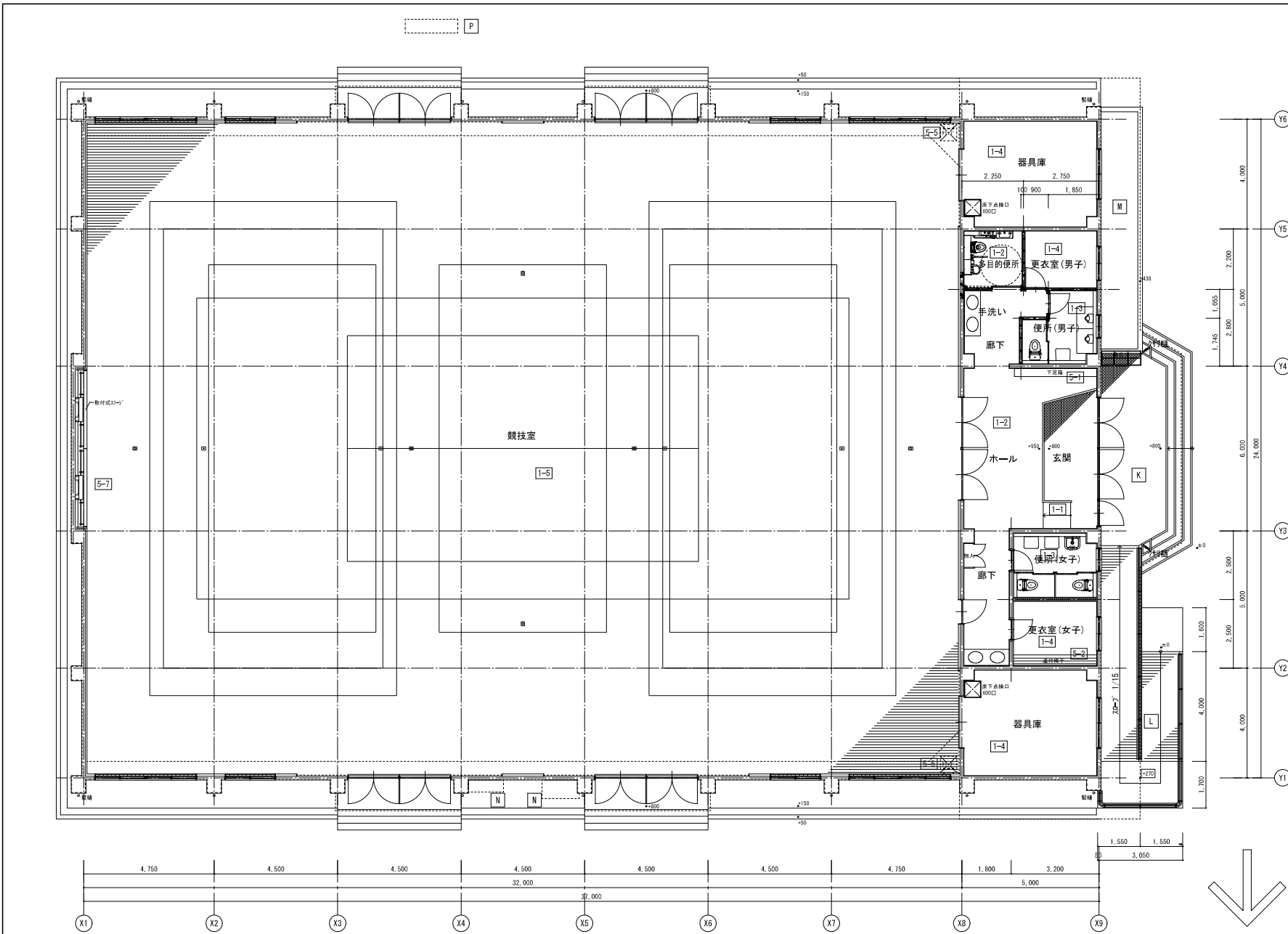
一級建築士 第 326775 号 岩佐浩司

TITLE 阿波中学校校舎屋上防水改修工事	DATE —
DRAWING 改修後配置図・附近見取図	SCALE A2 : 1/300 A3 : × 70%
OWNER	NO. A-02

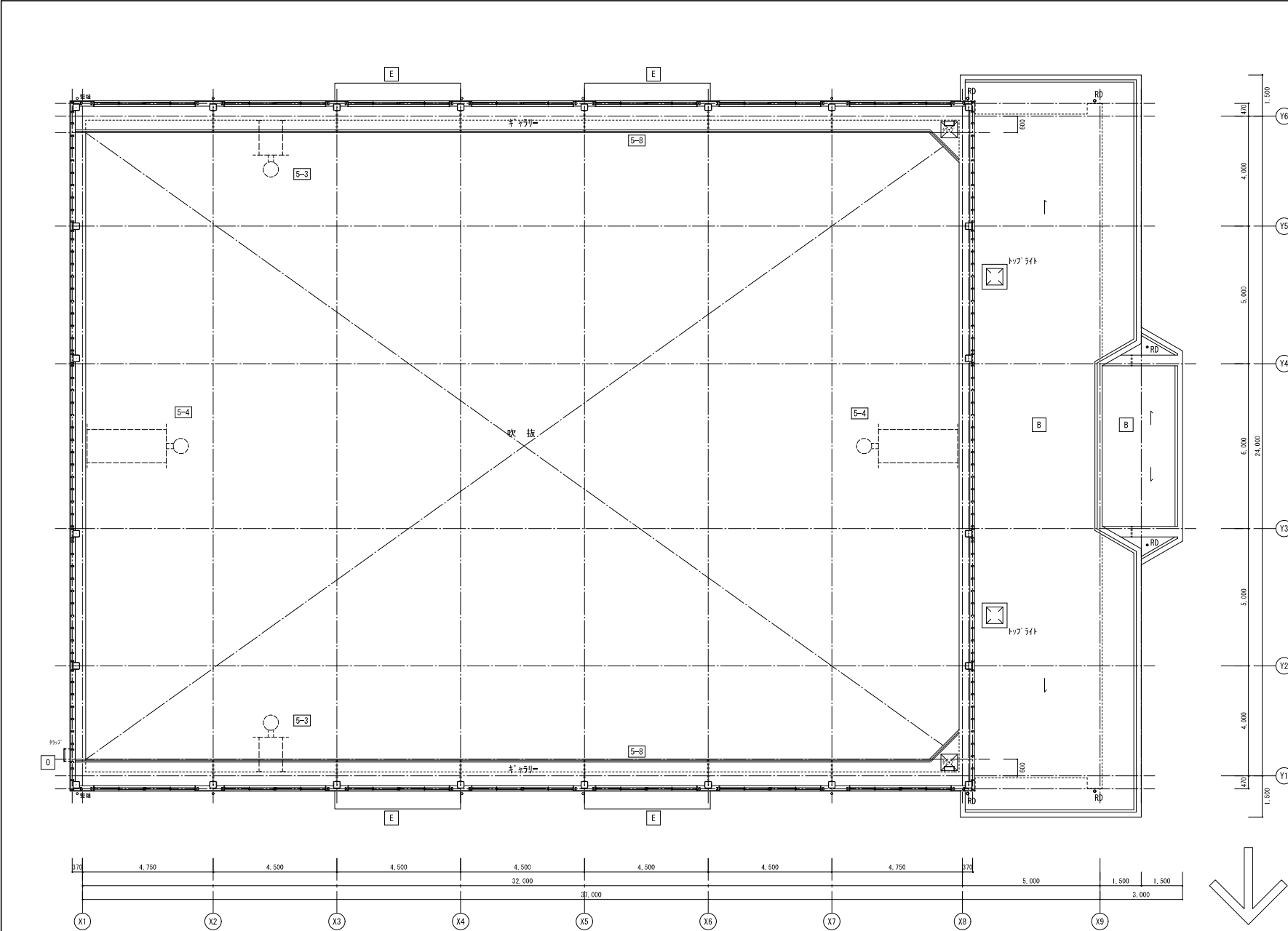
株式会社 平島弘之 + TEAM28
HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES
一級建築士 第 326775 号 岩佐浩司



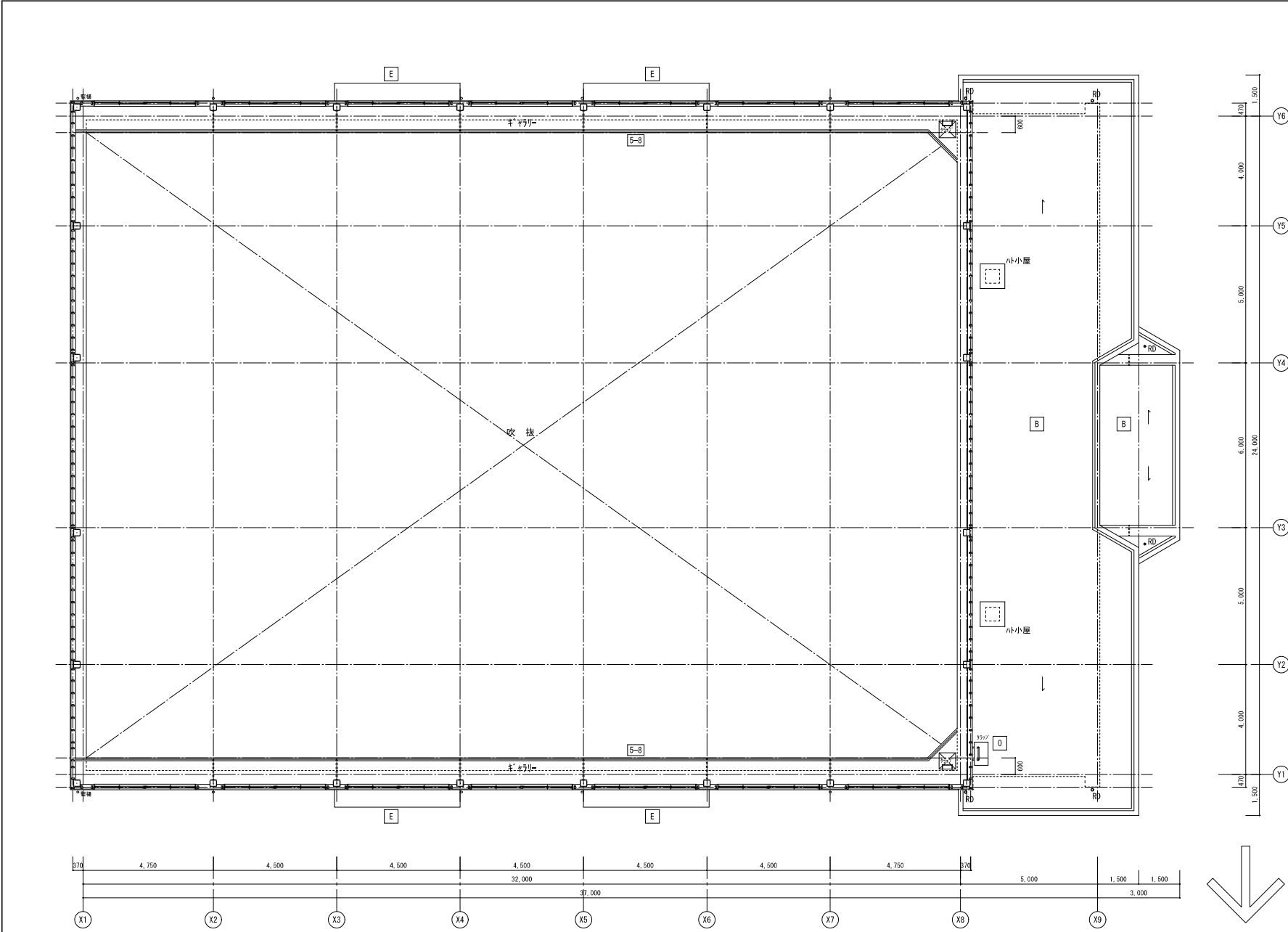
内部改修工事概要		77㎡以上含有建材を示す
部 位	記号	仕 上 (改修前) 仕 上 (改修後)
床	1-1	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	1-2	長尺塩ビ 12 通替 1-18床 塩ビ 12 通替
	1-3	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	1-4	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	1-5	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
巾木	2-1	200巾木 H100 200巾木 H100
	2-2	200巾木 H100 200巾木 H100
	2-3	200巾木 H100 200巾木 H100
	2-4	200巾木 H100 200巾木 H100
	2-5	200巾木 H100 200巾木 H100
壁	3-1	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	3-2	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	3-3	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	3-4	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	3-5	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
天井	4-1	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	4-2	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	4-3	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	4-4	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	4-5	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
その他	5-1	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	5-2	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	5-3	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	5-4	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
	5-5	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
外部改修工事概要		77㎡以上含有建材を示す
記号	部 位	仕 上 (改修前) 仕 上 (改修後)
K	玄関	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
L	ホール	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
M	更衣室(男子)	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
N	更衣室(女子)	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
O	トイレ(男子)	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替
P	トイレ(女子)	100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替 100φ 部 防湿性長尺 2床 12 通替



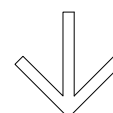
内部改修工事概要		77㎡以上含有建材を示す
部 位	記号	仕 上 (改修前)
		仕 上 (改修後)
床	1-1	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	1-2	長尺塩ビシート 12 種
	1-3	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	1-4	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	1-5	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
木 目	2-1	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	2-2	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	2-3	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
壁	3-1	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	3-2	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	3-3	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	3-4	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	3-5	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	3-6	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	3-7	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	3-8	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	3-9	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	3-10	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	3-11	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
天井	4-1	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	4-2	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	4-3	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	4-4	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	4-5	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	4-6	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	4-7	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	4-8	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
その他	5-1	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	5-2	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	5-3	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	5-4	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	5-5	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	5-6	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	5-7	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
	5-8	207 部 防汚性長尺ビニル床シート
外部改修工事概要		77㎡以上含有建材を示す
記号	部 位	仕 上 (改修前)
		仕 上 (改修後)
K	ト ーチ	天井: 775X775X100 石膏ボード
	ト ーチ	床: 207 部 防汚性長尺ビニル床シート
L	775X775	天井: 775X775X100 石膏ボード
	775X775	床: 207 部 防汚性長尺ビニル床シート
M	花 壇	天井: 775X775X100 石膏ボード
	花 壇	床: 207 部 防汚性長尺ビニル床シート
N	手洗い・足洗い	天井: 775X775X100 石膏ボード
	手洗い・足洗い	床: 207 部 防汚性長尺ビニル床シート
P	門前775X775	天井: 775X775X100 石膏ボード
	門前775X775	床: 207 部 防汚性長尺ビニル床シート



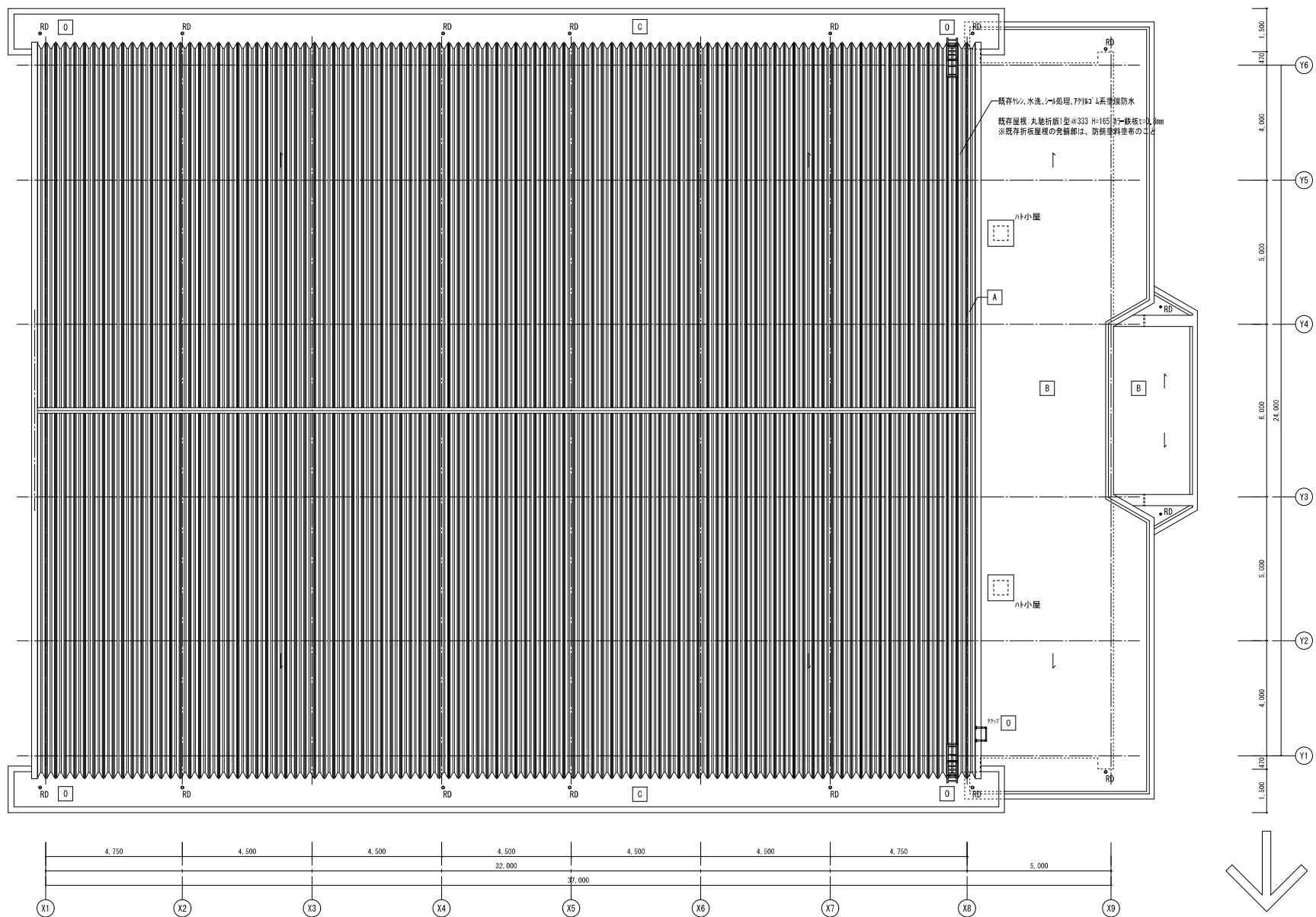
内部改修工事概要		72ﾊﾞﾙ含有建材を示す
部 位	記 号	仕 上 (改修前)
		仕 上 (改修後)
床	1-1	20ﾌﾟﾙ 防汚性長尺ﾋﾞｰｽﾞ床(ﾏ)
	1-2	20ﾌﾟﾙ 防汚性長尺ﾋﾞｰｽﾞ床(ﾏ) 薄盤
	1-3	長尺塩ﾋﾞｰｽﾞ 12 薄盤 ｸﾞﾗｽﾏｯﾌﾟ250x150 薄盤(ﾏ) 2.0 薄盤(ﾏ) (東リ)
	1-4	ｸﾞﾗｽ 300x300 12 既存ｸﾞﾗｽ撤去 長尺塩ﾋﾞｰｽﾞ 12 新設
	1-5	20ﾌﾟﾙ(ﾏ) ｸﾞﾗｽ 1.5 ｸﾞﾗｽ(薄盤3層) ｸﾞﾗｽ(ﾏ) 既存ｸﾞﾗｽ撤去 ｸﾞﾗｽ ｸﾞﾗｽ(薄盤3層) ｸﾞﾗｽ 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 新設
巾木	2-1	ｸﾞﾗｽ巾木 H100 ｸﾞﾗｽ巾木撤去 H100
	2-2	既存下地既存 ｸﾞﾗｽ H120
	2-3	既存下地既存 ｸﾞﾗｽ H100
壁	3-1	ｸﾞﾗｽ下地 ｸﾞﾗｽ ｸﾞﾗｽ下地既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	3-2	ｸﾞﾗｽ(12.5x9.5下地 薄盤) ｸﾞﾗｽ(12.5x9.5下地 薄盤)
	3-3	ｸﾞﾗｽ下地 ｸﾞﾗｽ 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	3-4	ｸﾞﾗｽ下地 100角ｸﾞﾗｽ 既存 100角ｸﾞﾗｽ下地既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	3-5	ｸﾞﾗｽ下地 ｸﾞﾗｽ 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	3-6	ｸﾞﾗｽ(12.5x9.5下地 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	3-7	ｸﾞﾗｽ下地 ｸﾞﾗｽ 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	3-8	木間壁 10x450x300 有孔ﾊﾞﾙ 15.5(ｸﾞﾗｽ-400) ｸﾞﾗｽ 有孔ﾊﾞﾙ 15.5(ｸﾞﾗｽ-400) 有孔ﾊﾞﾙ 15.5(ｸﾞﾗｽ-400) 全面SOP
	3-9	木間壁 10x450x300 有孔ﾊﾞﾙ 15.5(ｸﾞﾗｽ-400) ｸﾞﾗｽ 下地既存 有孔ﾊﾞﾙ 15.5(ｸﾞﾗｽ-400) 部分補修 全面SOP
	3-10	既存 ｸﾞﾗｽ ｸﾞﾗｽ 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 下地既存 全面EP-6
	3-11	既存 ｸﾞﾗｽ ｸﾞﾗｽ 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 下地既存 全面EP-6
天井	4-1	LS下地 ｸﾞﾗｽ 13.5 455x910 LS下地 ｸﾞﾗｽ 13.5 455x910 薄盤 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	4-2	LS下地 ｸﾞﾗｽ 13.5 455x910 薄盤 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	4-3	LS下地 石畳 ｸﾞﾗｽ 19 910x910 EP
	4-4	LS下地 石畳 ｸﾞﾗｽ 19 910x910 EP LS下地 石畳 ｸﾞﾗｽ 19 910x910 EP
	4-5	LS下地 石畳 ｸﾞﾗｽ 19 910x910 EP LS下地 既存 石畳 ｸﾞﾗｽ 下地既存 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	4-6	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	4-7	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	4-8	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	4-9	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	4-10	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
その他	5-1	下足箱 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	5-2	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	5-3	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	5-4	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	5-5	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	5-6	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	5-7	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	5-8	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	5-9	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)
	5-10	既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤) 既存 ｸﾞﾗｽ(薄盤)




内部改修工事概要			7/21' 以上有建材を示す
部 位	記号	仕 上 (改修前)	仕 上 (改修後)
床	[1-1]	20> 部 防滑性長尺ビニール床	20> 部 防滑性長尺ビニール床
	[1-2]	長尺ビニール 12	長尺ビニール 12 新設
	[1-3]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[1-4]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[1-5]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
巾木	[2-1]	20>巾木 H100	20>巾木 H100
	[2-2]	既存20>巾木 H100	既存20>巾木 H100
	[2-3]	既存20>巾木 H100	既存20>巾木 H100
壁	[3-1]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[3-2]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[3-3]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[3-4]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[3-5]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[3-6]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[3-7]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[3-8]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[3-9]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[3-10]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
天井	[4-1]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[4-2]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[4-3]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[4-4]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[4-5]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[4-6]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[4-7]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[4-8]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[4-9]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[4-10]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
その他	[5-1]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[5-2]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[5-3]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[5-4]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[5-5]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[5-6]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[5-7]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[5-8]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[5-9]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	[5-10]	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
外部改修工事概要			7/21' 以上有建材を示す
記号	部 位	仕 上 (改修前)	仕 上 (改修後)
B	屋根 (2)	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	(R C部)	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
E	庇・梁底	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	外壁	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
O	外壁	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
	外壁	既存20>防滑性長尺ビニール床	既存20>防滑性長尺ビニール床
市場体育館大規模改修工事			—
スケッチ平面図 改修後			A2 : 1/100 A3 : 70%
—般建築士 第 326775 号 岩佐浩司			A-07

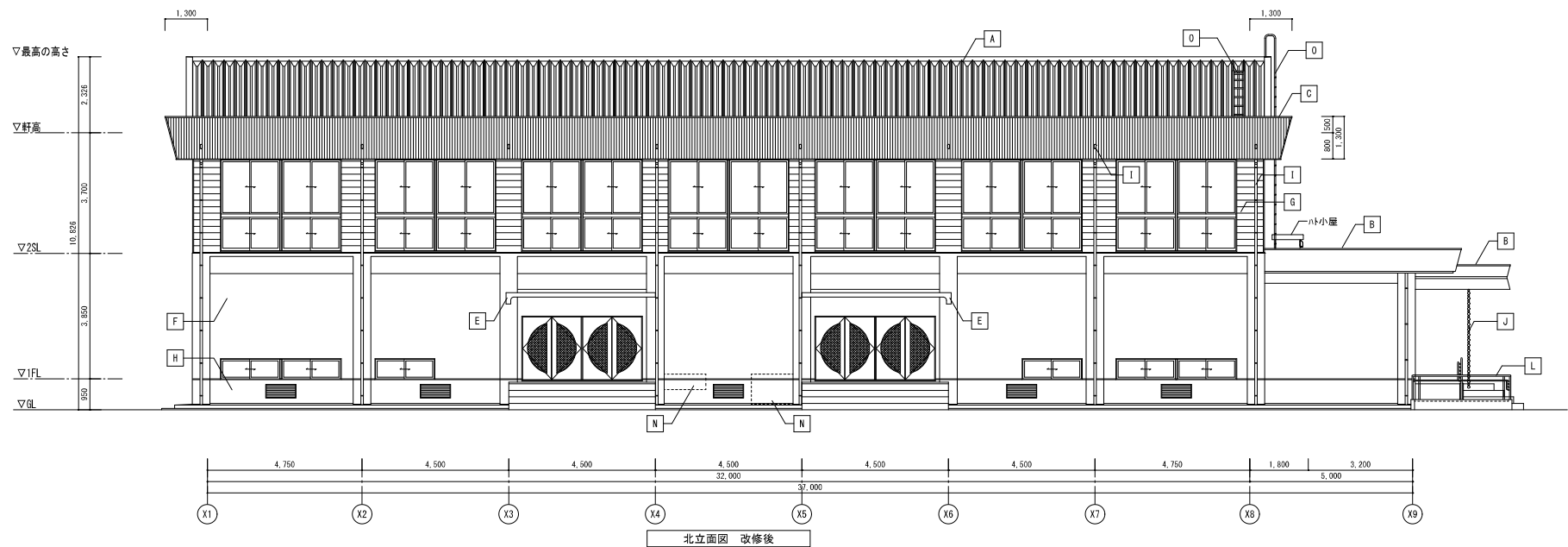
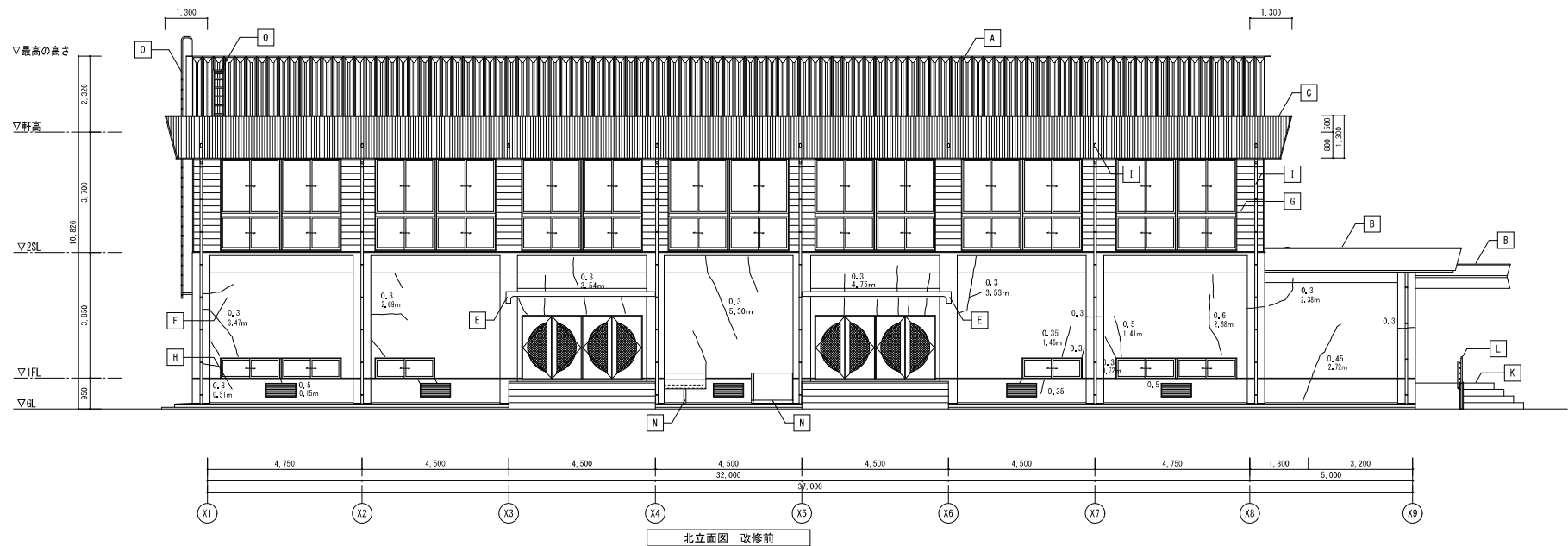


		DATE	—
観模改修工事		SCHALE	A2 : 1/100 A3 : × 70%
客前		NEL	A-08

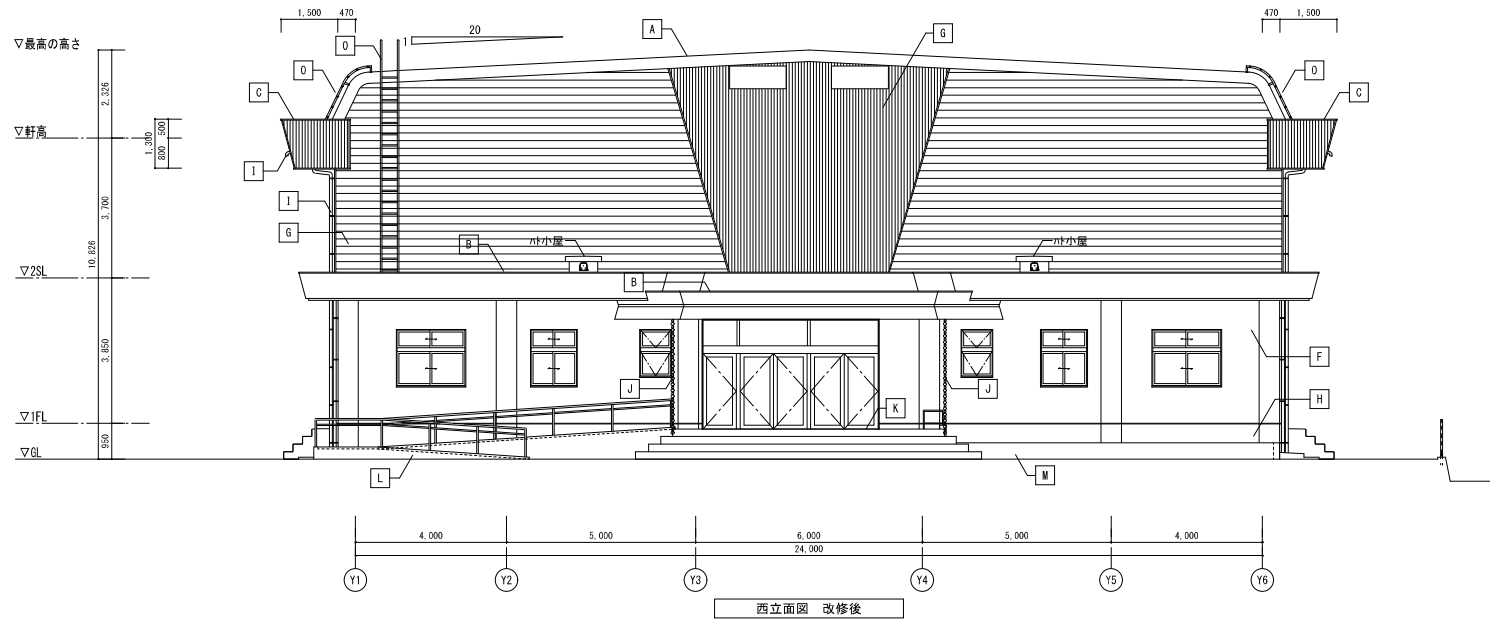


外部改修工事概要		75x25x高有建材を示す	
記号	部 位	仕 上 (改修前)	仕 上 (改修後)
A	屋根(1) (鉄骨部)	丸丸折板 10.0×8×180 8×150x70x14 張	屋根板 既存の丸丸折板 4×40張、75x25x高有建材 17x31x5 張を張設 排水部 既存折板 17x150x71x14 張を
B	屋根(2) (R.C部)	16x34下地 4×5×200 断熱性17x 内断熱断熱板 既存折板 丸丸折板 有金物等、17x、清漆、下地断熱板 17x31x5 張を張設 4×40x200 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	内断熱 丸丸折板 17x31x5 張を張設
C	角 柱	内断熱 丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	内断熱 丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
D	軒 天	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
E	窓・梁窓	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
F	外壁(1) (R.C部)	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
G	外壁(2) (鉄骨部)	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
H	巾 木	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
I	付 け 付 け	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
J	付 け	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
K	付 け	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
L	付 け	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
M	花 壇	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
N	手洗い・足洗い	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
O	付 け	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等
P	門部付	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等	丸丸折板 17x31x5 張を張設 17x31x5 中込断熱板 丸丸折板等

DESIGN: PLANNING		 株式会社 平島弘之 + TEAM28 HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES 一級建築士 第 326775 号 岩佐浩司	TITLE	市場体育館大規模改修工事	DATE	—
EXHIBIT DIV. DESIGN			SKETCH	屋根伏図 改修後	SCALE	A2 : 1/100 A3 : × 70 %
			GRAPH		NO.	A-09

[illegible]

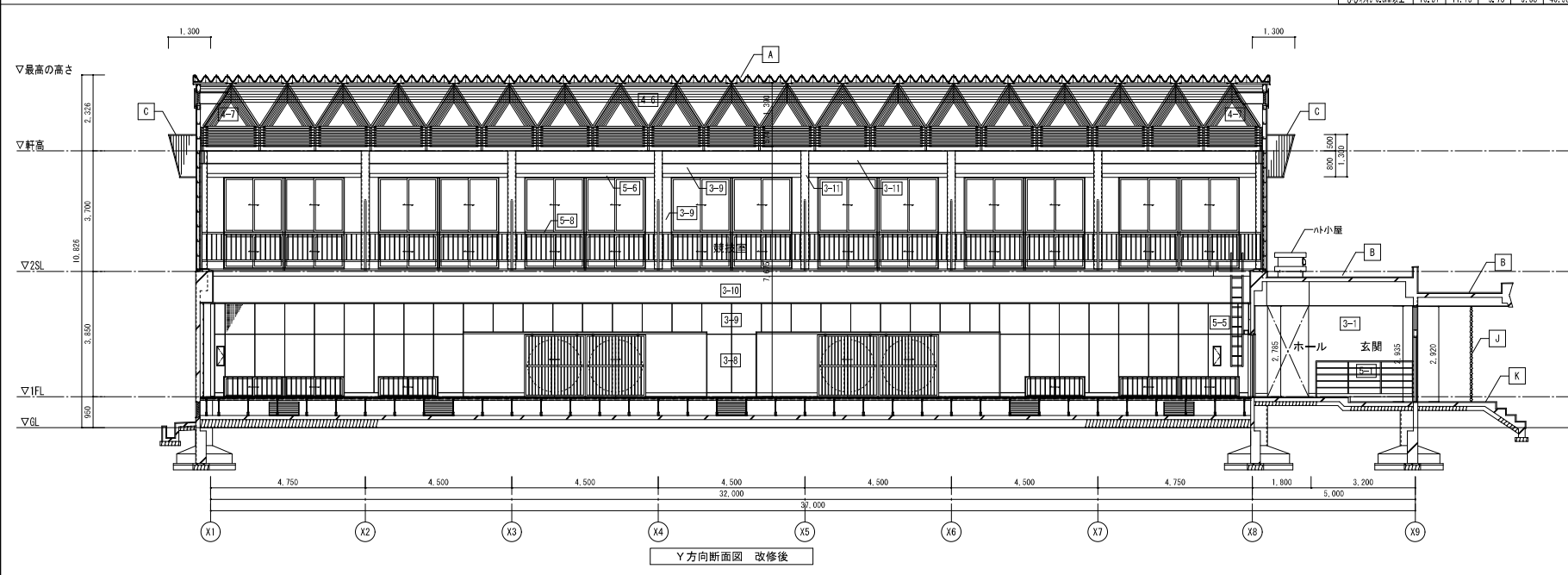
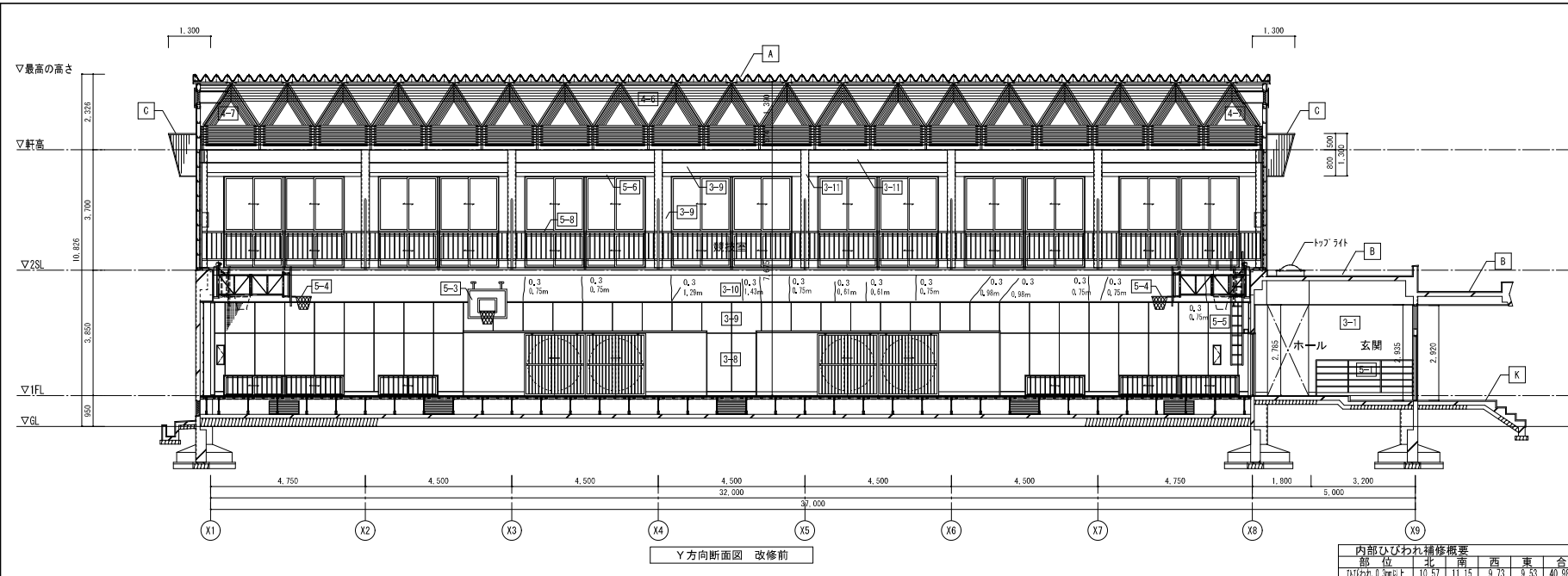
	部 位	北	南	西	東	合計
項目	ひびわれ 0.3mm超	8.27	7.61	11.19	9.53	36.60 m
	ひびわれ 0.3mm以下	26.38	18.36	7.00	24.97	76.71 m
	モルタル浮き補修	0.00	2.11	0.33	1.31	3.75 m2
	軒タ浮き補修	1.95	1.95	0.00	0.00	3.90 m2
	コンクリート層割れ補修	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00 m2

[illegible]

ひびわれ補修概要						
部 位		北	南	西	東	合計
項目	ひびわれ 0.3mm超	8.27	7.61	11.19	9.53	36.60 m
	ひびわれ 0.3mm以下	26.38	18.36	7.00	24.97	76.71 m
	モルタル浮き補修	0.00	2.11	0.33	1.31	3.75 m ²
	軒天浮き補修	1.95	1.95	0.00	0.00	3.90 m ²
	カポタノ漏れ補修	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00 m ²

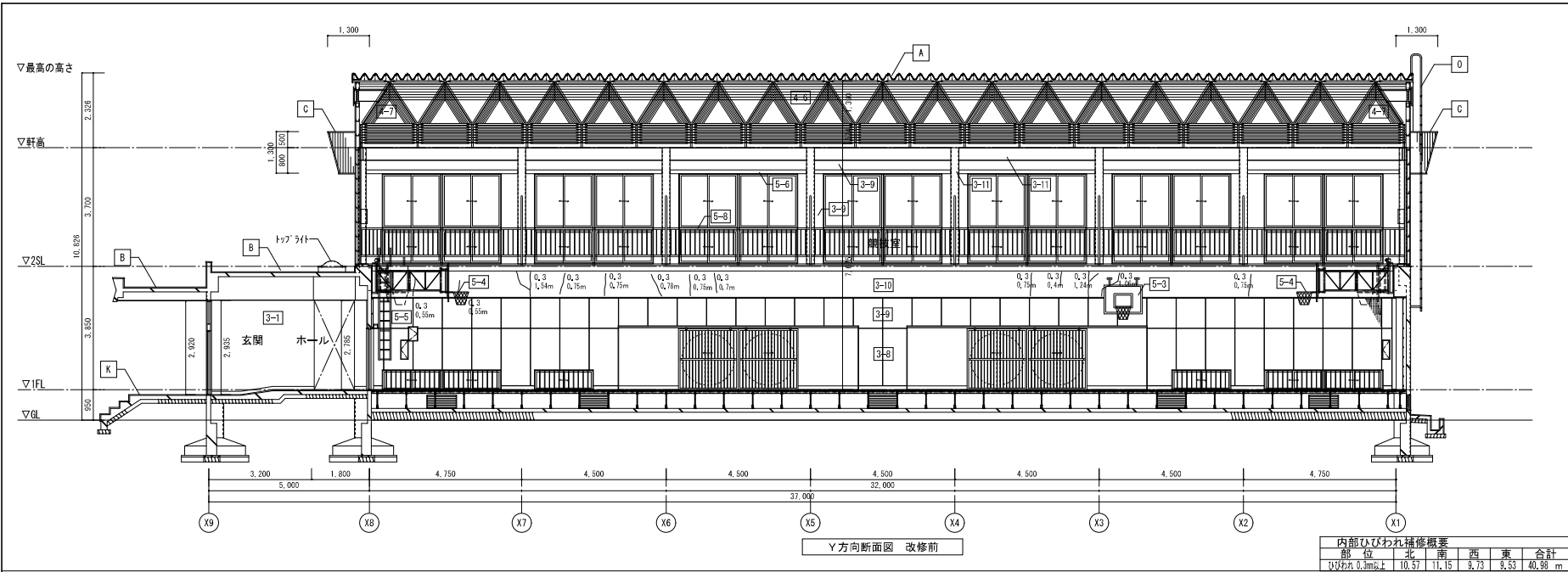
ひびわれ補修概要

株式会社 平島弘之 + TEAM28
HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES




内部改修工事概要		73㎡以上有延材を示す
部 位	記 号	仕 上 (改修前) 仕 上 (改修後)
床	1-1	200部 防汚性長尺ビニル床材 200部 防汚性長尺ビニル床材強化
	1-2	長尺塩ビシート 長尺塩ビシート強化
	1-3	700×900塩ビタイル 600×600塩ビタイル強化
	1-4	既存PVC床 長尺塩ビシート強化 既存PVC床 長尺塩ビシート強化
	1-5	200部 (600×900) 115 600×900強化 既存床材を撤去し、600×900強化床材を敷設
巾木	2-1	700巾木 H100 700巾木 H100
	2-2	既存床下地盤 既存 H100 既存床下地盤 既存 H100
	2-3	既存床下地盤 既存 H100 既存床下地盤 既存 H100
壁	3-1	既存下地 既存 既存下地 既存
	3-2	既存下地 既存 既存下地 既存
	3-3	既存下地 既存 既存下地 既存
	3-4	既存下地 既存 既存下地 既存
	3-5	既存下地 既存 既存下地 既存
	3-6	既存下地 既存 既存下地 既存
	3-7	既存下地 既存 既存下地 既存
	3-8	既存下地 既存 既存下地 既存
	3-9	既存下地 既存 既存下地 既存
	3-10	既存下地 既存 既存下地 既存
天井	4-1	既存天井 既存 既存天井 既存
	4-2	既存天井 既存 既存天井 既存
	4-3	既存天井 既存 既存天井 既存
	4-4	既存天井 既存 既存天井 既存
	4-5	既存天井 既存 既存天井 既存
	4-6	既存天井 既存 既存天井 既存
	4-7	既存天井 既存 既存天井 既存
	4-8	既存天井 既存 既存天井 既存
	4-9	既存天井 既存 既存天井 既存
	4-10	既存天井 既存 既存天井 既存
その他	5-1	既存天井 既存 既存天井 既存
	5-2	既存天井 既存 既存天井 既存
	5-3	既存天井 既存 既存天井 既存
	5-4	既存天井 既存 既存天井 既存
	5-5	既存天井 既存 既存天井 既存
	5-6	既存天井 既存 既存天井 既存
	5-7	既存天井 既存 既存天井 既存
	5-8	既存天井 既存 既存天井 既存
	5-9	既存天井 既存 既存天井 既存
	5-10	既存天井 既存 既存天井 既存

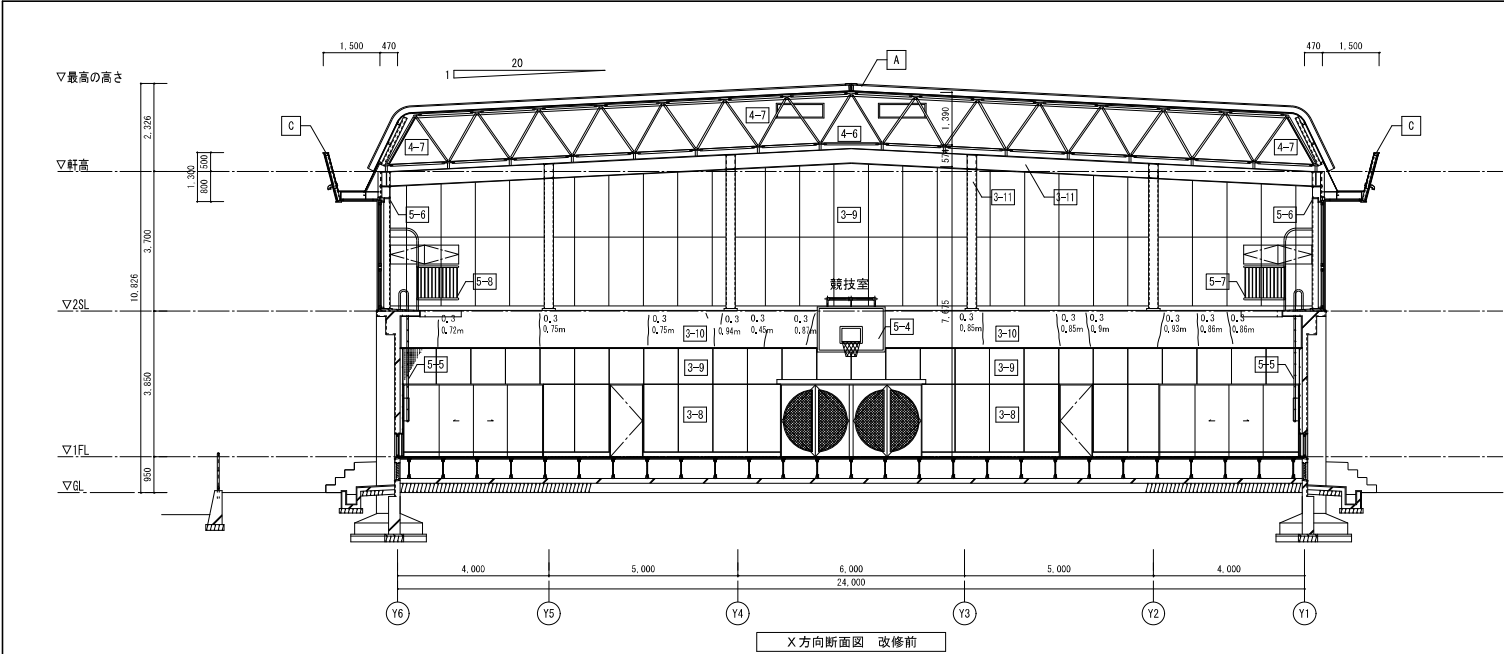
内部ひびわれ補修概要					
部 位	北	南	西	東	合計
ひびわれの長さ(m)	10.57	11.15	9.73	9.33	40.98



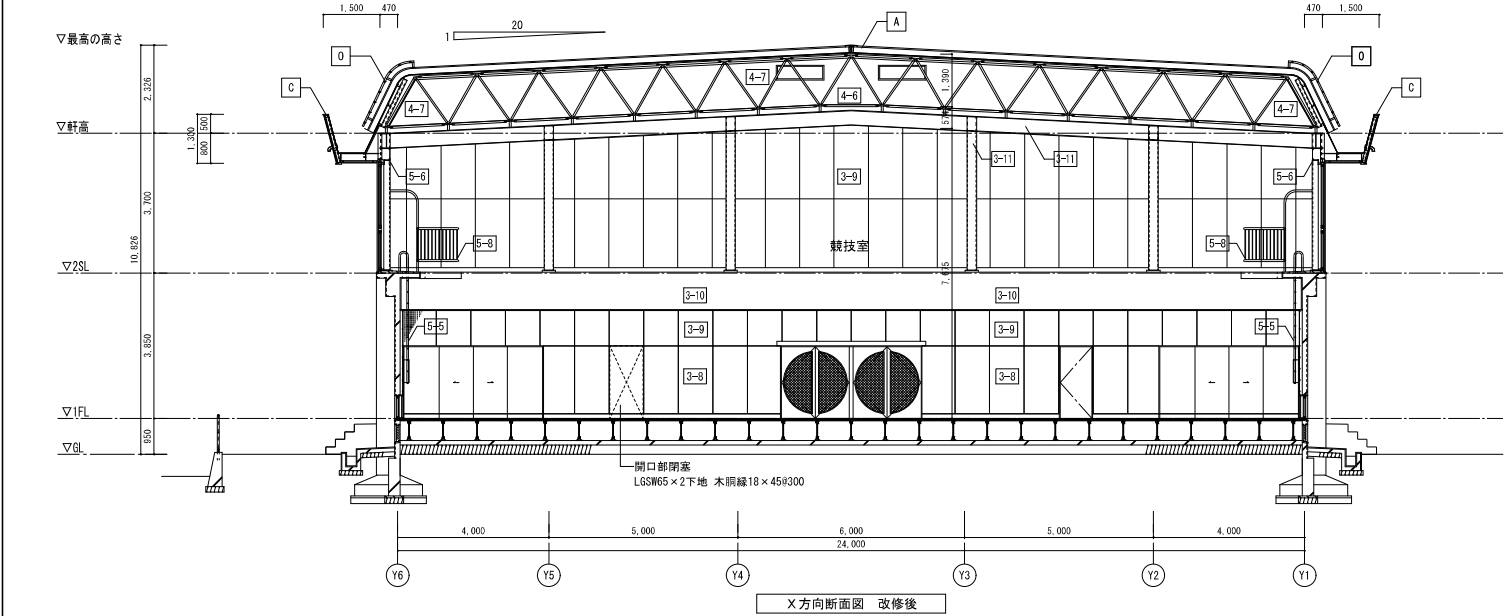
内部改修工事概要		73ページ含有建材を示す
部 位	記号	仕 上 (改修前) 仕 上 (改修後)
床	1-1	207部: 防汚性長尺L2床(2)
	1-2	207部: 防汚性長尺L2床(2)補修
	1-3	長尺塩ビシート 補修
	1-4	既存PVC板表 長尺塩ビシート 新設
	1-5	207部: (207部) L15 防汚性長尺L2床(2) 補修
木 巾	2-1	730木巾床 H100
	2-2	既存下地調整 既設 H120
	2-3	既存下地調整 既設 H100
	3-1	既存下地調整 既設 H100
	3-2	既存下地調整 既設 H100
壁	3-1	既存下地調整 既設 H100
	3-2	既存下地調整 既設 H100
	3-3	既存下地調整 既設 H100
	3-4	既存下地調整 既設 H100
	3-5	既存下地調整 既設 H100
	3-6	既存下地調整 既設 H100
	3-7	既存下地調整 既設 H100
	3-8	既存下地調整 既設 H100
	3-9	既存下地調整 既設 H100
	3-10	既存下地調整 既設 H100
天井	3-11	既存下地調整 既設 H100
	3-12	既存下地調整 既設 H100
	3-13	既存下地調整 既設 H100
	3-14	既存下地調整 既設 H100
	3-15	既存下地調整 既設 H100
	3-16	既存下地調整 既設 H100
	3-17	既存下地調整 既設 H100
	3-18	既存下地調整 既設 H100
	3-19	既存下地調整 既設 H100
	3-20	既存下地調整 既設 H100
その他	3-21	既存下地調整 既設 H100
	3-22	既存下地調整 既設 H100
	3-23	既存下地調整 既設 H100
	3-24	既存下地調整 既設 H100
	3-25	既存下地調整 既設 H100
	3-26	既存下地調整 既設 H100
	3-27	既存下地調整 既設 H100
	3-28	既存下地調整 既設 H100
	3-29	既存下地調整 既設 H100
	3-30	既存下地調整 既設 H100

[illegible]

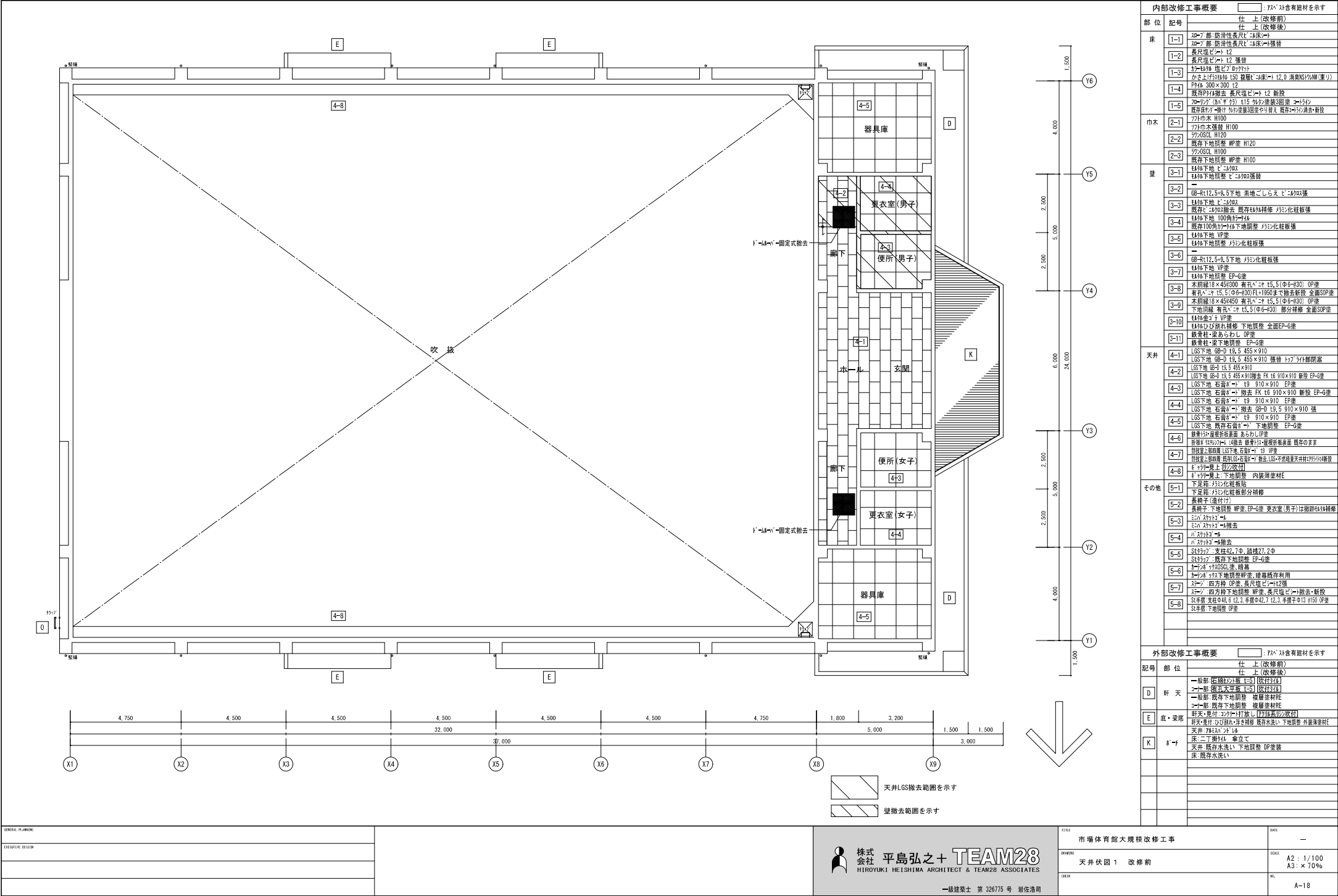
GENERAL PLANNING	 株式会社 平島弘之 + TEAM28 HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES 一級建築士 第 326775 号 岩佐浩司	TITLE	市場体育館大規模改修工事	DATE	—
EXECUTIVE DESIGN		DRAWING	断面図 3 改修前・改修後	SCALE	A2 : 1/100 A3 : × 70%
		ORIGIN		NO.	A-16



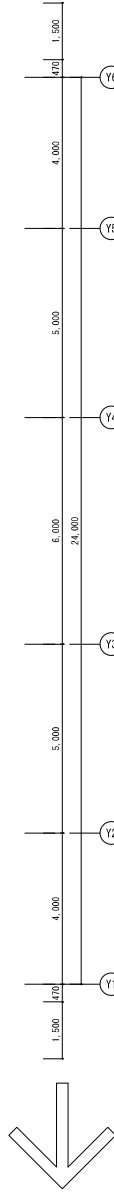
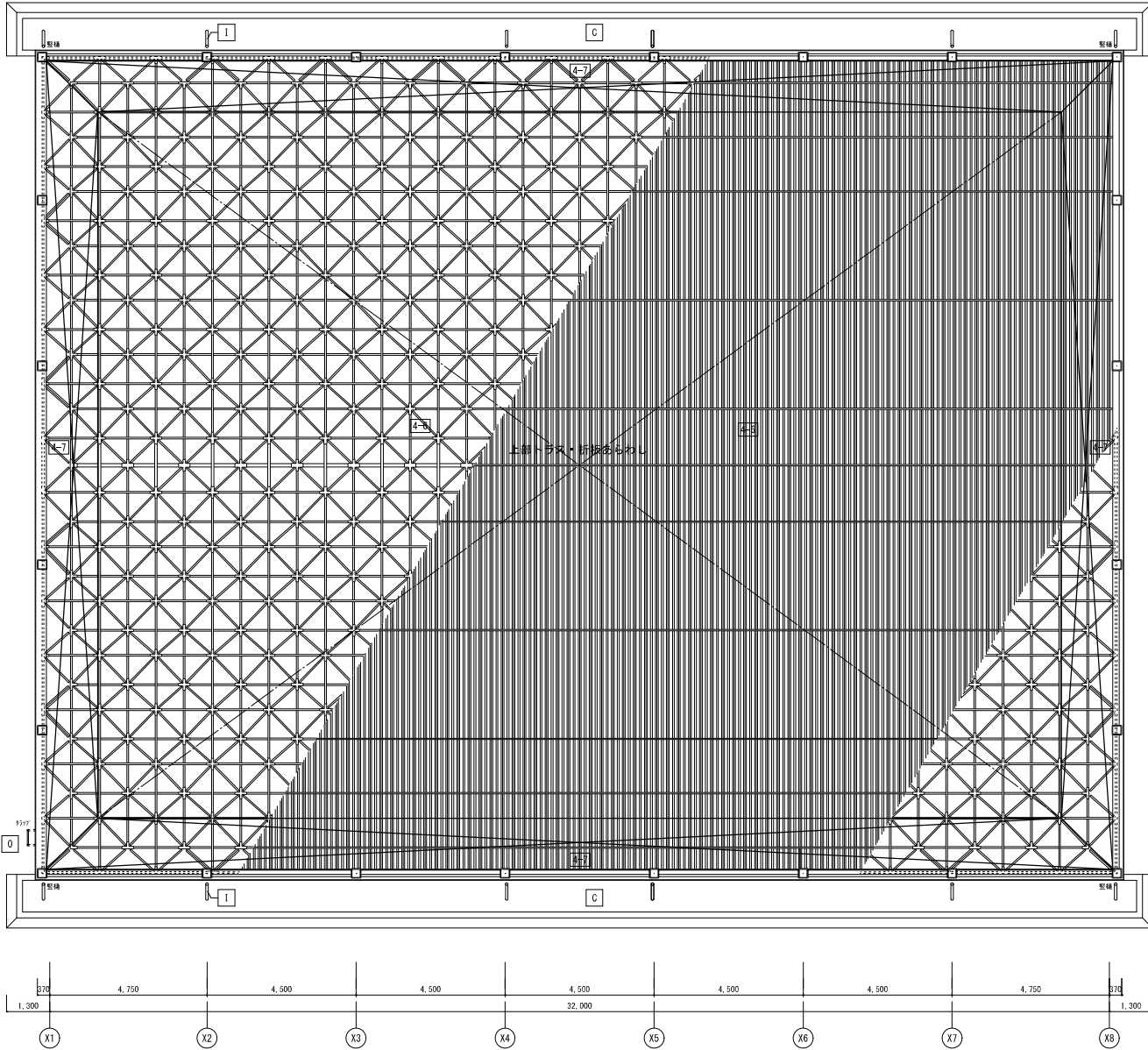
内部ひびわれ補修概要					
部 位	北	南	西	東	合計
ひびわれ補修部	10.57	11.15	9.73	9.33	40.58 m



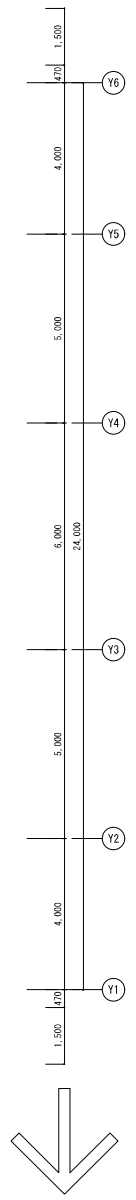
内部改修工事概要			72㎡以上含有部材を示す
部 位	記号	仕 上 (改修前)	仕 上 (改修後)
床	1-1	200-7 部 防湿性長尺ビニル床	200-7 部 防湿性長尺ビニル床
	1-2	長尺塩ビシート	長尺塩ビシート
	1-3	既存床下地	既存床下地
	1-4	既存床下地	既存床下地
	1-5	既存床下地	既存床下地
中 木	2-1	200-7 部 防湿性長尺ビニル床	200-7 部 防湿性長尺ビニル床
	2-2	既存床下地	既存床下地
	2-3	既存床下地	既存床下地
	2-4	既存床下地	既存床下地
	2-5	既存床下地	既存床下地
壁	3-1	既存床下地	既存床下地
	3-2	既存床下地	既存床下地
	3-3	既存床下地	既存床下地
	3-4	既存床下地	既存床下地
	3-5	既存床下地	既存床下地
	3-6	既存床下地	既存床下地
	3-7	既存床下地	既存床下地
	3-8	既存床下地	既存床下地
	3-9	既存床下地	既存床下地
	3-10	既存床下地	既存床下地
	3-11	既存床下地	既存床下地
天井	4-1	既存天井	既存天井
	4-2	既存天井	既存天井
	4-3	既存天井	既存天井
	4-4	既存天井	既存天井
	4-5	既存天井	既存天井
	4-6	既存天井	既存天井
	4-7	既存天井	既存天井
	4-8	既存天井	既存天井
	4-9	既存天井	既存天井
	4-10	既存天井	既存天井
	4-11	既存天井	既存天井
その他	5-1	既存天井	既存天井
	5-2	既存天井	既存天井
	5-3	既存天井	既存天井
	5-4	既存天井	既存天井
	5-5	既存天井	既存天井
	5-6	既存天井	既存天井
	5-7	既存天井	既存天井
	5-8	既存天井	既存天井
	5-9	既存天井	既存天井
	5-10	既存天井	既存天井
	5-11	既存天井	既存天井

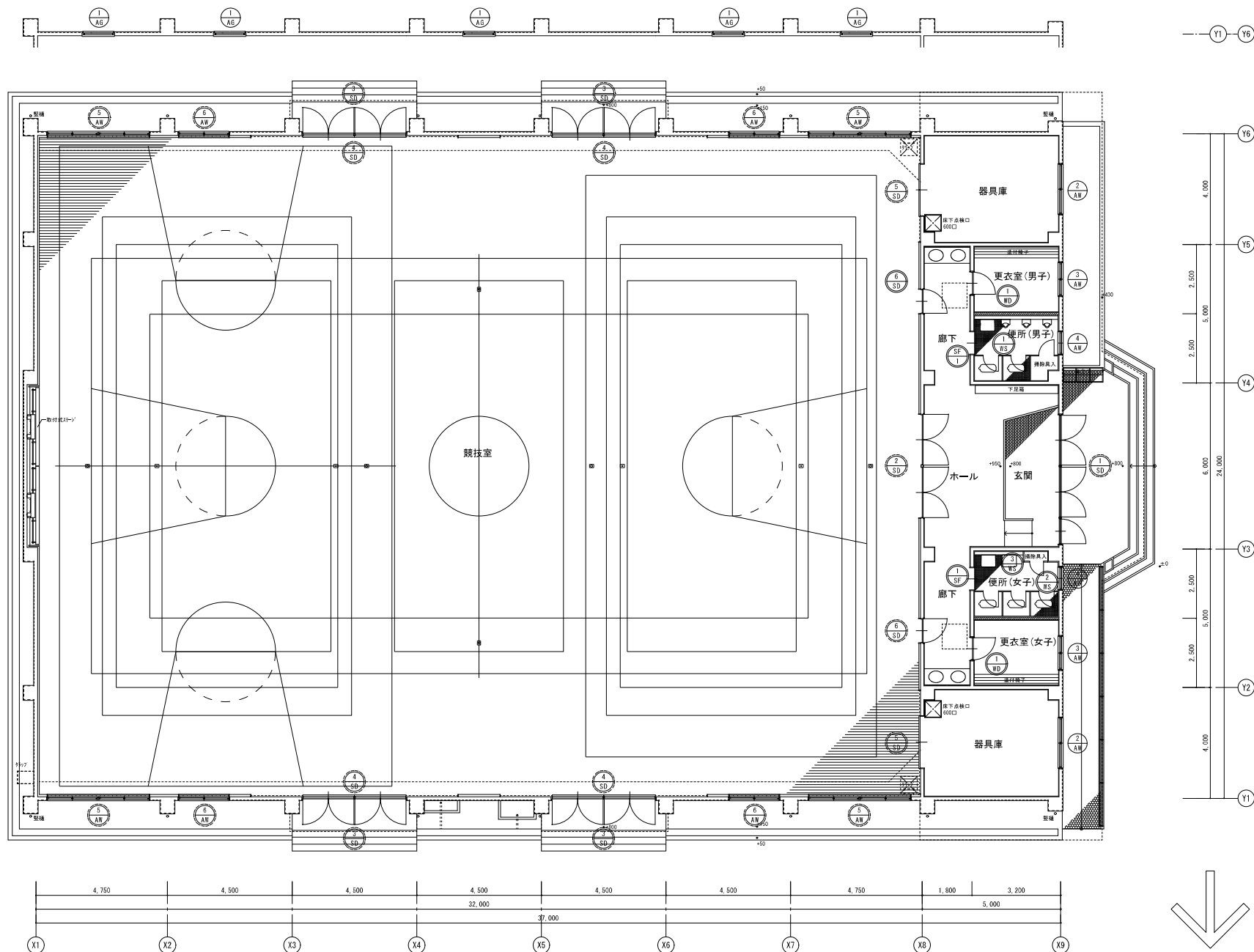




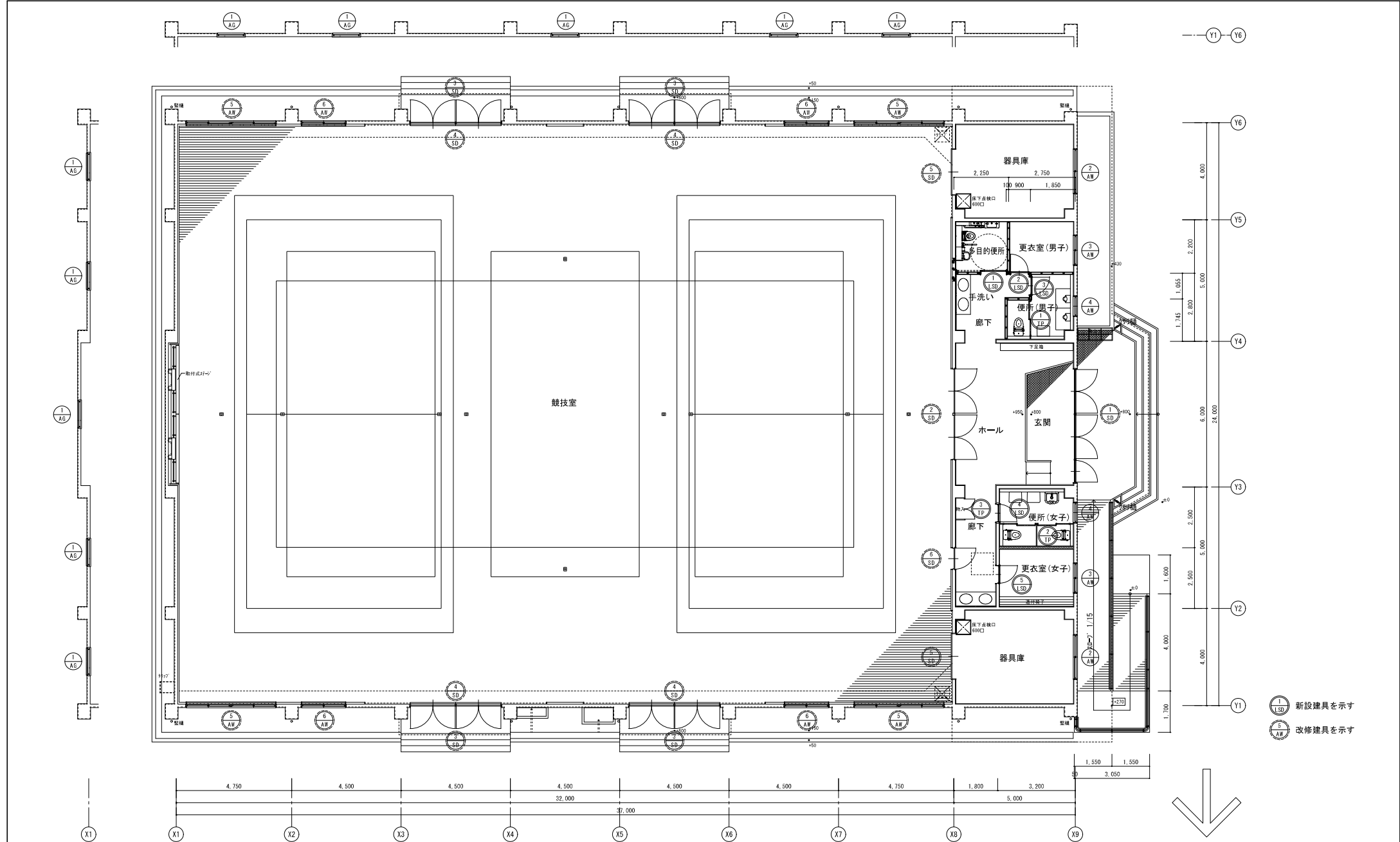


内部改修工事概要		73ﾊﾞｽ含有建材を示す
部 位	記号	仕 上 (改修前) 仕 上 (改修後)
床	1-1	20-ﾌﾞ 部 防汚性長尺ﾋﾞｰﾄﾞ床(ｼｰ) 20-ﾌﾞ 部 防汚性長尺ﾋﾞｰﾄﾞ床(ｼｰ)襖巻
	1-2	長尺塩ﾋﾞｰﾄﾞ 12 長尺塩ﾋﾞｰﾄﾞ 12 襖巻
	1-3	ｶｰﾍﾞﾙ 塩ﾋﾞｰﾄﾞ 27ﾌﾗｲﾄﾞ ｶｰﾍﾞﾙ 塩ﾋﾞｰﾄﾞ 150 襖巻(ﾋﾞｰﾄﾞ床) 12.0 消臭ｽﾄﾗｸﾁｬｰ(襖巻)
	1-4	既存ﾍﾞﾙﾍﾞﾙ床 長尺塩ﾋﾞｰﾄﾞ 12 新設 20-ﾌﾗｲﾄﾞ (ｶﾞﾗｽ) 115 ﾎﾙﾎﾞﾔﾏ3層3層巻 ｼｰﾄﾞﾗｲﾝ
	1-5	既存ﾍﾞﾙﾍﾞﾙ床 塩ﾋﾞｰﾄﾞ 115 ﾎﾙﾎﾞﾔﾏ3層3層巻 既存ﾍﾞﾙﾍﾞﾙ床(新設)
巾木	2-1	ﾌﾗｲﾄﾞ木 巾木 H100 ﾌﾗｲﾄﾞ木 巾木 H100
	2-2	既存下地調整 巾巻 H120 ﾌﾗｲﾄﾞ木 巾木 H100
	2-3	既存下地調整 巾巻 H100 巾木 H100
	2-4	既存下地調整 巾巻 H100 巾木 H100
	2-5	既存下地調整 巾巻 H100 巾木 H100
壁	3-1	巾木 H100 巾木 H100
	3-2	巾木 H100 巾木 H100
	3-3	巾木 H100 巾木 H100
	3-4	巾木 H100 巾木 H100
	3-5	巾木 H100 巾木 H100
	3-6	巾木 H100 巾木 H100
	3-7	巾木 H100 巾木 H100
	3-8	巾木 H100 巾木 H100
	3-9	巾木 H100 巾木 H100
	3-10	巾木 H100 巾木 H100
天井	4-1	巾木 H100 巾木 H100
	4-2	巾木 H100 巾木 H100
	4-3	巾木 H100 巾木 H100
	4-4	巾木 H100 巾木 H100
	4-5	巾木 H100 巾木 H100
	4-6	巾木 H100 巾木 H100
	4-7	巾木 H100 巾木 H100
	4-8	巾木 H100 巾木 H100
	4-9	巾木 H100 巾木 H100
	4-10	巾木 H100 巾木 H100
その他	5-1	巾木 H100 巾木 H100
	5-2	巾木 H100 巾木 H100
	5-3	巾木 H100 巾木 H100
	5-4	巾木 H100 巾木 H100
	5-5	巾木 H100 巾木 H100
	5-6	巾木 H100 巾木 H100
	5-7	巾木 H100 巾木 H100
	5-8	巾木 H100 巾木 H100
	5-9	巾木 H100 巾木 H100
	5-10	巾木 H100 巾木 H100

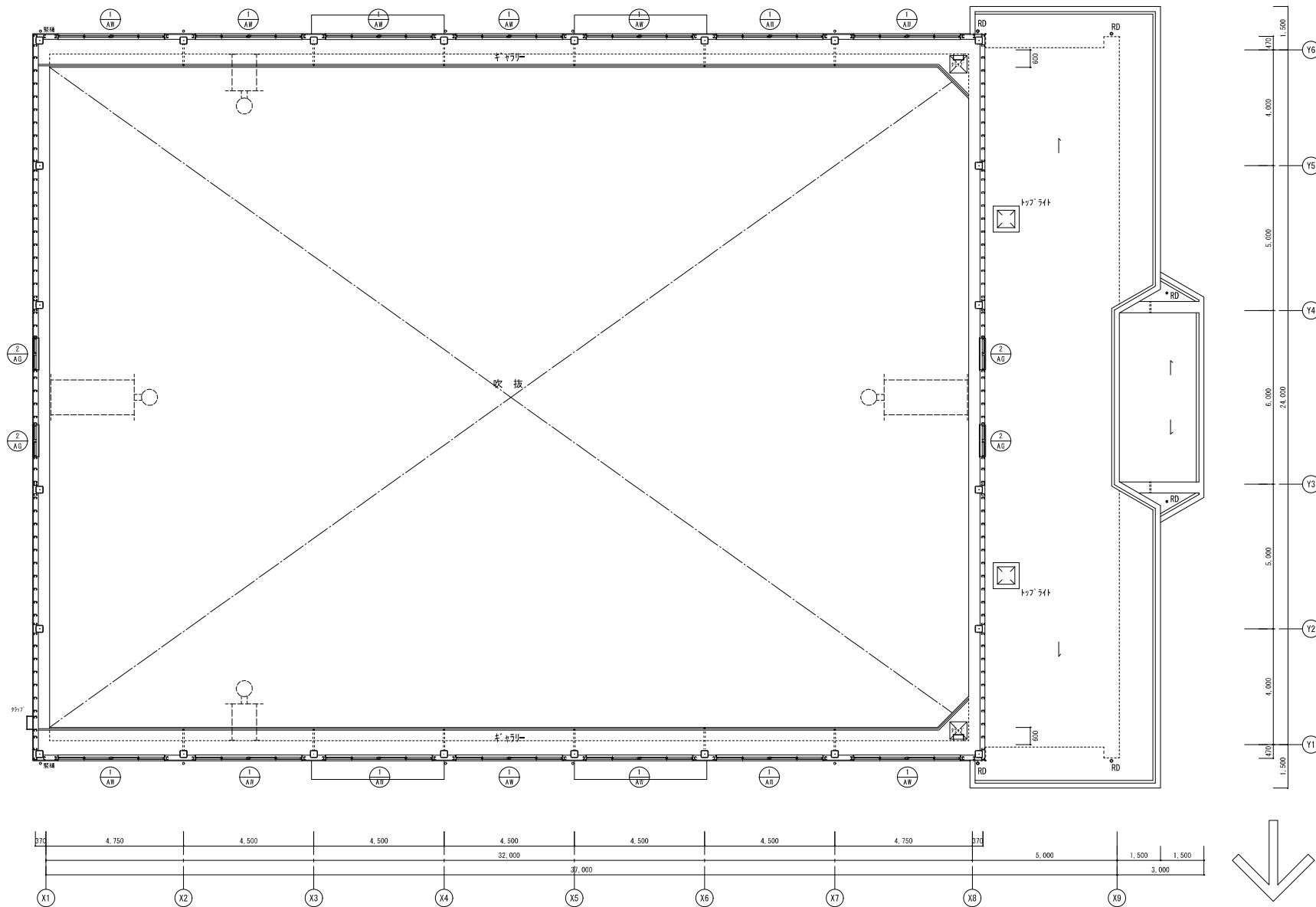
[illegible]



GENERAL PLANNING		 株式会社 平島弘之 + TEAM28 HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES	TITLE 市場体育館大規模改修工事 建具キープラン 1 改修前	DATE —
EXECUTIVE DESIGN				
		一級建築士 第 526775 号 岩佐浩司		SCALE A2 : 1/100 A3 : × 70 %
				NO. A-22



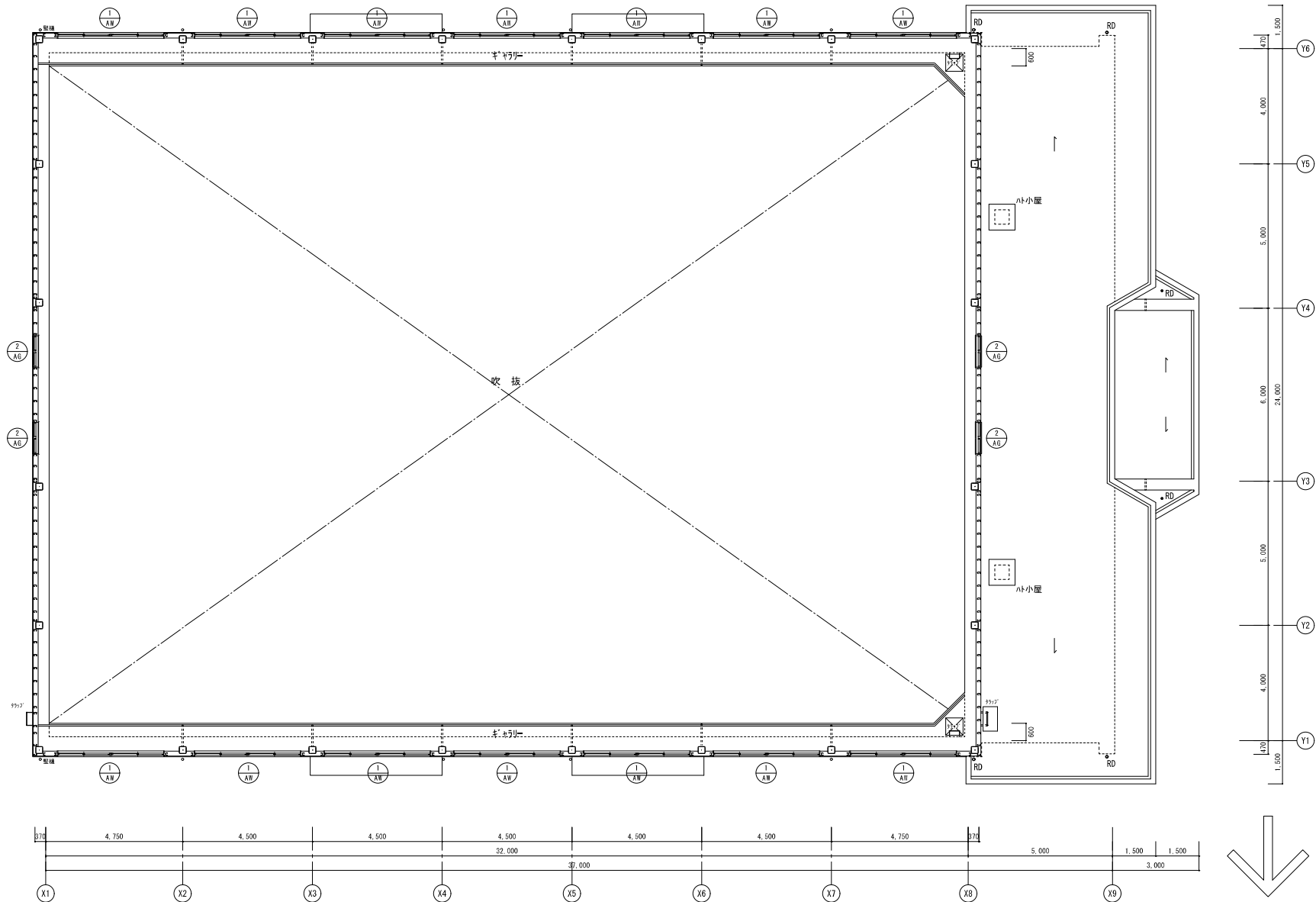
<div>GENERAL PLANNING</div> <div>PROJECT DESIGN</div>		<div>株式会社 平島弘之 + TEAM28</div> <div>HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES</div> <div>一級建築士 第 326775 号 岩佐浩司</div>	<div>TITLE</div> <div>市営体育館大規模改修工事</div> <div>DRAWING</div> <div>建具キープラン 1 改修後</div> <div>DATE</div>	<div>DATE</div> <div>—</div> <div>SCALE</div> <div>A2 : 1/100 A3 : × 70%</div> <div>NO.</div> <div>A-23</div>
---	--	---	--	---



GENERAL PLANNING	
EXTERIOR DESIGN	

株式会社 平島弘之+ TEAM28
HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES
一級建築士 第 32875 号 岩佐浩司

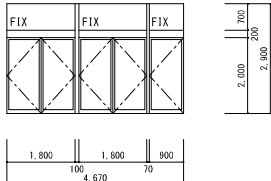
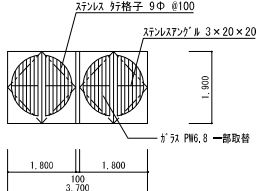
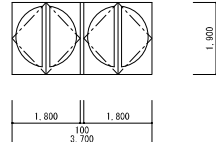
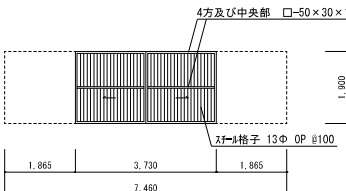
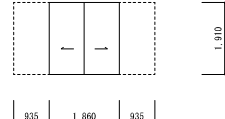
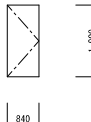
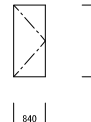
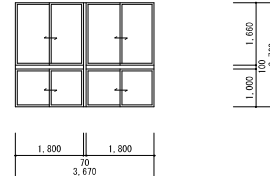
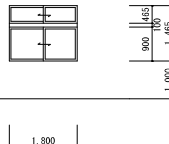
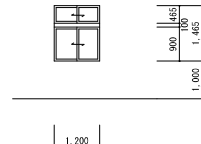
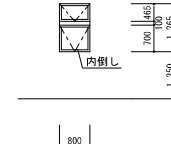
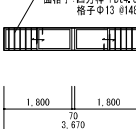
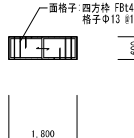
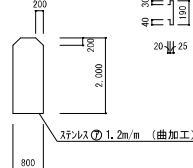
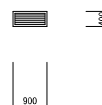
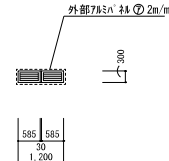
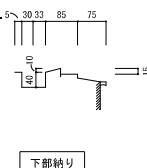
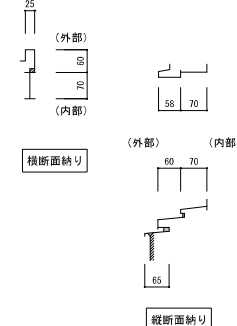
TITLE	市場体育館大規模改修工事	DATE	—
DESCRIPTION	建具キープラン2 改修前	SCALE	A2 : 1/100 A3 : × 70%
DRAWN		BY	A-24

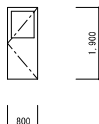
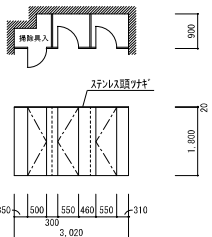
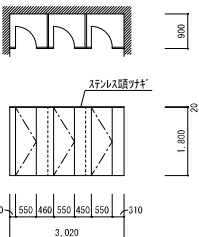
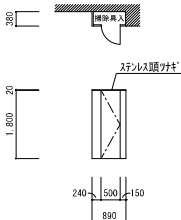
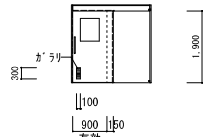
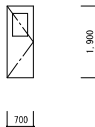
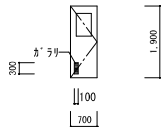
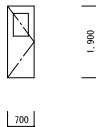
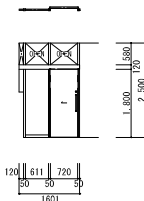
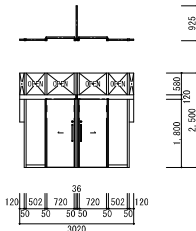
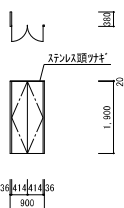


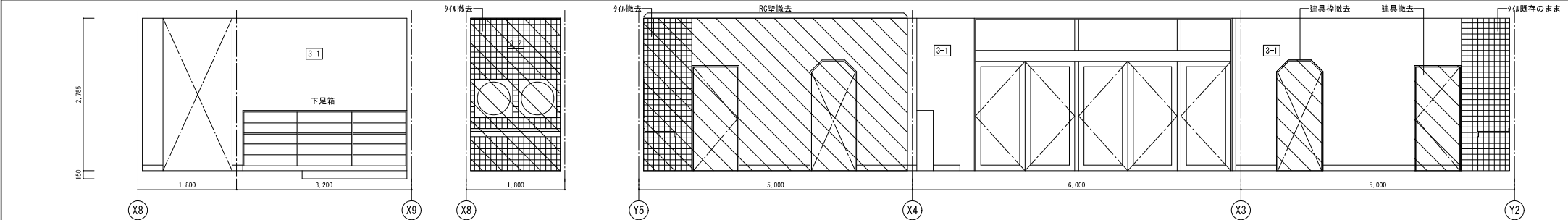
GENERAL PLANNING
EXHIBITION DESIGN

株式会社 平島弘之 + TEAM28
HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES
一級建築士 第 326775 号 岩佐浩司

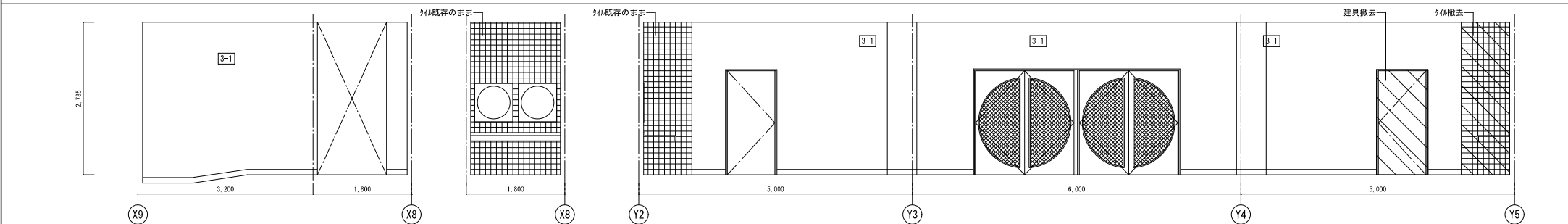
TITLE	市場体育館大規模改修工事	DATE	—
DRAWING	建具キープラン 2 改修後	SCALE	A2 : 1/100 A3 : × 70%
DESIGN		BY	A-25

名	称	数量	<div><div>1</div><div>SD</div></div> 上部:ｽﾎｰﾙ製FIX欄間・下部:ｱﾙﾐ製2連両開きﾄﾞｱ+片開きﾄﾞｱ	1	<div><div>2</div><div>SD</div></div> ｽﾃｰﾙ製2連両開きﾄﾞｱ	1	<div><div>3</div><div>SD</div></div> ｽﾃｰﾙ製2連両開きﾄﾞｱ	4	<div><div>4</div><div>SD</div></div> ｽﾃｰﾙ製引き分けﾄﾞｱ	4	<div><div>5</div><div>SD</div></div> ｽﾃｰﾙ製引き分けﾄﾞｱ	2				
形	状		<改修> 建具調整、塗装改修:ｽﾎｰﾙ部分下地調整・EP-G塗 		<改修> 建具調整、塗装改修:下地調整・EP-G塗 ｶﾞﾗｽ PW6.8 一部取替 		<改修> 建具調整、塗装改修:下地調整・EP-G塗 		<改修> 建具調整、塗装改修:下地調整・EP-G塗 		<改修> 建具調整、塗装改修:下地調整・EP-G塗 					
場	所		玄関		競技室		競技室		競技室		競技室		競技室			
材	種・見	込	ｽﾎｰﾙ・85		ｽﾎｰﾙ・85		ｽﾎｰﾙ・85		ｽﾎｰﾙ・50		ｽﾎｰﾙ・50		ｽﾎｰﾙ・50			
仕	上		OP塗		OP塗		OP塗		OP塗		OP塗		OP塗			
硝	子		PWG.8		PWG.8		PWG.8		—		—		—			
金	物		ｱﾙﾐﾎﾝﾄﾞﾙ・ｼﾘﾝｸﾞ錠・取手		ﾋﾞﾎﾞｯﾄﾋﾝｸﾞ・ﾌﾗﾝｽ落ｼ・ﾄﾞｱﾁｬｯｸ	ﾎｰﾙ製・ｼﾘﾝｸﾞ錠付ﾌﾞﾚｰｷ調整側・ﾌﾚｰｽﾄｯﾌﾟﾙ	ﾋﾞﾎﾞｯﾄﾋﾝｸﾞ・ﾌﾗﾝｽ落ｼ・ﾄﾞｱﾁｬｯｸ	ﾎｰﾙ製・ｼﾘﾝｸﾞ錠付ﾌﾞﾚｰｷ調整側・ﾌﾚｰｽﾄｯﾌﾟﾙ	ﾄﾞｱﾎﾟｰﾙ・ﾄﾞﾗｲﾌﾞﾙ・ﾌﾞﾗｯｸｯﾄ・中央戸当り		戸車・ｼﾘﾝｸﾞ錠錠・中央戸当り・引手・角ﾚｰﾙ		戸車・ｼﾘﾝｸﾞ錠錠・中央戸当り・引手・角ﾚｰﾙ			
備	考		ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ (3方)		ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ (3方)	内部 (4方) 外部 (3方) 下端 スﾃﾝﾚｽ ㊞2t 曲加工	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ (4方)	内部 (4方) 外部 (3方)	ｽﾄｯﾊﾟｰ・ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ (1.5m/m スﾃﾝﾚｽ折曲加工)		下端 スﾃﾝﾚｽ ㊞2t 曲加工		下端 スﾃﾝﾚｽ ㊞2t 曲加工			
名	称	数量	<div><div>6</div><div>SD</div></div> ｽﾃｰﾙ製片開きﾄﾞｱ撤去(男子便所側)	1	<div><div>6</div><div>SD</div></div> ｽﾃｰﾙ製片開きﾄﾞｱ(女子便所側)	1	<div><div>1</div><div>AW</div></div> ｱﾙﾐ製2連2段引違い窓	14	<div><div>2</div><div>AW</div></div> ｱﾙﾐ製2段引違い窓	2	<div><div>3</div><div>AW</div></div> ｱﾙﾐ製2段引違い窓	2	<div><div>3</div><div>AW</div></div> ｱﾙﾐ製2段内倒し窓	2		
形	状		<撤去> 		<改修> 建具調整、塗装改修:下地調整・EP-G塗 											
場	所		競技室		競技室		ギャラリー		器具庫		更衣室		便所			
材	種・見	込	ｽﾎｰﾙ・85		ｽﾎｰﾙ・85		ｱﾙﾐ・70		ｱﾙﾐ・70		ｱﾙﾐ・70		ｱﾙﾐ・70			
仕	上		—		—		ｼﾙﾊﾞｰ		ｼﾙﾊﾞｰ		ｼﾙﾊﾞｰ		ｼﾙﾊﾞｰ			
硝	子		—		—		PWG.8		F4		F4		F4			
金	物		ﾋﾞﾎﾞｯﾄﾋﾝｸﾞ・ﾄﾞｱﾁｬｯｸ	ﾎｰﾙ製・ｼﾘﾝｸﾞ錠付ﾌﾞﾚｰｷ調整側・ﾌﾚｰｽﾄｯﾌﾟﾙ	ﾋﾞﾎﾞｯﾄﾋﾝｸﾞ・ﾄﾞｱﾁｬｯｸ	戸車・上部: ｸﾚｰﾄ下部: 錠付ｸﾚｰﾄ	戸車・上部: ｸﾚｰﾄ下部: 錠付ｸﾚｰﾄ	戸車・ｸﾚｰﾄ	戸車・ｸﾚｰﾄ		戸車・ｸﾚｰﾄ		丁番・ﾄｯﾌﾟﾗｯﾌﾞ・ｱﾙﾐｽﾄｯﾊﾟｰ			
備	考		ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 内部 (4方) 外部 (3方) 下端 スﾃﾝﾚｽ ㊞1.2曲加工	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 内部 (4方) 外部 (3方) 下端 スﾃﾝﾚｽ ㊞1.2曲加工	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 内部 (4方) 外部 (3方) 下端 スﾃﾝﾚｽ ㊞1.2曲加工	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 内部 (4方) 外部 (3方) 雨仕舞金物・水切	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 内部 (4方) 外部 (3方)	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 内部 (4方)・水切	ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 内部 (4方)・水切		ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 内部 (4方)・水切		ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ 内部 (4方)・水切・網戸 (ﾀﾞｲﾅﾐｯｸ)			
名	称	数量	<div><div>5</div><div>AW</div></div> ｱﾙﾐ製2連引違い窓	4	<div><div>6</div><div>AW</div></div> ｱﾙﾐ製引違い窓	4	<div><div>1</div><div>SF</div></div> ｽﾃﾝﾚｽ製三方枠	2	<div><div>1</div><div>AG</div></div> ｱﾙﾐ製床下換気ｸﾞﾗｯｼﾞ	15	<div><div>2</div><div>AG</div></div> ｱﾙﾐ製天井換気ｸﾞﾗｯｼﾞ	4	<SD-3>		<AW-1>	
形	状		<改修> ｶﾞﾗｽ PW6.8撤去・ｱﾙﾐﾎﾝﾄﾞﾙ t5 に取替 面格子:下地調整 EP-G塗 		<改修> ｶﾞﾗｽ PW6.8撤去・ｱﾙﾐﾎﾝﾄﾞﾙ t5 に取替 面格子:下地調整 EP-G塗 		<撤去> 									
場	所		競技室 (下部)		競技室 (下部)		便所		競技室		競技室		競技室			
材	種・見	込	ｱﾙﾐ・70		ｱﾙﾐ・70		ｽﾃﾝﾚｽ・190		ｱﾙﾐ・70		ｱﾙﾐ・70		ｱﾙﾐ・70			
仕	上		ｼﾙﾊﾞｰ		ｼﾙﾊﾞｰ		HL		—		—		—			
硝	子		PWG.8		PWG.8		—		—		—		—			
金	物		戸車・ｸﾚｰﾄ		戸車・ｸﾚｰﾄ		—		—		—		—			
備	考		ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ (4方)・水切・ｽﾎｰﾙ製面格子		ｱﾝｸﾞﾙﾋﾞｰｽ (4方)・水切・ｽﾎｰﾙ製面格子		ｽﾃﾝﾚｽ製番据 50×25 t1.5		—		雨仕舞金物・水切		—			
GENERAL PLANNING														TITLE 市場体育館大規模改修工事		
EXECUTIVE DESIGN														DRAWING 建具表 1		
														DATE ー		
														SCALE A2: 1/100 A3: ×70%		
														NO. A-26		

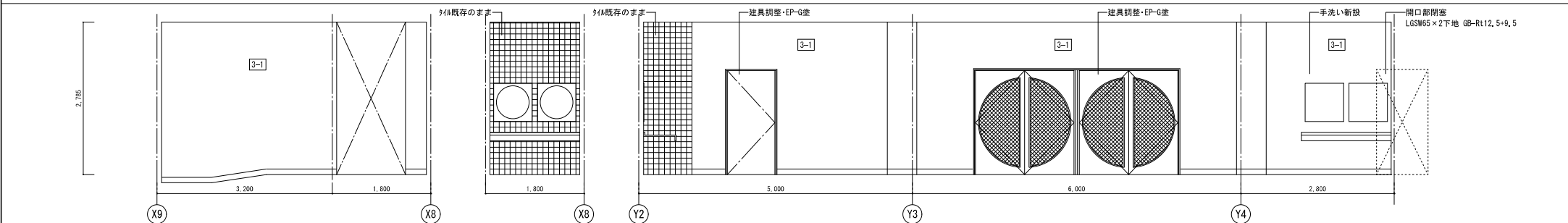
名	称	数量	① WD	木製片開きドア	2	① WS	トイレレバー・フィッOSH	1	② WS	トイレレバー・フィッOSH	1	③ WS	トイレレバー・フィッOSH	1			
形	状	<撤去>				<撤去>				<撤去>				<撤去>			
		場 所		更衣室		場 所		便所（男子）		場 所		便所（女子）		場 所		便所（女子）	
		材 種 ・ 見 込		ﾌﾟﾘｯﾄ合板貼・36		材 種 ・ 見 込		ﾌﾞﾘ合板・36		材 種 ・ 見 込		ﾌﾞﾘ合板・36		材 種 ・ 見 込		ﾌﾞﾘ合板・36	
		仕 上		－		仕 上		－		仕 上		－		仕 上		－	
		硝 子		F4（600×750）		硝 子		－		硝 子		－		硝 子		－	
金 物		ﾋﾞﾙﾄﾞﾃﾞﾝｼﾞ・ﾄﾞｱﾌｪｯｸ・円筒錠		金 物		ｼﾞﾝﾄﾞﾃﾞﾝｼﾞ・ｼﾞﾝﾄﾞﾃﾞﾝｼﾞ・表示錠・戸当り・ｷﾝﾄﾞﾙ		金 物		ｼﾞﾝﾄﾞﾃﾞﾝｼﾞ・ｼﾞﾝﾄﾞﾃﾞﾝｼﾞ・表示錠・戸当り・ｷﾝﾄﾞﾙ		金 物		ｼﾞﾝﾄﾞﾃﾞﾝｼﾞ・ｼﾞﾝﾄﾞﾃﾞﾝｼﾞ・取手・ｷﾝﾄﾞﾙ			
備 考		緑 OS塗		備 考		ｽﾃﾝﾚｽ頭ﾌﾞｷﾞ・受金物 緑 OP塗		備 考		ｽﾃﾝﾚｽ頭ﾌﾞｷﾞ・受金物 緑 OP塗		備 考		ｽﾃﾝﾚｽ頭ﾌﾞｷﾞ・受金物 緑 OP塗			
名	称	数量	① LSD	軽量鋼製片引きドア	1	② LSD	軽量鋼製片開きドア	1	③ LSD	軽量鋼製片開きドア	1	④ LSD	軽量鋼製片開きドア	1	⑤ LSD	軽量鋼製片開きドア	1
形	状	<新設>				<新設>				<新設>				<新設>			
		場 所		多目的便所		場 所		更衣室(男子)		場 所		便所(男子)		場 所		便所(女子)	
		材 種 ・ 見 込		ｽﾃｰﾙ・40 枠見込 126+103(ﾌﾗｯﾍｯﾄ)		材 種 ・ 見 込		ｽﾃｰﾙ・40 枠見込 133		材 種 ・ 見 込		ｽﾃｰﾙ・40 枠見込 133		材 種 ・ 見 込		ｽﾃｰﾙ・40 枠見込 194	
		仕 上		焼付塗装		仕 上		焼付塗装		仕 上		焼付塗装		仕 上		焼付塗装	
		硝 子		F4（500×600）		硝 子		F4（400×600）		硝 子		F4（400×600）		硝 子		F4（400×600）	
金 物		引手・ﾊﾞﾙﾞｰﾚｰﾙ(半自動式)・附属金物一式		金 物		ﾋﾞﾙﾄﾞﾃﾞﾝｼﾞ・ﾄﾞｱﾌｪｯｸ・ｼﾘﾝｸﾞ錠・ﾊﾞﾙﾞｰﾚｰﾙﾄﾞﾙ・附属金物一式		金 物		ﾋﾞﾙﾄﾞﾃﾞﾝｼﾞ・ﾄﾞｱﾌｪｯｸ・ﾊﾞﾙﾞｰﾚｰﾙﾄﾞﾙ・附属金物一式		金 物		ﾋﾞﾙﾄﾞﾃﾞﾝｼﾞ・ﾄﾞｱﾌｪｯｸ・ｼﾘﾝｸﾞ錠・ﾊﾞﾙﾞｰﾚｰﾙﾄﾞﾙ・附属金物一式			
備 考		建具枠 焼付塗装		備 考		建具枠 焼付塗装		備 考		建具枠 焼付塗装		備 考		建具枠 焼付塗装			
名	称	数量	① TP	トイレレバー・フィッOSH	1	② TP	トイレレバー・フィッOSH	1	③ TP	トイレレバー・フィッOSH	1						
形	状	<新設>				<新設>				<新設>							
		場 所		便所(男子)		場 所		便所(女子)		場 所		廊下					
		材 種 ・ 見 込				材 種 ・ 見 込				材 種 ・ 見 込		ﾌﾞﾘ合板・36					
		仕 上				仕 上				仕 上		－					
		硝 子				硝 子				硝 子		－					
金 物				金 物				金 物		ﾄﾞﾍﾞ・ﾌﾞﾙ							
備 考				備 考				備 考		ｽﾃﾝﾚｽ頭ﾌﾞｷﾞ・附属金物一式							
GENERAL PLANNING																	
EXECUTIVE DESIGN																	




【改修前】玄関・ホール・廊下

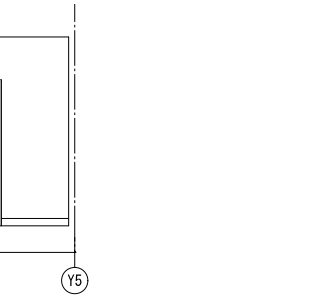
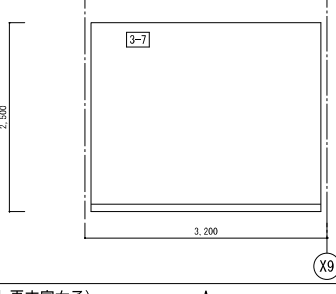
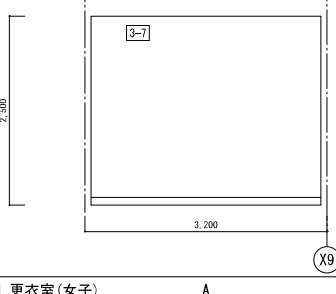



【改修後】玄関・ホール・廊下

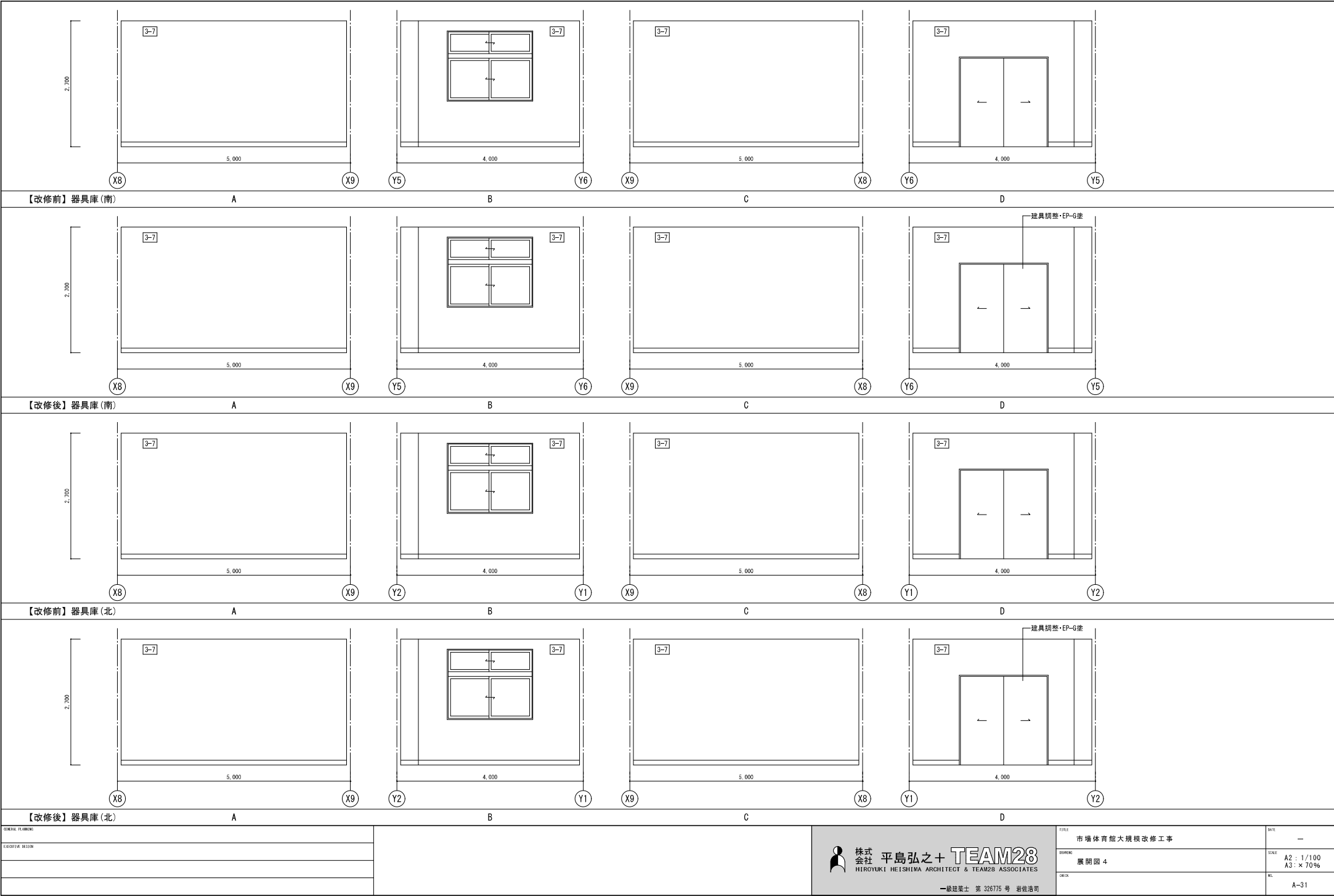


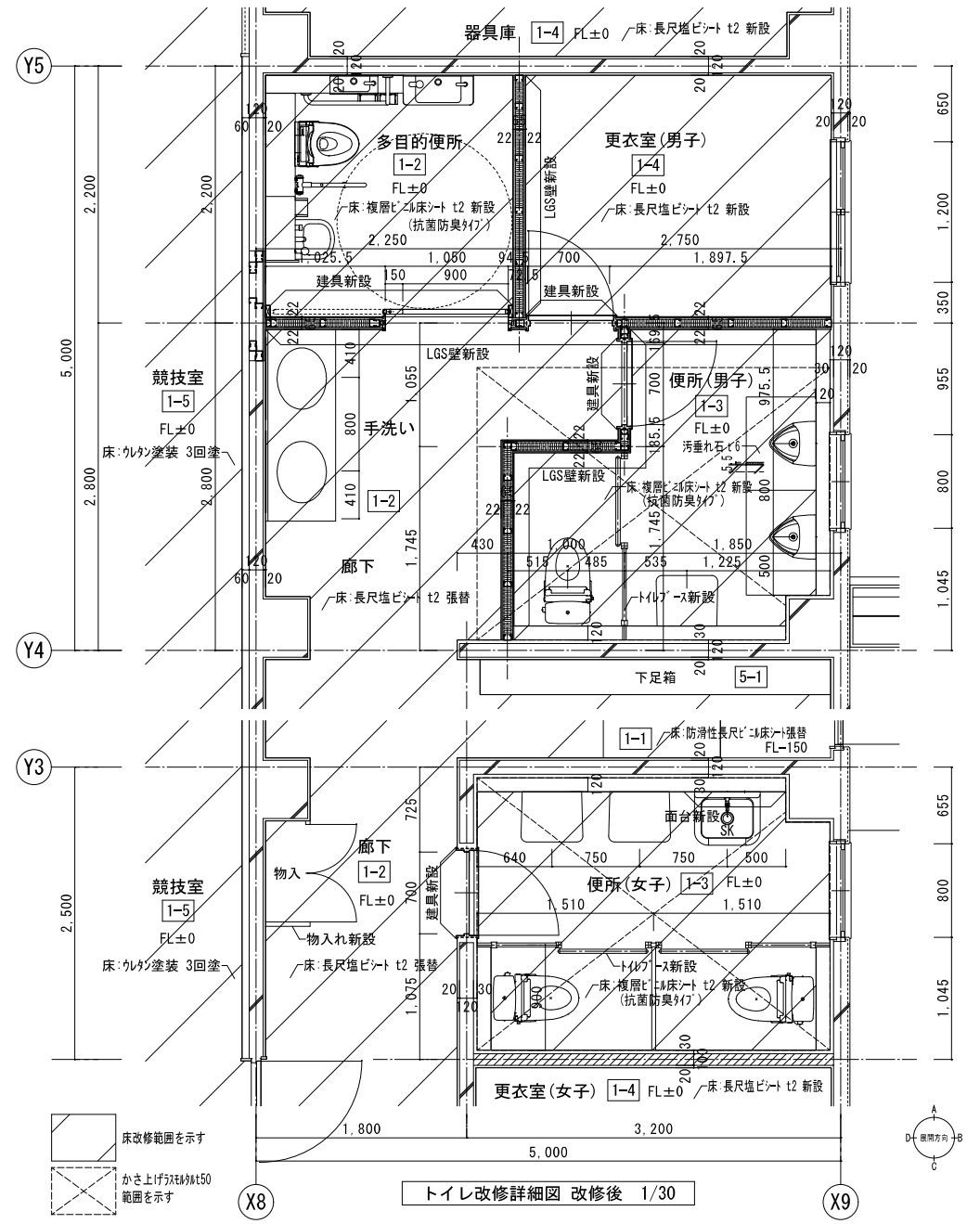
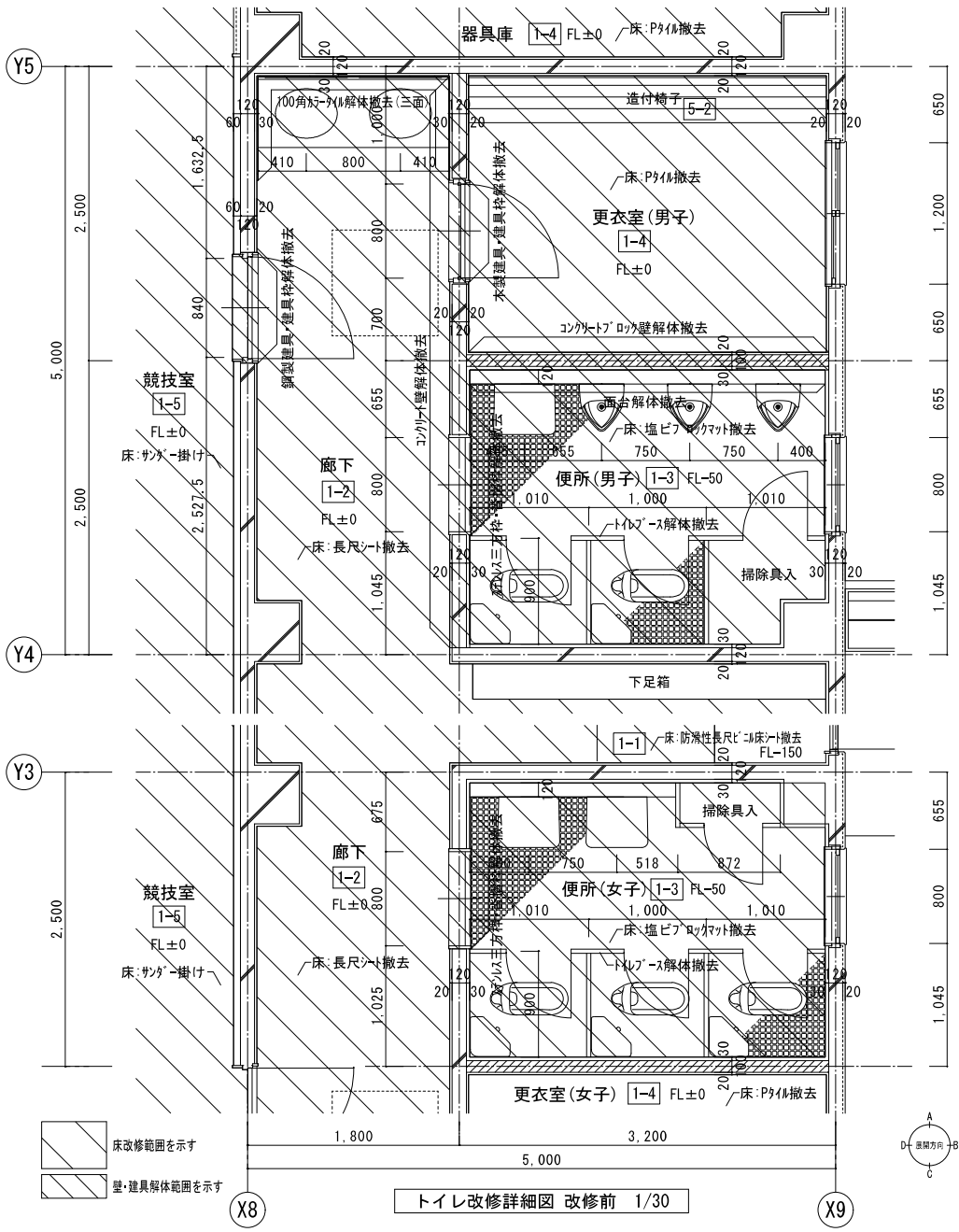
GENERAL FLOORING			<div><div>株式会社 平島弘之+TEAM28 HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES</div></div> <div>一級建築士 第 326775 号 岩佐浩司</div>	TITLE 市場体育館大規模改修工事		DATE —
ELEVATION DESIGN				DRAWING 展開図 1		SCALE A2 : 1/50 A3 : × 70%
				CHECK		REV A-28

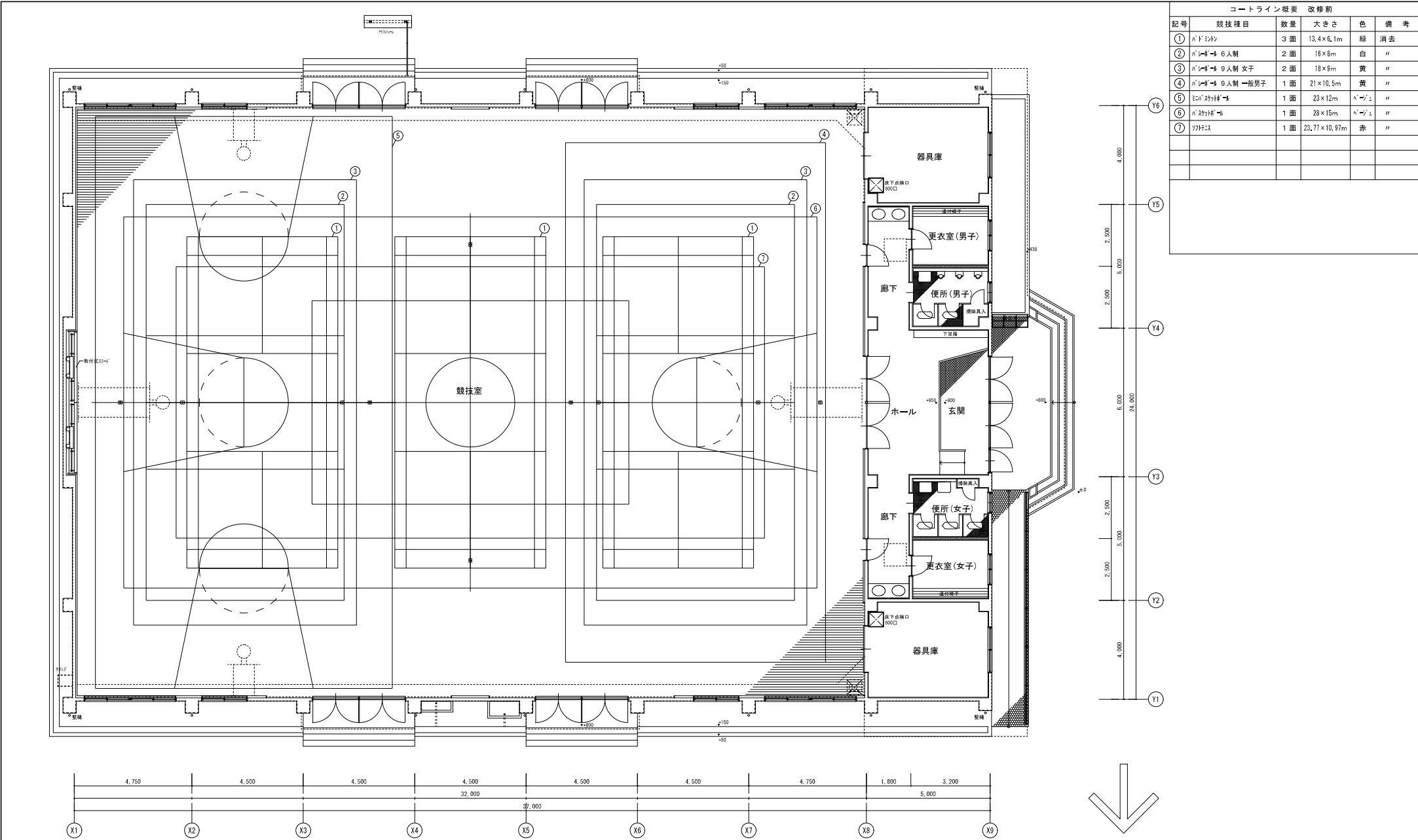


									
【改修前】更衣室(男子)		A		B		C		D	
									
【改修後】更衣室(男子)		A		B		C		D	
									
【改修前】更衣室(女子)		A		B		C		D	
									
【改修後】更衣室(女子)		A		B		C		D	

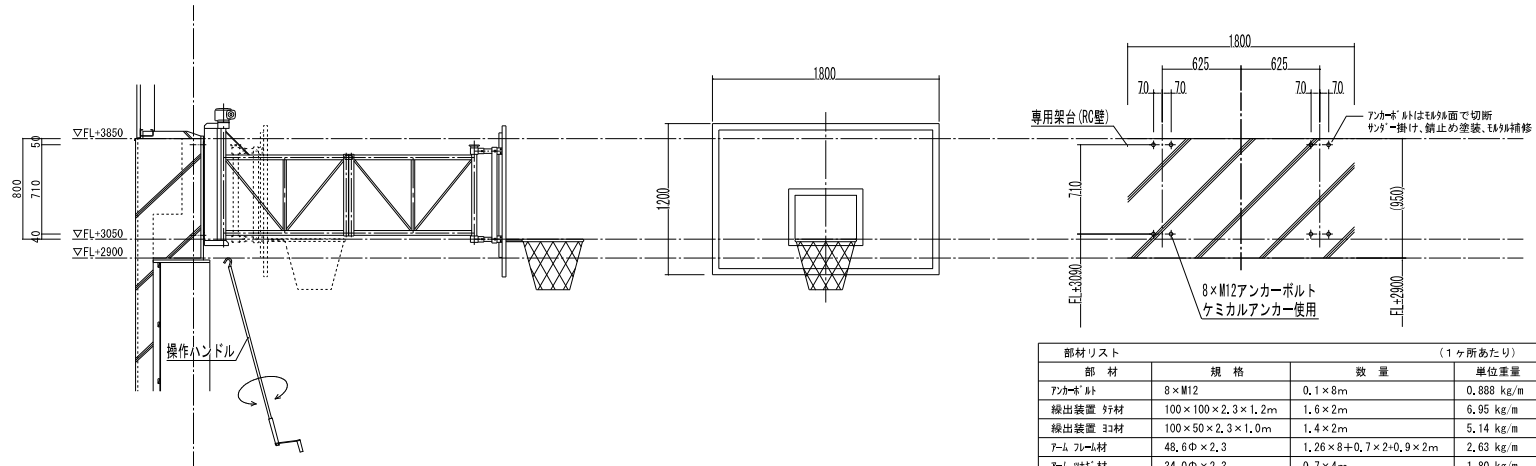
GENERAL PLUMBING						<div><div>株式会社 平島弘之 + TEAM28 HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES</div><div>一級建築士 第 326775 号 岩佐浩司</div></div>		TITLE 市場体育館大規模改修工事		DATE —							
EXHIBITION REGION								DRAWING 展開図 3		SCALE A2 : 1/100 A3 : × 70%							
								DRAWER		NO.							
										A-30							





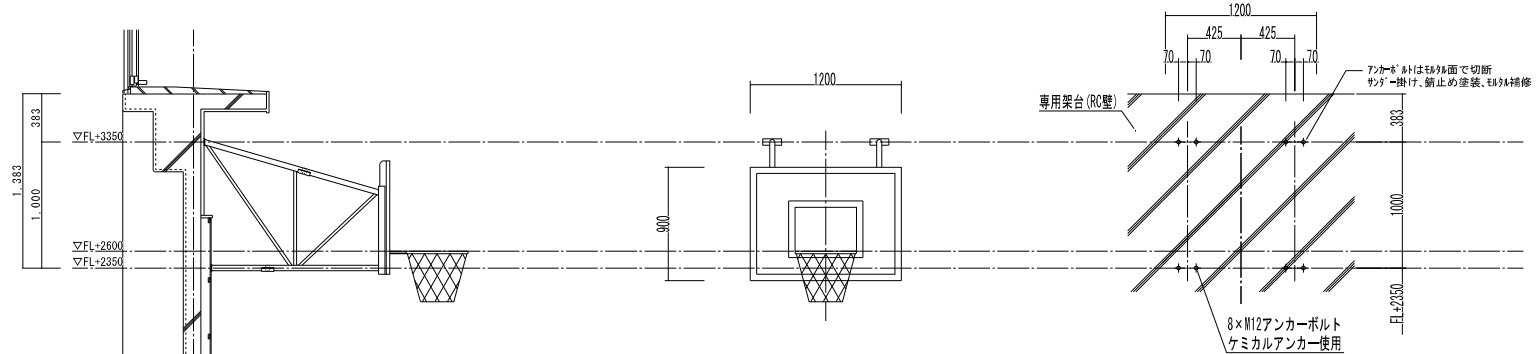


コートライン概要 改修前					
記号	競技種目	数量	大きさ	色	備考
①	バドミントン	3面	13.4×6.1m	緑	消去
②	バレーボール 6人制	2面	16×8m	白	〃
③	バレーボール 9人制 女子	2面	18×9m	黄	〃
④	バレーボール 9人制 一般男子	1面	21×10.5m	黄	〃
⑤	バドミントン	1面	23×12m	バレーボール	〃
⑥	バレーボール	1面	28×15m	バレーボール	〃
⑦	バレーボール	1面	23.77×10.97m	赤	〃



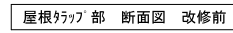
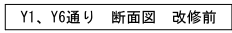
部材リスト		(1ヶ所あたり)	
部 材	規 格	数 量	単位重量
アンカーボルト	8×M12	0.1×8m	0.888 kg/m
線出装置 5材	100×100×2.3×1.2m	1.6×2m	6.95 kg/m
線出装置 33材	100×50×2.3×1.0m	1.4×2m	5.14 kg/m
7m フル材	48.6φ×2.3	1.26×8+0.7×2+0.9×2m	2.63 kg/m
7m カジ材	34.0φ×2.3	0.7×4m	1.80 kg/m
7m 斜材	27.2φ×2.3	0.94×8m	1.41 kg/m
バウリング受け	48.6φ×2.3	0.9×2+1.4×2+0.1×4m	2.63 kg/m
"	L50×50×4	0.9×2m	3.06 kg/m
"	L50×70×4	1.2×2m	1.31 kg/m
バウリング(木製)	N1800×H1200×t40	1 枚	0.5 t/m3
ゴアゲージ	W85×D620×H40	1 枚	5.0 kg

注記: 既存図が無く、調査により作成したため実態と異なる場合があります

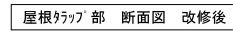
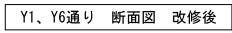



部材リスト		(1ヶ所あたり)	
部 材	規 格	数 量	単位重量
アングル 棒	8×M12	0.05 × 8m	0.888 kg/m
アングル 梁	PL 15×150×50	4 枚	39.25 kg/m2
アム 上下弦材	42.7φ × 2.3	(1.48+1.37+0.85) × 2m	2.29 kg/m
アム ウサ 材	21.7φ × 2.3	0.75 × 2m	0.97 kg/m
アム 斜材	21.7φ × 2.3	(0.83+1.15) × 2m	0.97 kg/m
バツグ 棒 受け	L50 × 50 × 4	0.7 × 2m	3.06 kg/m
〃	L50 × 70 × 4	0.9 × 2m	1.31 kg/m
バツグ 棒 (木製)	W1200 × H900 × t40	1 枚	0.5 t/m3
ウーリウグ	W85 × D620 × H140	1 個	5.0 kg

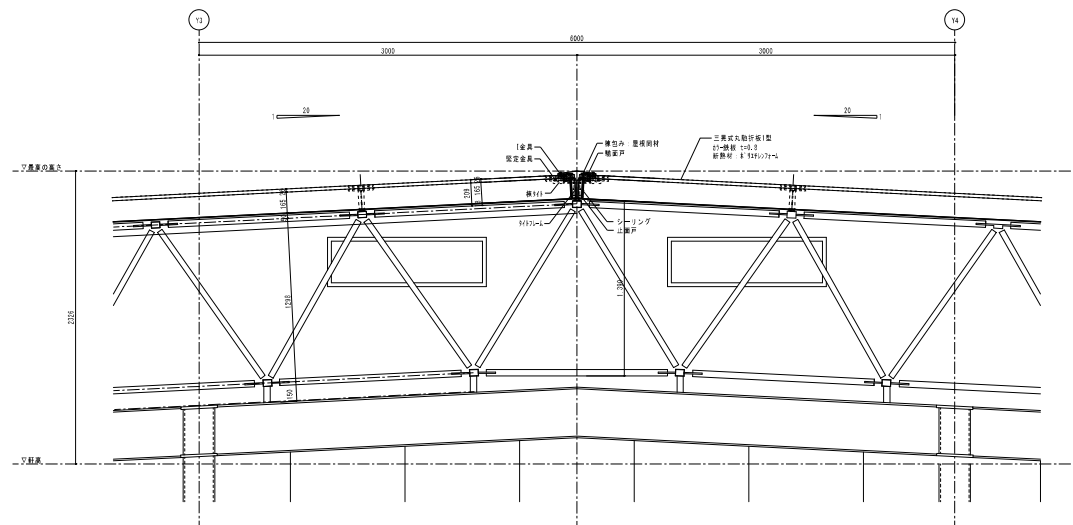
注記: 既存図が無く、調査により作成したため実態と異なる場合があります



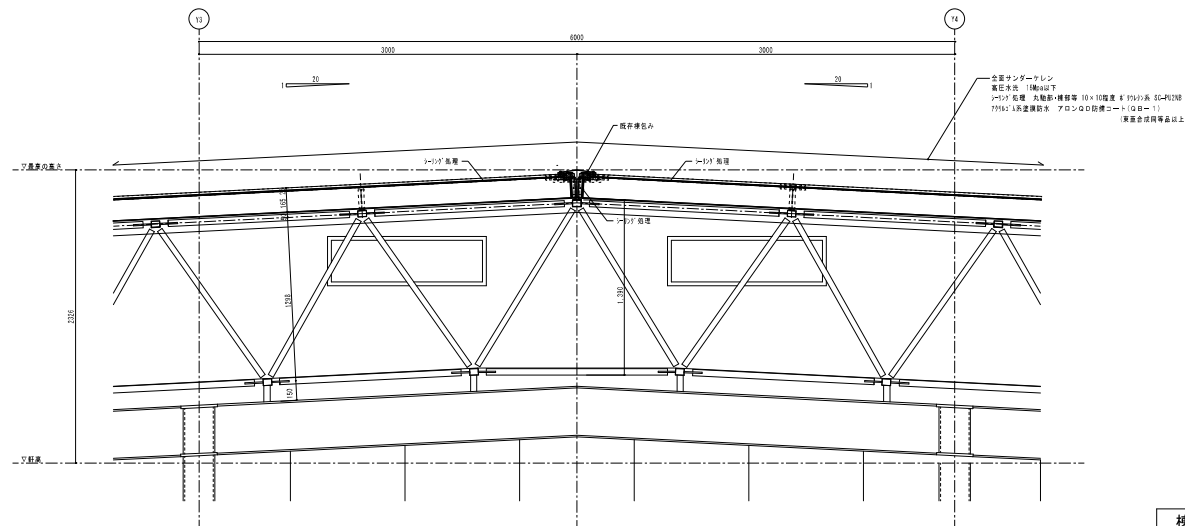
改修前 Y1、Y6通り 断面図



GENERAL PLANNING		 株式会社 平島弘之 + TEAM28 HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES 一般建築士 第 326775 号 岩佐浩司	TITLE	市場体育館大規模改修工事	DATE	—
EXECUTIVE DESIGN			DESCRIPTION	屋根改修詳細図 1 改修前・改修後	SCALE	A2 : 1/30 A3 : × 70%
			DETAIL		NO.	A-36



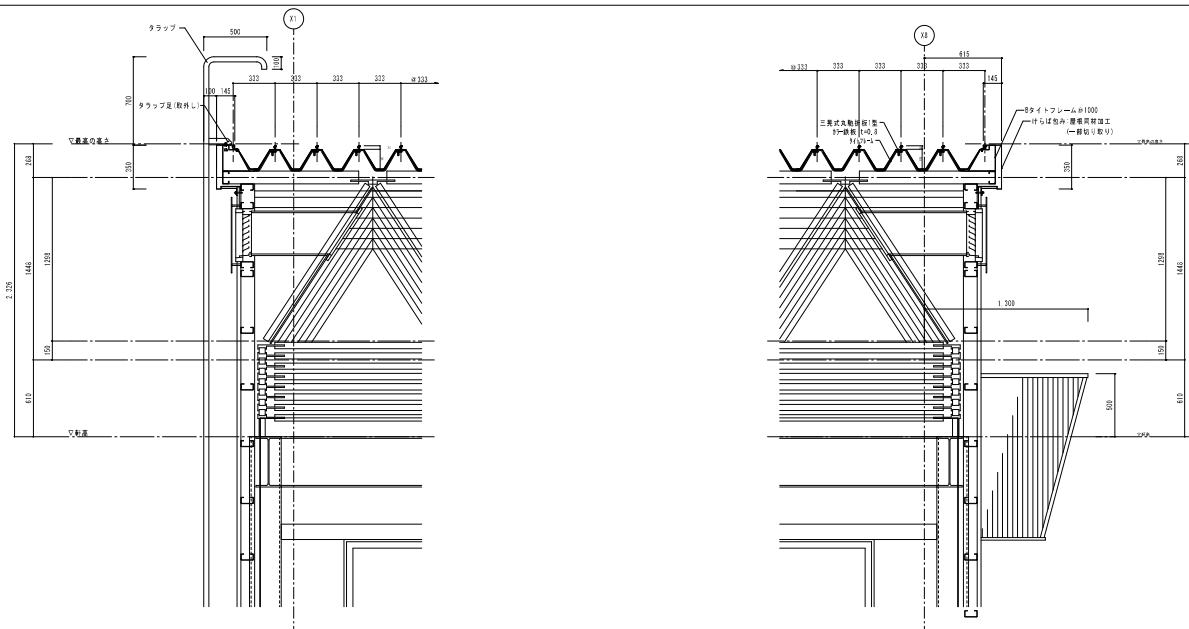
棟部 断面図 改修前



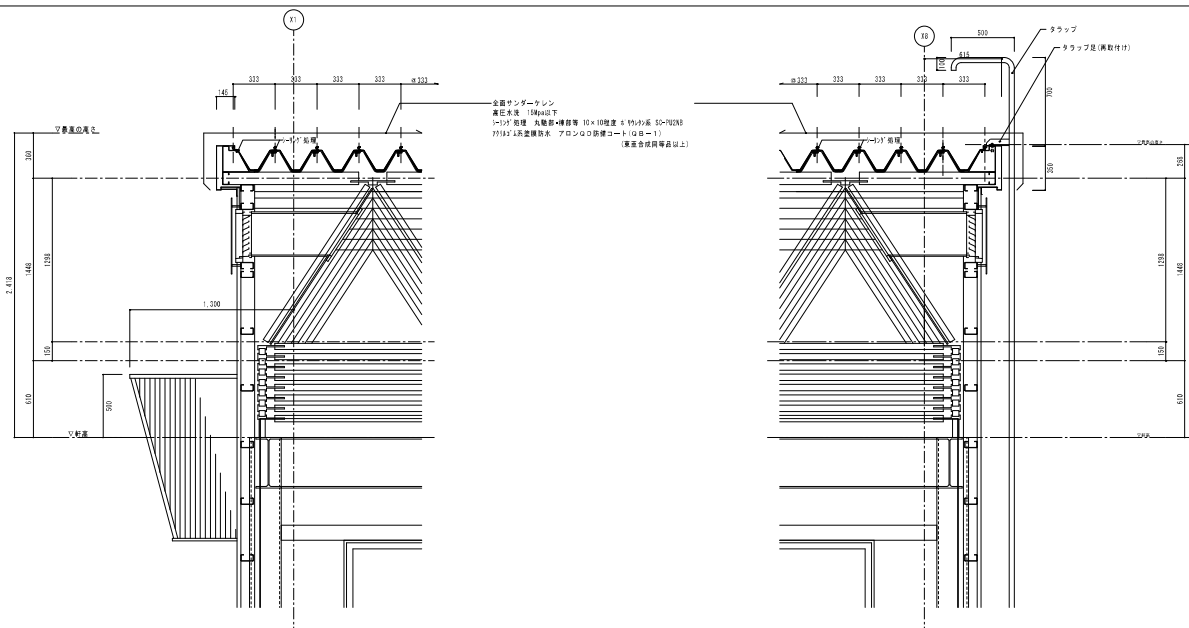
棟部 断面図 改修後

GENERAL PLANNING	
EXECUTIVE DESIGN	


TITLE	市場体育館大規模改修工事	DATE	—
DRAWING	屋根詳細図 2 改修前・改修後	SCALE	A2 : 1/30 A3 : × 70%
DESIGN		REV.	A-37

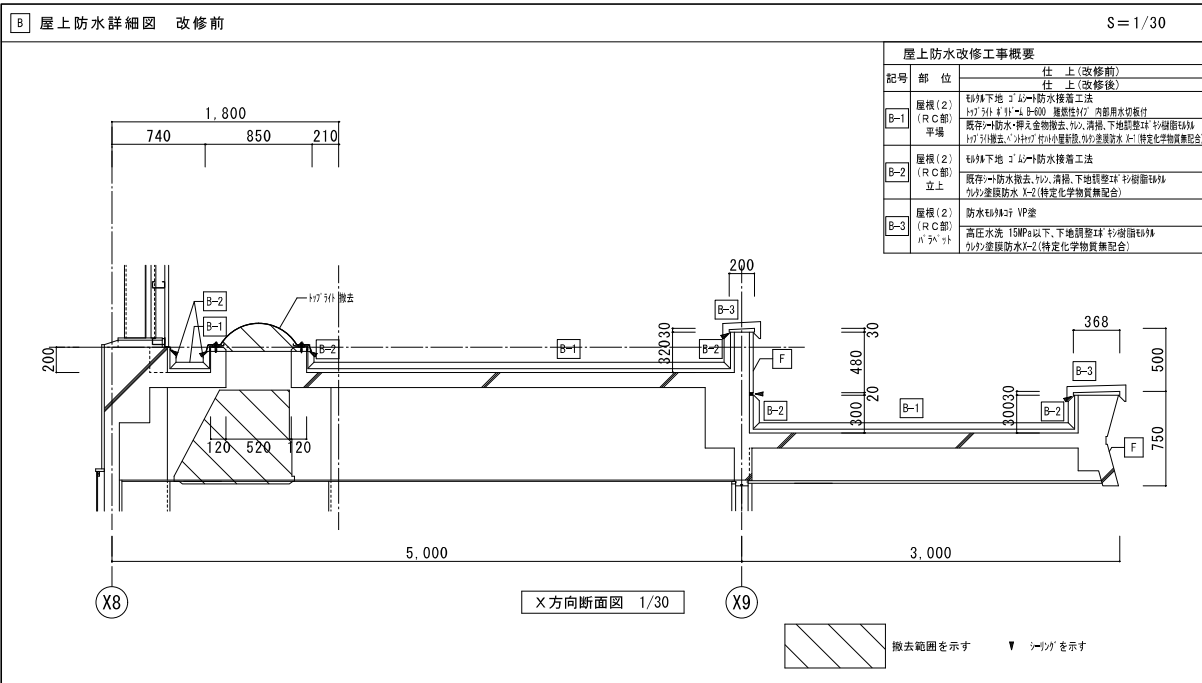


ケラバ部 断面図 改修前

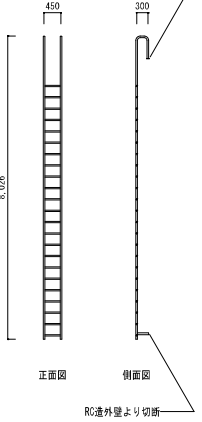
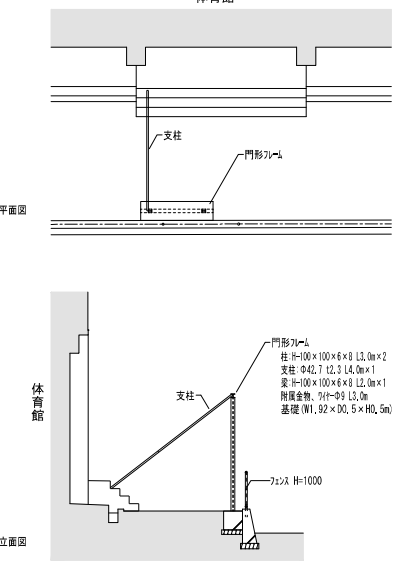
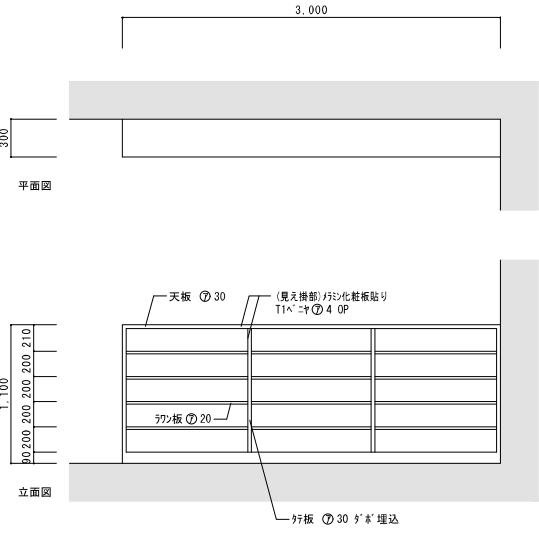
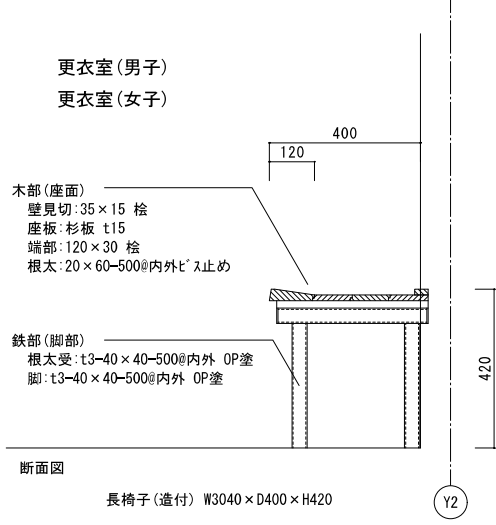
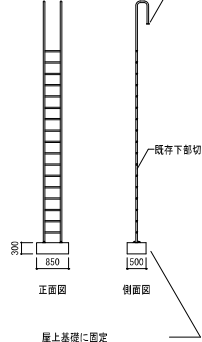
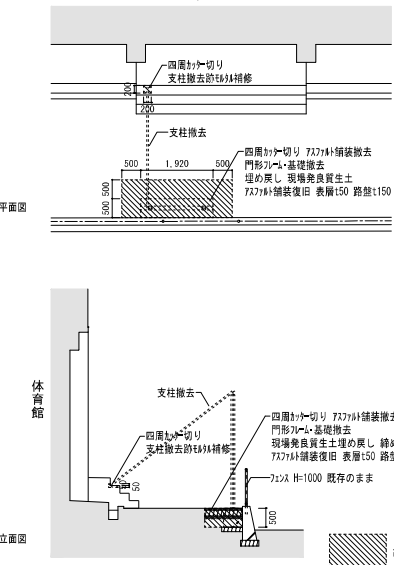
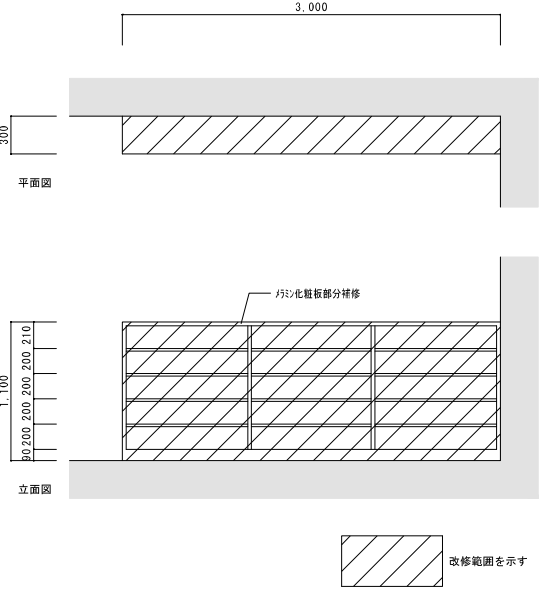
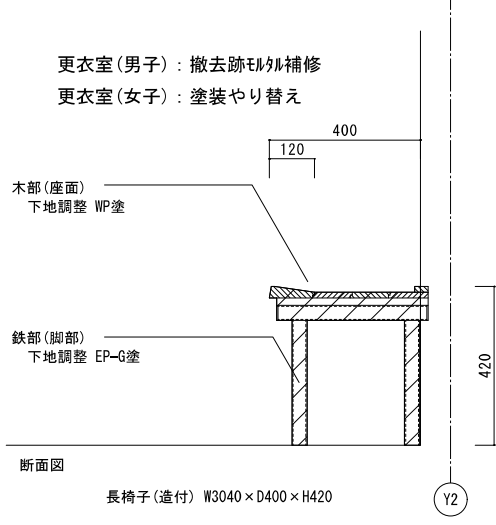


ケラバ部 断面図 改修後

GENERAL PLANNING		<div></div> <div>一級建築士 第 326775 号 岩佐浩司</div>	TITLE	市場体育館大規模改修工事	DATE	—
ARCHITECT DESIGN			DRAWING	屋根改修詳細図 3 改修前・改修後	SCALE	A2 : 1/30 A3 : × 70%
			ORDER		REL.	A-38



<div> <div> <div>N</div> <div>手洗い・足洗い詳細図 改修前</div> </div> <div> <div>S=1/30</div> </div> </div> <div> <div> <div> <div>Y1</div> <div>X4</div> <div>X5</div> </div> <div>平面図</div> <div>断面図</div> <div>撤去範囲を示す</div> </div> </div>	<div> <div> <div>L</div> <div>スロープ詳細図 改修前</div> </div> <div> <div>S=1/30・1/100</div> </div> </div> <div> <div> <div> <div><改修前></div> <div>立断面図</div> <div>平面図</div> <div>撤去範囲を示す</div> </div> <div> <div> <div>スロープ断面図 改修前 1/30</div> <div>スロープ断面図 改修前 1/30</div> <div>撤去範囲を示す</div> </div> </div> </div> </div>
<div> <div> <div>N</div> <div>手洗い・足洗い詳細図 改修後</div> </div> <div> <div>S=1/30</div> </div> </div> <div> <div> <div> <div>Y1</div> <div>X4</div> <div>X5</div> </div> <div>平面図</div> <div>立面図</div> <div>改修範囲を示す</div> </div> </div>	<div> <div> <div>L</div> <div>スロープ詳細図 改修後</div> </div> <div> <div>S=1/30・1/100</div> </div> </div> <div> <div> <div> <div><改修後></div> <div>立断面図</div> <div>平面図</div> <div>改修範囲を示す</div> </div> <div> <div> <div>スロープ断面図 改修後 1/30</div> <div>スロープ断面図 改修後 1/30</div> <div>改修範囲を示す</div> </div> </div> </div> </div>

<div><div>0壁タラップ詳細図改修前</div><div>S=1/100</div></div> <div><p><改修前></p><p>外壁SUSタラップ：支柱φ42.7φ、踏板34φ</p><p>折板屋根ケラバ包みに7φ材取外し</p><p>正面図 側面図</p><p>R2造外壁より切断</p></div>	<div><div>P門形フレーム改修前</div><div>S=1/30</div></div> <div><p>体育館</p><p>支柱 門形フレーム</p><p>体育館</p><p>支柱 門形フレーム</p><p>柱：H=100×100×6×8 L3.0m×2</p><p>支柱：φ42.7 L2.3 L4.0m×1</p><p>梁：H=100×100×6×8 L2.0m×1</p><p>附置金物：9φ-9φ L3.0m</p><p>基礎：W1.82×D0.5×H0.5m</p><p>ガラス H=1000</p><p>立面図</p></div>	<div><div>5-1下足箱詳細図改修前</div><div>S=1/30</div></div> <div><p>3,000</p><p>300</p><p>平面図</p><p>1,100</p><p>90 200 200 200 210</p><p>立面図</p><p>天板 φ30</p><p>(見え掛部) 化粧化粧貼り T11×11×φ4 OP</p><p>7φ7φ板 φ20</p><p>7φ7φ板 φ30 9φ材埋込</p></div>	<div><div>5-2長椅子詳細図改修前</div><div>S=1/10</div></div> <div><p>更衣室(男子)</p><p>更衣室(女子)</p><p>木部(座面)</p><p>壁見切：35×15 桧</p><p>座板：杉板 t15</p><p>端部：120×30 桧</p><p>根太：20×60-500@内外t止め</p><p>鉄部(脚部)</p><p>根太受：t3-40×40-500@内外 OP塗</p><p>脚：t3-40×40-500@内外 OP塗</p><p>断面図</p><p>長椅子(造付) W3040×D400×H420</p><p>Y2</p></div>
<div><div>0壁タラップ詳細図改修後</div><div>S=1/100</div></div> <div><p><改修後></p><p>外壁SUSタラップ：撤去、保管、材寸調整、移設再取付</p><p>折板屋根ケラバ包みに7φ材固定 SUS FB-t6 70×200 2-M12×2ヶ所</p><p>正面図 側面図</p><p>既存下部切断加工</p><p>屋上基礎に固定 SUS FB-t6 70×200 2-M12×2ヶ所 防水工事完了後取付、取付7φ材周囲シーリング</p><p>基礎配筋：屋根スラブに差筋7φ材 D-13×4根</p><p>×→スラブ-10R2009φ材、四周端部D-13</p><p>スラブ厚度：FC21-SL15-20W</p></div>	<div><div>P門形フレーム改修後</div><div>S=1/30</div></div> <div><p>体育館</p><p>四角材切り 支柱撤去跡残骸補修</p><p>支柱撤去</p><p>四角材切り 7φ7φ材舗装撤去</p><p>門形フレーム基礎撤去</p><p>現場改良質生土埋め戻し</p><p>7φ7φ材舗装復旧 表層t50 路盤t150</p><p>体育館</p><p>支柱撤去</p><p>四角材切り 支柱撤去跡残骸補修</p><p>門形フレーム基礎撤去</p><p>現場改良質生土埋め戻し 締め固め</p><p>7φ7φ材舗装復旧 表層t50 路盤t150</p><p>ガラス H=1000 既存のまま</p><p>立面図</p><p>改修範囲を示す</p></div>	<div><div>5-1下足箱詳細図改修後</div><div>S=1/30</div></div> <div><p>3,000</p><p>300</p><p>平面図</p><p>1,100</p><p>90 200 200 200 210</p><p>立面図</p><p>化粧化粧板部分補修</p><p>改修範囲を示す</p></div>	<div><div>5-2長椅子詳細図改修後</div><div>S=1/10</div></div> <div><p>更衣室(男子)：撤去跡残骸補修</p><p>更衣室(女子)：塗装やり替え</p><p>木部(座面)</p><p>下地調整 WP塗</p><p>鉄部(脚部)</p><p>下地調整 EP-G塗</p><p>断面図</p><p>長椅子(造付) W3040×D400×H420</p><p>Y2</p><p>改修範囲を示す</p></div>
<div>GENERAL PLANNING</div> <div>EXECUTIVE DESIGN</div>		<div><div>株式会社 平島弘之+TEAM28</div><div>HIROYUKI HEISHIMA ARCHITECT & TEAM28 ASSOCIATES</div><div>一級建築士 第 326775 号 岩佐浩司</div></div>	<div><div>TITLE</div><div>市場体育館大規模改修工事</div><div>DATE</div><div>—</div><div>GRAPHIC</div><div>部分詳細図 3 改修前・改修後</div><div>SCALE</div><div>A2: 1/10・1/30・1/100 A3: × 70%</div><div>CHECK</div><div>NO.</div><div>A-41</div></div>